

多賀城市観光推進プロジェクト事業 に関する調査研究

平成28年3月

宮城県 多賀城市
一般財団法人 地方自治研究機構

多賀城市観光推進プロジェクト事業 に関する調査研究

平成28年3月

宮城県 多賀城市
一般財団法人 地方自治研究機構

はじめに

少子高齢化の進行に伴う本格的な人口減少社会が現実のものとなる中で、地方では雇用の安定や個人所得の緩やかな改善がみられ、地域経済の好循環に向けた動きが波及しつつある一方、地方公共団体を取り巻く環境の変化は厳しさを増しています。地方公共団体は、安心・安全の確保、地域産業の振興、地域の活性化、公共施設の維持管理等の複雑多様化する課題を地域の特性に即して解決していかなくてはなりません。

また、住民に身近な行政は、地方公共団体が自主的かつ主体的に取り組むとともに、地域住民が自らの判断と責任において地域の諸課題に取り組むことが重要となってきました。

このため、当機構では、地方公共団体が直面している諸課題を多角的・総合的に解決するため、個々の地方公共団体が抱える課題を取り上げ、当該地方公共団体と共同して、全国的な視点と地域の実情に即した視点の双方から問題を分析し、その解決方策の研究を実施しています。

本年度は3つのテーマを具体的に設定しており、本報告書は、そのうちの一つの成果を取りまとめたものです。

本調査研究では、特別史跡多賀城跡に代表される歴史的遺産や歌枕など、多くの文化的遺産に恵まれ、他の観光地と比較して、県内でも極めて特徴的な存在となっているものの、隣接する仙台市や塩竈市・松島町方面の通過点となっている多賀城市の観光の現状と課題等を踏まえ、本市ならではの居心地の良い観光地づくり、地域経済の活性化、雇用の場の確保等を推進するため、本市の魅力の再発見・創造・情報発信等を通じて観光を推進する方策を検討しました。

本研究の企画及び実施に当たりましては、研究委員会の委員長及び委員をはじめ、関係者の方々から多くの御指導と御協力をいただきました。

また、本研究は、公益財団法人 日本財団の助成金を受けて、多賀城市と当機構が共同で行ったものです。ここに謝意を表する次第です。

本報告書が広く地方公共団体の施策展開の一助となれば幸いです。

平成 28 年 3 月

一般財団法人 地方自治研究機構
理事長 山中 昭 栄

目次

| | |
|-----------------------------|-----|
| 序章 調査研究の概要 | 3 |
| 1 調査研究の背景と目的 | 3 |
| 2 調査研究の項目と方法 | 3 |
| 3 調査研究の体制 | 4 |
| 4 検討作業の流れ | 5 |
| 第1章 本市の現況 | 9 |
| 1 概況 | 9 |
| (1)地勢と歴史 | 9 |
| (2)交通の現状 | 10 |
| (3)人口・世帯数 | 13 |
| (4)産業の状況 | 15 |
| 2 観光の状況 | 18 |
| (1)本市内の観光スポット分析 | 19 |
| (2)主な観光資源・施設 | 21 |
| (3)主な祭り・イベント | 26 |
| (4)観光客入込数 | 28 |
| (5)宮城県内で集客している観光スポットの共通項 | 33 |
| (6)全国の「歴史」をテーマにした観光都市の事例と傾向 | 38 |
| 第2章 本市の現状と可能性 | 41 |
| 1 アンケート調査 | 41 |
| (1)多賀城市民意識調査結果 | 41 |
| (2)仙台市及び周辺自治体住民意識調査結果 | 55 |
| (3)多賀城市周辺観光地観光動向アンケート調査結果 | 61 |
| 2 ヒアリング調査 | 76 |
| (1)委員ヒアリング | 76 |
| (2)検討部会 | 77 |
| (3)キーパーソン調査 | 81 |
| (4)マスメディア・有識者調査 | 82 |
| 第3章 調査結果の分析 | 87 |
| 1 アンケート調査・ヒアリング調査の結果とまとめ | 87 |
| (1)本市の強み・課題 | 87 |
| (2)今後の可能性 | 90 |
| 2 観光商業施設に係る事例調査 | 94 |
| (1)全国観光商業施設（道の駅）の統計資料検証 | 94 |
| (2)道の駅の成功事例 | 96 |
| (3)本市周辺の観光商業施設とその機能 | 103 |

| | |
|------------------------|-----|
| 第4章 観光推進プロジェクトのまとめ | 107 |
| 1 テーマ設定までの流れ | 107 |
| 2 資源を活かした観光推進の施策の方向性 | 108 |
| 3 キーワードと本市の資源に対する意見の整理 | 109 |
| 4 プロジェクトのまとめ・総括 | 115 |
| 事業化の展開例について | 119 |
| 資料編 | 139 |
| 調査研究委員会名簿 | 155 |
| 検討部会名簿 | 159 |

序章

序章 調査研究の概要

1 調査研究の背景と目的

多賀城市(以下、「本市」という。)においては、地方に共通する少子高齢化の進展、若年層の都市部への流出による人口減少に加え、東日本大震災により甚大な被害を被ったことによる人や企業の流出等が重なり、地域の活力の低下への対応が喫緊の課題となっている。

このような状況の中、震災から5年余が経過し、これまで重点的に取り組んできた復旧・復興事業に加え、地域の活性化に資する施策に取り組むことが求められている。

本調査研究では、隣接する仙台市や塩竈市・松島町方面の通過点となっている本市の観光の現状と課題等を踏まえ、本市ならではの魅力のある中心市街地、「東北随一の文化交流拠点」の形成の整備を契機として、これを核にした居心地の良い観光地づくり、地域経済の活性化、雇用の場の確保等を推進するため、本市の魅力の再発見・創造・情報発信等を通じて、本市の観光を推進する方策を検討することを目的とする。

2 調査研究の項目と方法

観光推進プロジェクトの方向性を出すための数値データなどの客観的な裏付けや、検討部会や調査研究委員会(以下、「委員会」という。)で提案された戦略仮説の検証のため、女性、若者、本市内外の有識者や活動団体等に本市の課題やニーズ、提案等をアンケート及びヒアリングにより把握・分析、その結果を検討部会及び委員会にフィードバックする。

| 調査名 | 目的 | 調査方法 | 調査結果の反映 |
|------------------|---|-------|---|
| 多賀城市民意識調査 | 20歳以上の本市の住民に、本市の資源、イメージ、愛着、魅力、観光振興の課題等を把握するため、アンケート調査を実施した。 ヒアリングや検討部会等の定性調査の結果を裏付け補完するための定量調査として、数値化されたデータにより客観的に検証した。 また、地域資源の掘り起こしや、定性調査では拾いにくい、一般の女性や若者などの意見を属性などでクロス分析した。 | アンケート | 本市への愛着・誇り、イメージを把握するとともに、地域資源の再評価や、新たな資源の掘り起こしによる本市のブランド価値整理、周辺自治体住民や周辺観光地来訪者等との比較分析によるイメージギャップや、課題と魅力の明確化へ。 |
| 仙台市及び周辺自治体住民意識調査 | 市場として一番に狙うべきターゲットは、1時間圏の集客圏内である仙台市商圏100万人と想定される。 まずは週末観光を狙うため、仙台市、東松島市、塩竈市、松島町等、本市周辺自治体住民の意識調査を実施した。 住民向けアンケートと同一の選択肢(住民にとっては当たり前のもや本市にはあり得ないものも含む)等を用い、本市の住民や地元のキーパーソンとの比較分析による認知度やイメージギャップ、課題と魅力を明確化した。 | アンケート | 決まった展開(施設や動機)の魅力度や課題を調査することによる戦略仮説等の検証とともに、本市の認知度やイメージギャップ等の結果を基に、シティプロモーションなどの施策の展開へ。 |

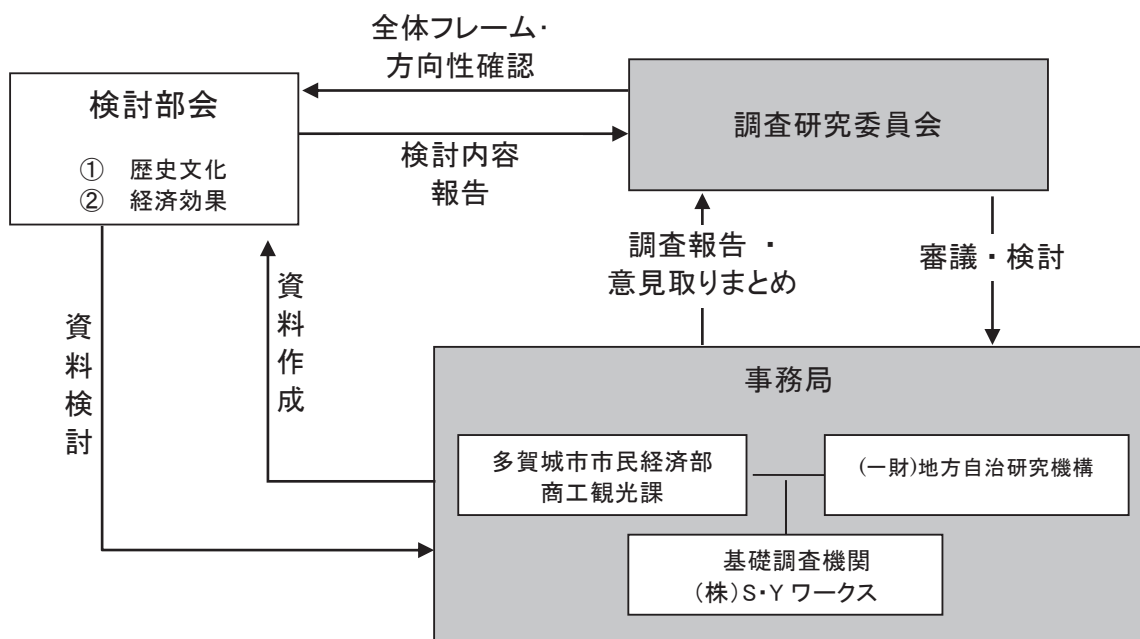
| | | | |
|----------------------|---|-------|---|
| 先進事例調査 | 検討部会の検討内容に資する基礎資料作成のため、例えば、道の駅や物産館等の新しい誘客施設設置に想定される課題やコスト、成功要因（商圈、テーマ、商品・サービス、運営形態）を把握するため、先進事例調査を実施した。 | 文献 | 検討部会の基礎資料とするとともに、戦略仮説の検証へ。 |
| キーパーソン調査 | 本市内の若者、女性、観光事業者、ボランティアガイド、特産品開発・地域づくり等に活躍している住民や団体、有識者等に対し、本市の魅力、活動実態、観光振興の課題の把握、また、プロジェクトの検証等のため、集団ヒアリングを実施した。 | ヒアリング | 地域資源、組織、人材等の掘り起こしや再評価により、観光振興の課題と対策、将来の観光振興の担い手としての可能性等の検討へ。 |
| 多賀城市周辺観光地観光動向アンケート調査 | 本市の認知度、観光の際の行動、ニーズ等を把握するため、県立都市公園松島公園及び仙台うみの杜水族館でのアンケート票による対面調査を実施した。 | アンケート | どのような周遊ルートをとっているのか、本市に立ち寄りたいと思う施設や資源、その理由等を把握、誘客に必要な施策、導線等の検証へ。 |
| マスメディア・有識者調査 | 一般的な観光客属性、観光目的、観光ルート、旅行商品、マスメディアへの掲載内容、本市の観光資源に対する評価等を把握するため、市外の観光事業や観光振興に知見のある有識者、事業者等にヒアリング調査を実施した。 一定の、方向性や施策が見えた段階で、その評価や課題について検証した。 | ヒアリング | 市場の視点・専門家の視点による、戦略仮説等に対する評価を把握、ターゲットの属性や、課題に対する専門家のアドバイスによる改善策、市場とのコラボ商品の開発等の検討へ。 |

3 調査研究の体制

本調査研究を進めるに当たり、有識者、関係団体、学識経験者、行政関係者等による調査研究委員会及び検討部会を設置し、審議・検討を行った。

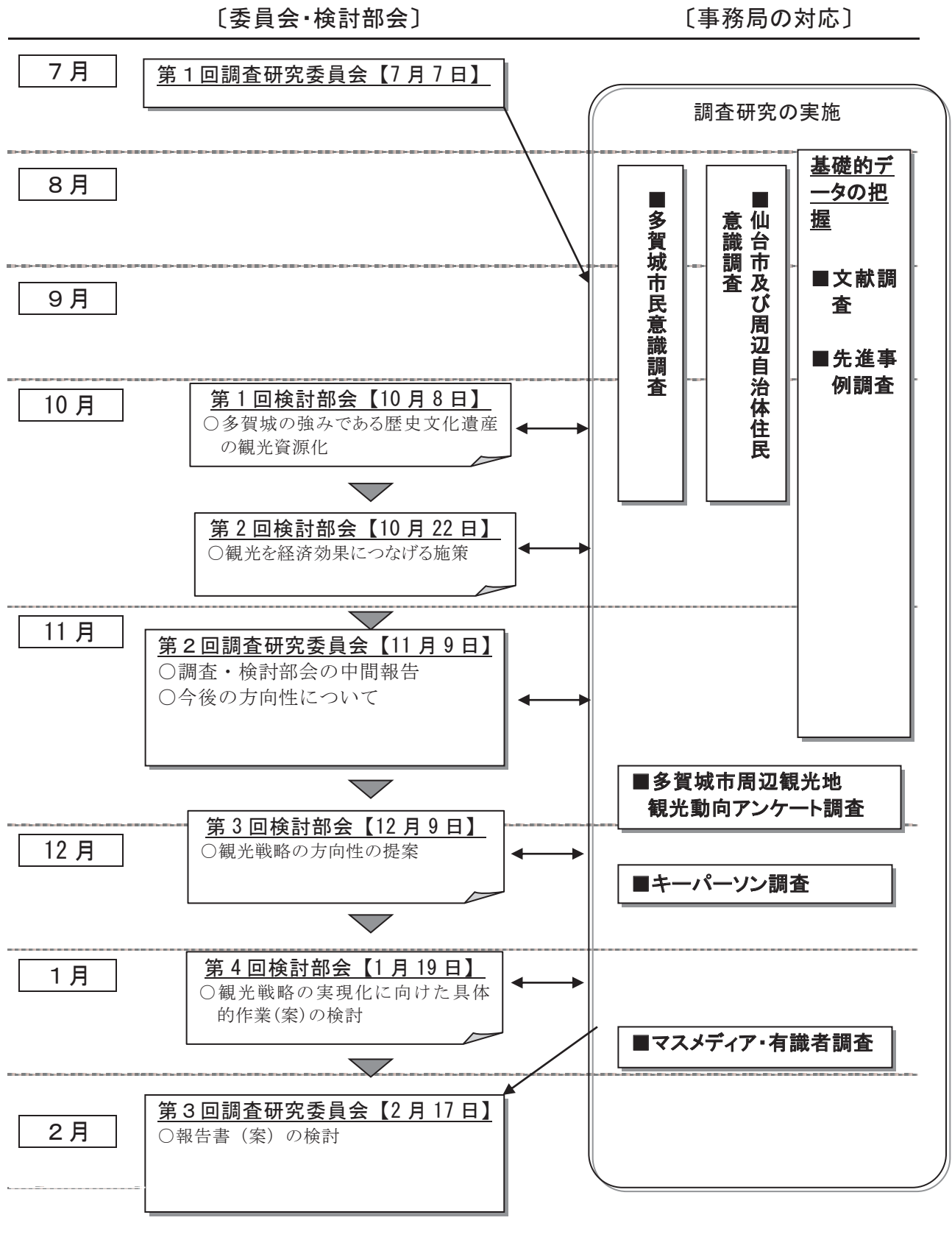
委員会及び検討部会の下に事務局を設け、本研究の具体的な推進に必要な事務、調査及び調整を行った。

図表 0-1 調査研究の体制



4 検討作業の流れ

図表0-2 調査研究の流れ



第 1 章 本市の現況

第1章 本市の現況

1 概況

(1) 地勢と歴史

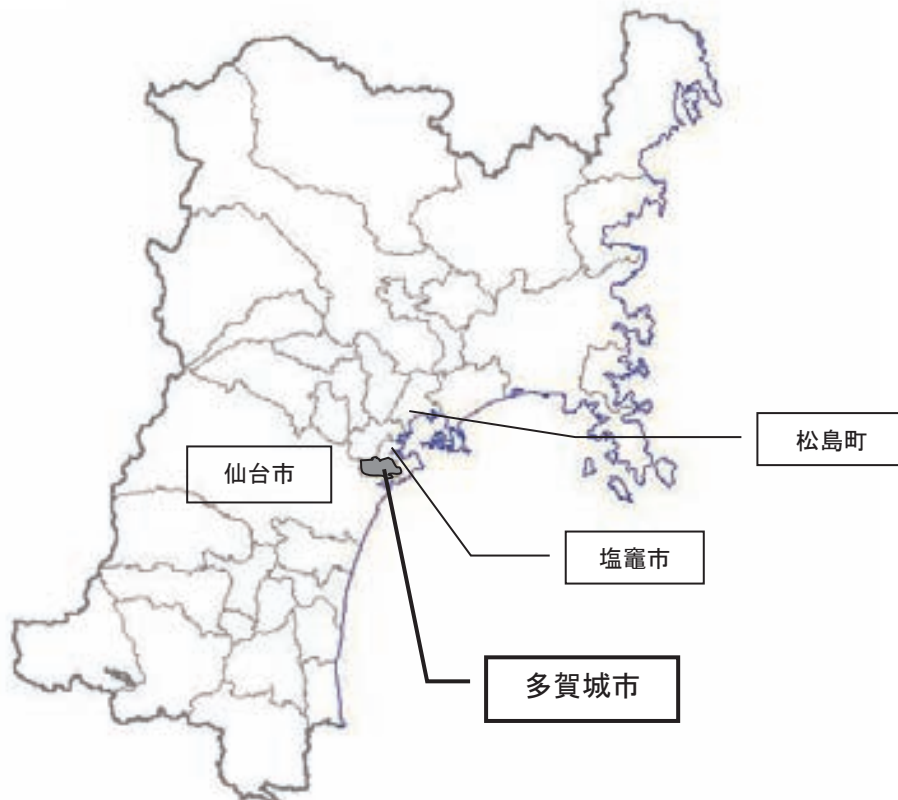
本市は宮城県のほぼ中央、太平洋側に位置し、周辺には、県庁所在地の仙台市や漁港で有名な塩竈市、そして日本三景の一つ松島などがある、面積 19.69 平方キロメートルの小さい都市の部類に属する市である。

まちの地形は東西に長く、市域を2分するように砂押川が流れている。

東部や北部には史跡が点在し、海に近い南部の平野には工場地帯が形成され、西部地区の平野には多くの田畑が広がっている。

中央部には、JR仙台駅、JR仙石線あおば通駅に次ぐ乗車人員を誇るJR多賀城駅（平成26年度1日平均乗車人数6,402人「JR東日本調べ」）を有するものの、本市は国道45号沿いに発展してきたため商店はロードサイド店が多く、平成14年9月にJR多賀城駅前の大規模商業施設が撤退した影響もあり、以前から市の中心部が存在しない「へそのないまち」と言われてきた。

図表1-1 多賀城市の位置



本市の礎は神亀元年(724年)に陸奥国の国府として、市城北西部の丘陵に多賀城が築かれたことに由来する。9世紀初めまで鎮守府も置かれ、約300年間、出羽国まで含めた東北全域における政治・軍事の中心都市として栄えた。日本全体の中でも、西の大宰府に対応する東の政治都市として重要な位置にあった。

多賀城は古代東北全体における政治の中心地であったため、大伴家持をはじめ、平安時代には陸奥出羽按察使に任命された源融など、多くの高い教養をもった上級官人が赴任していた。

10世紀初めに成立した最初の勅撰集「古今和歌集」には、本市の「すゑの松山」を詠み込んだ歌がみえる。当地で作られた「みちのくうた」が都に伝わり、勅撰集に選ばれることで、本市の「末の松山」、「沖の井」、「壺碑」などが歌枕(多くの人が和歌に詠み込んだ名所・旧跡)として徐々に定着していった。

これらの歌枕に憧れて、西行法師、松尾芭蕉などが当地を訪れ、その感動をそれぞれ「山家集」、「おくのほそ道」に書き記している。

現在も本市に残る特別史跡多賀城跡附寺跡、国の重要文化財の多賀城碑、歌枕などが、地域に親しまれ、多くの人々にその歴史や文化を伝えている。

(2) 交通の現状

ア 鉄道交通

本市にはJR東北本線とJR仙石線の2本の鉄道が通っており、それぞれが本市内に駅を有しているため、観光においても重要な交通機関になるものと考えられる。

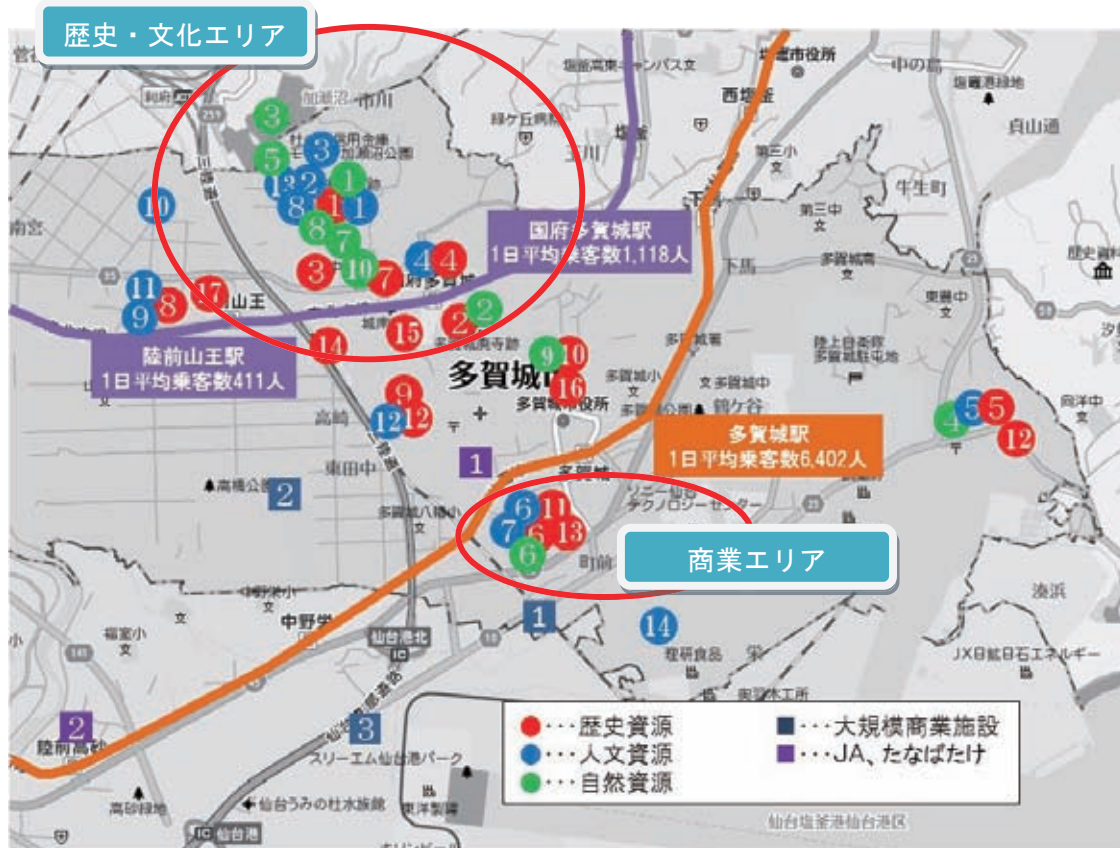
JR仙石線の多賀城駅は平成26年度1日平均乗車人数が6,402人と、JR東北本線の国府多賀城駅の乗車人数の5.7倍となっている。

現在の乗車人員数から考えると、また、JR多賀城駅北街区に建設中の再開発ビルへの市立図書館の移転と併せ、同ビル内に蔦屋書店を誘致し、地産地消レストラン、カフェ、新業態のコンビニエンスストア等を併設することにより、JR多賀城駅の乗降客数が今後更に伸びると想定した場合、電車で本市を訪れた際の玄関口はJR多賀城駅が中心になると推察される。観光においても、多賀城観光の玄関口としての役割はJR多賀城駅が担う可能性が高いと考えられる。

一方で、観光資源の立地を見ると、東北歴史博物館や多賀城跡をはじめとした本市内の観光資源の多くは乗車人員の少ないJR国府多賀城駅周辺に位置していることが分かる。

そのため、JR国府多賀城駅を利用してもらうための仕掛けや情報発信が必要であり、また、JR多賀城駅とJR国府多賀城駅を結ぶ2次交通の整備・拡充も必要と考えられる。

図表1-2 本市内の観光資源の分布とJR線各駅の乗車人数



- | | | | |
|---|---|---|---|
| <p>【歴史資源】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ ①多賀城跡 ②多賀城廃寺跡 ③多賀城碑 ④浮島 ⑤柏木遺跡 ⑥沖の井 ⑦館前遺跡 ⑧山王遺跡 ⑨高崎遺跡 ⑩野田の玉川 ⑪束の松山 ⑫大代横穴墓群 ⑬おもむくの橋 ⑭市川橋遺跡 ★ ⑮東北歴史博物館 ⑯埋蔵文化調査センター ⑰山王・南宮板倉 | <p>【人文資源】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①多賀城神社 ②多賀神社 ★ ③陸奥総社宮 ④浮島神社 ⑤柏木神社 ⑥喜太郎神社 ⑦宝国寺 ⑧貴船神社 ⑨日吉神社 ⑩南宮神社 ⑪慈雲寺 ⑫化度寺 ⑬荒屋巾神社 | <p>【自然資源】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①多賀城跡桜 ②さざんかの森 ★ ③加瀬沼 ④貞山運河 ⑤六月坂桜 ⑥沖の井 ⑦ハギ大路 ⑧塩釜街道 ⑨山王・南宮板倉 ⑩野田の玉川 ★ ⑪あやめ園 | <p>【大規模商業施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ ①イオン ★ ②ヨークベニマル ★ ③三井アウトレットパーク仙台港 <p>★印は1万人以上の観光客を誘引している著名な施設</p> |
|---|---|---|---|

イ 自動車交通

仙台市から本市内に入る導線として、国道 45 号と、その南北を走る県道(主要地方道)泉塩釜線、仙台塩釜線(産業道路)の 3 つの経路があげられる。

観光資源が多く存在するのは、塩釜街道とも呼ばれる江戸時代からの街道の後継である泉塩釜線沿いであるが、自動車の通行量を見ると、仙台塩釜線の 4 分の 1、国道 45 号の 3 分の 1 程度しかないと、本市を通過する人々の多くは、本市の歴史資源をほとんど目にすることなく、本市内を通過していると考えられる。そのため、既存の観光資源に観光客を呼び込むためには、多賀城跡付近でイベント等を行うことと併せて、国道 45 号及び仙台塩釜線から JR 国府多賀城駅近辺の観光スポットへ誘引する仕掛けが必要不可欠と考えられる。

また、多賀城インターチェンジが平成 28 年 3 月に供用開始されることから、住民及び観光客に対する利便性が向上し、通行量の増加が期待できる。

図表 1-3 本市内の観光資源の分布と主要道の交通量

至 塩竈市・松島町



至 仙台市

【歴史資源】

- ★ ①多賀城跡
- ②多賀城奥寺跡
- ③多賀城碑
- ④浮島
- ⑤柏木遺跡
- ⑥沖の井
- ⑦館前遺跡
- ⑧山王遺跡
- ⑨高崎遺跡
- ⑩野田の玉川
- ⑪末の松山
- ⑫大代横穴墓群
- ⑬おもわくの橋
- ⑭市川橋遺跡
- ★ ⑮東北歴史博物館
- ⑯埋蔵文化調査センター
- ⑰山王・南宮板倉

【人文資源】

- ①多賀城神社
- ②多賀神社
- ★ ③陸奥総社宮
- ④浮島神社
- ⑤柏木神社
- ⑥喜太郎神社
- ⑦宝国寺
- ⑧貴船神社
- ⑨自吉神社
- ⑩南宮神社
- ⑪慈雲寺
- ⑫化度寺
- ⑬気腰巾神社

【自然資源】

- ①多賀城跡桜
- ②さざんかの森
- ★ ③加瀬沼
- ④貞山運河
- ⑤六月坂桜
- ⑥沖の井
- ⑦ハギ大路
- ⑧塩釜街道
- ⑨山王・南宮板倉
- ⑩野田の玉川
- ★ ⑪あやめ園

【大規模商業施設】

- ★ ①イオン
- ★ ②ヨークベニマル
- ★ ③三井アクトレックパーク仙台港

★印は1万人以上の観光客を誘引している著名な施設

(3) 人口・世帯数

ア 人口・世帯数の推移

本市の人口の推移をみると、国勢調査では平成2年から平成22年間の20年間で4,604人増加し、63,060人となった。震災の影響から一時人口が減少したが、それ以降は徐々に増加している。

世帯数も同20年間の間に5,515世帯増加し、24,047世帯となっており、それ以降も増加し、平成27年には25,842世帯となっている。

図表1-4 人口・世帯数の推移

(単位：人)

| | 平成2年 | 平成7年 | 平成12年 | 平成17年 | 平成22年 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 人口(人) | 58,456 | 60,625 | 61,457 | 62,745 | 63,060 |
| 世帯数(世帯) | 18,532 | 20,921 | 22,014 | 22,881 | 24,047 |

(資料：国勢調査)

(単位：人)

| | 平成24年 | 平成25年 | 平成26年 | 平成27年 |
|---------|--------|--------|--------|--------|
| 人口(人) | 61,942 | 62,203 | 62,437 | 62,413 |
| 世帯数(世帯) | 24,715 | 25,103 | 25,522 | 25,842 |

(資料：住民基本台帳より毎年12月31日人口を抜粋)

イ 人口構成

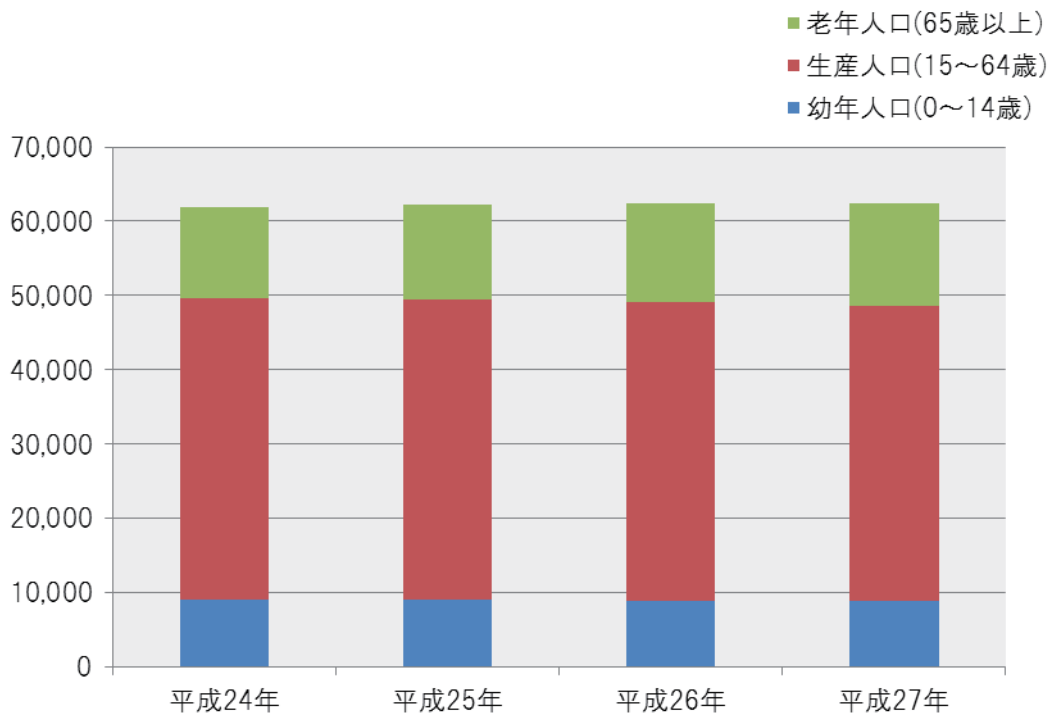
本市の平成 24 年以降の人口構成をみると、平成 27 年の男女別ではほぼ同数の構成となっている。年齢別は、幼年人口は 8,801 人、老年人口は 13,776 人おり、構成割合は、幼年人口・生産人口ともに減少し、老年人口が増加しており、本市においても少子高齢化が進みつつあることがうかがえる。

図表 1-5 人口構成の推移

(単位：人)

| | | 平成 24 年 | 平成 25 年 | 平成 26 年 | 平成 27 年 |
|------|-------------------|---------|---------|---------|---------|
| 男女別 | 男性 | 30,961 | 31,041 | 31,062 | 31,152 |
| | 女性 | 30,981 | 31,162 | 31,172 | 31,261 |
| 年齢別 | 幼年人口 (0～14 歳) | 9,075 | 9,001 | 8,984 | 8,801 |
| | 生産人口 (15～64 歳) | 40,627 | 40,409 | 40,387 | 39,836 |
| | 老年人口 (65 歳以上) | 12,240 | 12,793 | 12,863 | 13,776 |
| 人口総数 | | 61,942 | 62,203 | 62,234 | 62,413 |

(資料：住民基本台帳より毎年 12 月 31 日の人口を抜粋)



ウ 人口動態

本市の平成23年以降の人口動態をみると、平成27年の社会動態において、転入3,998人に対し転出が4,148人と転出超過の状況となっている。

図表1-6 自然動態の推移

(単位：人)

| | 平成23年 | 平成24年 | 平成25年 | 平成26年 | 平成27年 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 出生(人) | 631 | 600 | 600 | 583 | 148 |
| 死亡(人) | 589 | 432 | 466 | 479 | 433 |
| 増減(人) | 42 | 168 | 134 | 104 | △285 |

(資料：宮城県統計 推計人口(年報))

図表1-7 社会動態の推移

(単位：人)

| | 平成23年 | 平成24年 | 平成25年 | 平成26年 | 平成27年 |
|-------|--------|-------|-------|-------|-------|
| 転入(人) | 3,765 | 4,286 | 4,249 | 4,328 | 3,998 |
| 転出(人) | 5,350 | 4,142 | 4,176 | 4,118 | 4,148 |
| 増減(人) | △1,585 | 144 | 73 | 210 | △150 |

(資料：宮城県統計 推計人口(年報))

(4) 産業の状況

本市は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、市域の3分の1が津波浸水の被害を受け、その市域のほとんどが市街化区域であったために、多くの住居や工場、事業所が甚大な被害を受けた。その結果、JR多賀城駅を中心とする中心市街地において、立地する事業所の撤退又は廃業による商業機能の低下とともに、本市の雇用の多くを支えてきた製造業を中心とした産業群を構成する工場地帯においても、事業縮小、撤退、廃業等が多く見られ、地域の雇用の喪失と地域経済の活力低下への対応が課題となっている。

この東日本大震災の被災による商店の廃業・撤退と、隣接する仙台市に新たな商圈が形成された影響により、平成25年4月18日にまとまった「2012年消費購買動向調査」においては、多賀城商圈の吸引人口は平成21年より47.8%減少し、危機的な状況下にある。

こうした状況の中で、本市では中心市街地の整備を本市復興のシンボルに位置付け、平成26年3月28日に宮城県の事業認可を受けた「多賀城駅北地区第一種市街地再開発事業」などにより、JR多賀城駅北街区に2棟の再開発ビルを建設することとしており、うち1棟への市立図書館の移転と併せ、同ビル内に蔦屋書店を誘致し、レストラン、カフェ、CD・DVD等のレンタルショップを併設した本市ならではの魅力ある中心市街地「東北随一の文化交流拠点」の形成を進めている。

さらには、東日本大震災の甚大な被害を踏まえ、今後の大災害に備えるため、本市八幡字一本柳地区に減災と産業復興を支援する「津波復興拠点」の整備を進めており、新たな工場を誘致・集積することで雇用の場を確保するとともに、進出企業との連携により工場施設や生産工程等を見学できる「産業観光」を創出することとしている。

また、本市に隣接する仙台港背後地（仙台市）には、大型の誘客施設（イベント施設、アウトレットモール、ビール工場、家電量販店等）が既に建設されているほか、平成27年7月には仙台うみの杜水族館が開業し、更なる誘客が見込まれている。

ア 就業人口の推移

本市の就業人口をみると、平成22年の第三次産業人口が22,099人と最も多く、就業人口全体の77.7%を占める。

図表1-8 就業人口の推移

(単位：人)

| | 平成2年 | 平成7年 | 平成12年 | 平成17年 | 平成22年 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 第一次産業人口 | 642 | 498 | 424 | 443 | 326 |
| 第二次産業人口 | 7,620 | 8,021 | 7,376 | 6,635 | 6,028 |
| 第三次産業人口 | 20,584 | 22,835 | 23,032 | 23,241 | 22,099 |
| 就業人口計 | 28,846 | 31,354 | 30,832 | 30,319 | 28,453 |

(資料：国勢調査)

イ 工業の推移

本市は、平成19年以降、事業所数、従業員数、製造出荷額のいずれにおいても減少の傾向にある。なかでも、東日本大震災を挟んだ平成24年は、製造出荷額が平成22年対比で45.0%に減少しており、大きな打撃を受けている。

図表1-9 本市内事業所数、従業員数及び製造品出荷額(従業者4人以上の事業所)

(単位：万円)

| | 平成19年 | 平成20年 | 平成21年 | 平成22年 | 平成24年 |
|-------|------------|------------|-----------|-----------|-----------|
| 事業所数 | 54 | 54 | 50 | 46 | 33 |
| 従業員数 | 3,421 | 3,499 | 3,271 | 2,341 | 1,486 |
| 製造出荷額 | 10,840,133 | 11,754,768 | 9,693,303 | 7,838,445 | 3,530,584 |

(資料：多賀城市の統計)

ウ 商業の推移

本市の商業は、商店数は減少傾向にあるものの、一店舗当たりの年商は増加している傾向がうかがえる。

商業のうち、商店数、従業員数、年間販売額の推移をみると、商店数及び従業者数は平成14年以降減少傾向にある。一方で年間販売額は、平成14年から平成16年にかけては減少傾向にあったが、それ以降は増加している。

図表1-10 商業の推移

| | 平成9年 | 平成11年 | 平成14年 | 平成16年 | 平成19年 | 平成26年 |
|----------------|--------|---------|---------|--------|--------|---------|
| 商店数(店) | 570 | 686 | 630 | 595 | 533 | 343 |
| 従業員数(人) | 3,872 | 5,477 | 5,267 | 5,044 | 4,973 | 2,676 |
| 年間販売額 (百万円) | 78,166 | 124,478 | 109,164 | 91,723 | 97,775 | 104,661 |

(資料：商業統計)

エ 農業の推移

本市の農業のうち、農家数、農地面積、農業従事者数をみると、いずれも減少傾向が顕著である。平成2年から平成22年の20年間で、農家数は67.2%、農地面積は64.8%、農業従事者数は41.7%に減少している。農業従事者数の減少が最も激しい状況にある。

図表1-11 農業の推移

| | 平成2年 | 平成7年 | 平成12年 | 平成17年 | 平成22年 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 農家数(戸) | 497 | 443 | 382 | 378 | 334 |
| 農地面積(ha) | 57,862 | 54,027 | 43,173 | 40,733 | 37,518 |
| 農業従事者数(人) | 2,746 | 2,372 | 2,032 | 1,461 | 1,146 |

(資料：多賀城市の統計)

また、平成25年度東北農政局調査によると、平成18年時点での耕作農地作付・生産状況をみてみると、次の表のように、生産量は品種・年次によって増減はあるものの、減少傾向にある。

図表 1-12 本市内耕作生産状況

(単位：千万円)

| | 平成 14 年 | 平成 15 年 | 平成 16 年 | 平成 17 年 | 平成 18 年 |
|--------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 野菜類 | 13 | 11 | 11 | 8 | 9 |
| 植木類(米) | 29 | 27 | 31 | 27 | 26 |
| 果樹類 | 1 | 1 | 1 | — | 1 |
| 花卉類 | 17 | 14 | 13 | 13 | 14 |
| 穀物類 | 1 | — | 1 | 1 | — |
| その他 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 合計 | 62 | 54 | 58 | 50 | 51 |

(資料：東北農政局『生産農業所得統計』)

2 観光の状況

本市の観光は、特別史跡多賀城跡に代表される歴史的遺産と、歌枕(多くの人が和歌に詠み込んだ名所・旧跡)などの文化的遺産が核となっており、他の観光地と比較して、県内でも極めて特徴的な存在となっている。

平成 25 年には、宮城県内の官民一体で取り組む大型誘客事業「destination キャンペーン」を実施し、本市を含む県内各地に多くの観光客が訪れ、本市においては「観光客入込数」も震災前と同程度まで回復したが、今後はこの状態の維持、向上を目指していくために、更なる努力や工夫が必要となる。

しかし、平城宮跡(奈良県)、大宰府跡(福岡県)とともに日本三大史跡に数えられている古代国府である多賀城跡などの歴史的遺産地域は、飲食・小売店が集中する中心市街地との間に距離があり、また特別史跡の制約で、周辺に物品販売施設が建設できない。

また、本市は塩竈市・松島町と仙台市の間に位置しており、仙台市方面からの観光客は塩竈市・松島町方面を目的地としていることが多く、まちの賑わい創出のためにも通過型から滞在型の観光地への転換を図っていく必要がある。

そのためには、本市の主な観光資源は市内に点在していることから、周辺自治体を訪れる観光客の動向も視野に入れた、広域的な観光導線の創出が課題となっている。

一方、JR 多賀城駅北地区の商業施設には、年間 120 万人の来場者を想定しており、また本市に隣接している仙台うみの杜水族館では、平成 27 年 7 月 1 日の開業以来、同年 11 月 16 日には入館者数 100 万人を突破した。商業機能の回復と、本市に点在する東北有数の観光資源である史跡に 200 万人以上の来場者をつなぐ「観光産業」の確立が叫ばれているところである。

加えて本市の玄関口である JR 多賀城駅は、隣町である七ヶ浜町の玄関口と

しての機能をも有し、七ヶ浜町民及び七ヶ浜町への観光客が多数利用している。このことから、七ヶ浜町も本市と同一エリアとして捉え、広域的な観光振興を本市は目指している。

(1) 本市内の観光スポット分布

ア 観光資源の分布

本市には、歴史・人文資源を中心に41ヶ所の観光資源の他、イオン、ヨークベニマルなどの大型商業施設が存在し、また三井アウトレットパーク仙台港もJR多賀城駅に隣接するJR中野栄駅の徒歩圏内にある。

本市内のJR東北本線・仙石線の各駅近隣にも観光資源は存在するが、その数はJR東北本線国府多賀城駅周辺が圧倒的に多いのが現状である。観光客の誘引力を持つ施設も、JR国府多賀城駅近辺に集中している。

一方、蔦屋書店を運営するカルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社(CCC)が指定管理する市立図書館がJR多賀城駅前に移転することから、今後はJR多賀城駅近辺も新たな観光客の誘引が可能になると考えられる。

しかし、JR国府多賀城駅近辺に多く存在する本市の観光資源は、市立図書館が移転する交通量・乗降客数ともに多いJR多賀城駅周辺からは1.5km離れているため、徒歩移動での散策は難しい位置関係にあり、2次交通の整備が必要である。

図表 1-13 本市内主要周辺の観光資源

| | 半径 500m圏 | 半径 1 km圏 | 合計 |
|--------------------|-------------------------|--------------------------|------|
| J R 東北本線 国府多賀城駅 | 7ヶ所 [歴史 4、人文 1、自然 2] | 11ヶ所 [歴史 5、人文 2、自然 4] | 18ヶ所 |
| J R 仙石線 多賀城駅 | 3ヶ所 [歴史 2、人文 1] | 6ヶ所 [歴史 3、人文 1、自然 2] | 9ヶ所 |



【歴史資源】

- ★ ①多賀城跡
- ②多賀城廃寺跡
- ③多賀城碑
- ④浮島
- ⑤柏木遺跡
- ⑥沖の井
- ⑦館前遺跡
- ⑧山王遺跡
- ⑨高崎遺跡
- ⑩野田の玉川
- ⑪末の松山
- ⑬大代横穴墓群
- ⑬おもわくの橋
- ⑬市川橋遺跡
- ★ ⑮東北歴史博物館
- ⑯埋蔵文化調査センター
- ⑰山王・南宮板倉

【人文資源】

- ①多賀城神社
- ②多賀神社
- ★ ③陸奥総社宮
- ④浮島神社
- ⑤柏木神社
- ⑥喜太郎神社
- ⑦宝国寺
- ⑧貴船神社
- ⑨日吉神社
- ⑩南宮神社
- ⑪慈雲寺
- ⑫化度寺
- ⑬荒腰巾神社

【自然資源】

- ①多賀城跡桜
- ②さざんかの森
- ★ ③加瀬沼
- ④貞山運河
- ⑤六月坂桜
- ⑥沖の井
- ⑦ハギ大路
- ⑧塩釜街道
- ⑨山王・南宮板倉
- ⑩野田の玉川
- ★ ⑪あやめ園

【大規模商業施設】

- ★ ①イオン
- ★ ②ヨークベニマル
- ★ ③三井アウトレットパーク仙台港
- ★ 印は1万人以上の観光客を誘引している著名な施設

(2) 主な観光資源・施設

本市の代表的な観光資源は次のとおりである(写真資料：多賀城市観光協会)。

壺碑(つぼのいしぶみ)、末の松山及び興井(沖の井)は、国名勝「おくのほそ道風景地」に指定されている。

また、観光資源・施設・イベント等の紹介については、本市で発行しているパンフレット等からの抜粋である。

ア 多賀城跡

多賀城は神亀元年(724年)に大野東人によって創建され、陸奥国府と鎮守府が置かれた。

約900メートル四方という広大な城内の中央には、重要な政務や儀式を行う政庁があった。

発掘調査の成果を基に環境整備が行われており、平城宮跡(奈良県)、大宰府跡(福岡県)とともに日本三大史跡に数えられている。



イ 多賀城碑

那須国造碑(栃木県)、多胡碑(群馬県)とともに日本三古碑の一つに数えられる奈良時代の古碑である。

多賀城南門近く、覆屋に守られて建っている。

高さ196cm、幅92cmの碑面には、平城京や各国境からの距離、多賀城の創建や修造について141文字で綴られている。



歌枕の「壺碑(つぼのいしぶみ)」とも呼ばれ、江戸時代には松尾芭蕉が訪れ、対面した感激を「おくのほそ道」に記している。

「むつのくの おくゆかしくそ おもほゆる つほのいしぶみ そとのはまかせ」
(「山家集」、西行)

ウ 多賀城廃寺跡

多賀城と同時期に創建された多賀城の付属寺院跡で、多賀城跡の南東約 1.2 キロメートルの高崎地区に位置する。東に塔、西に東面する金堂があり、多賀城跡とともに大正 11 年に史跡、昭和 41 年に特別史跡に指定され、これを記念して多賀城町（当時）は、廃寺跡を史跡公園として整備した。このような史跡整備は、大阪府枚方市にある百濟寺跡（くだらでらあと）に次い



で全国で 2 番目に早く、東日本では初めての試みであった。その北には講堂が置かれ、中門から延びた築地塀が塔と金堂を取り囲み講堂に取り付くという伽藍（がらん）配置は、大宰府付属の観世音寺（かんぜおんじ）と共通している。寺の名称は伝わっていないが、山王遺跡から「観音寺」と書かれた土器が発見されており、寺名の可能性が高いと考えられている。

エ 末の松山

末の松山を詠んだ歌は数多く残されている。

末の松山は、古来より多くの人々に親しまれた、みちのくの代表的な歌枕の地で、松尾芭蕉は「おくのほそ道」に、末の松山に接しての感動を記している。

「末の松山」と「浪」、「波」については、貞観 11 年（869 年）の巨大地震によって引き起こされた貞観津波が、この末の松山を越えそうで越えなかった状況を示すものと考証されている。



「きみをおきて あだし心を わが持たば 末の松山 浪もこえなむ」

（「古今和歌集」、東歌）

「うらなくも 思ひけるかな 契りしを 松より波は こえじ物ぞと」

（「源氏物語」）

オ 興井(沖の井、沖の石)

末の松山付近の住宅地の中にある、奇石が連なる池が歌枕の「沖の井(石)」である。

「おくのほそ道」の旅の途上、松尾芭蕉らはこの地も訪れている。また、仙台藩四代藩主伊達綱村によって、保護を受けていたことが知られている。



「千載和歌集」にある二条院讃岐の歌は有名で、作者は後に「沖の石の讃岐」と呼ばれた。

カ 野田の玉川

塩竈市大日向に源を発し、本市留ヶ谷を通り、砂押川に注ぐ小さな流れが野田の玉川である。

古来より歌枕として多くの歌に詠みこまれ、六玉川の一つに数えられている。

平成4年に市の「水・緑景観モデル事業」の一環として、往時を偲ばせる姿に整備された。



キ おもわくの橋

野田の玉川にかかるおもわくの橋は、別名「安倍の待橋」とも呼ばれる。

前九年の役で知られる安倍貞任がおもわくという名の美しい村の娘に想いを寄せ、この橋を渡って通ったという伝説が残されている。



「踏まま憂き もみぢのにしき ちりしきて 人もかよわぬ おもわくのはし」
 (「山家集」、西行)

ク 浮島(神社)

山口女王が大伴家持へ遣わした歌に詠まれた歌枕「浮島」が浮島神社だといわれている。

光源氏のモデルとされる源融を祀ったといわれる大臣の宮が、現在、浮島神社に合祀されている。

松尾芭蕉の「おくのほそ道」には浮島は記載されていないが、随行した弟子の河合曾良の「曾良旅日記」には、浮島に立ち寄っていたことが記載されている。



「しほがまの 前に浮きたる 浮島の 浮きて思ひの ある世なりけり」
(山口女王)
「陸奥は 世を浮島も ありと云ふを 関こゆるぎの 急がざらん」
(「小町集」、小野小町)

ケ 加瀬沼(公園)

江戸時代、八幡の領主天童氏が造った人工のため池で、冬には白鳥を始めとした多くの渡り鳥が飛来する。

農林水産省の「ため池百選」に選定されている。

県立都市公園加瀬沼公園(モリリン加瀬沼公園)は広大な自然公園で、芝生が敷き詰められた広い園内には野球場やサッカー場をはじめ、大型遊具・幼児用遊具、かまど完備のピクニック広場などが整備されている。

園内には約 250 本の桜があり、また火気使用可能なエリアがあるため、秋の芋煮会シーズンも来園者が急増する。



コ あやめ園

特別史跡多賀城跡の一角に位置するあやめ園には、約 21,000 m²の敷地に、650 種 300 万本のアヤメ、花菖蒲が植えられている。

毎年6月下旬から7月上旬には、「多賀城跡あやめまつり」が開催され、期間中の週末には様々なイベントが開催される。



サ 貞山運河

阿武隈川から塩竈湾を経て、石巻に至る国内最長の運河である。

明治時代、発案者の伊達政宗の法名「貞山」にちなみ、名付けられた。

本市分は江戸時代前期に掘削されて御舟入堀と呼ばれ、伊達藩の物流を支えた。

「美しい日本の歴史的風土 100 選」に選定されている。



シ 塩竈街道

塩竈街道は、仙台城下から岩切、南宮、市川を通り塩釜、松島方面に通じる江戸時代の主要な街道である。

この街道は塩竈神社の門前町として、また港町として栄えた塩釜を支えた。街道沿いには慈雲寺や陸奥総社宮、名所「伏石」があるほか、集落には板倉が数多く残っており、近世街道の風景を醸し出している。

奥の細道紀行で訪れた松尾芭蕉もこの道を通っている。



ス 東北歴史博物館

旧石器時代から近現代まで、東北地方全体を視野に入れた歴史系博物館である。

水と緑を効果的に配した敷地内は、季節を感じさせる絶好の散策コースとなっている。



セ 埋蔵文化財調査センター(展示室)

埋蔵文化財調査センターでは、遺跡の発掘調査、考古遺物・民俗資料の収集などを行っている。

常設展示室では多賀城周辺の遺跡の様子を「古代都市多賀城」と題して紹介しており、実際に発掘調査で発見された貴重な資料が並び、古代の人々の生活を間近に感じることができる。



また、万葉集の代表歌人である大伴家持が、陸奥按察使兼鎮守将軍として多賀城に來任したことを追慕し、永遠に顕彰するため敷地内に大伴家持歌碑を建立している。

ソ 埋蔵文化財調査センター体験館（多賀城史遊館）

まが玉づくりや火おこし体験など、昔の人々の技を体験しながら歴史の勉強ができる。学習施設で大人から子どもまで楽しめる。縄文時代から江戸時代まで本市の歴史発掘資料でたどる展示室もある。



(3) 主な祭り・イベント

本市で開催されている主な祭り・イベントは次のとおりである。

ア 多賀城跡あやめまつり(6月下旬～7月上旬)

国の特別史跡多賀城跡の一角に位置する約21,000㎡に及ぶ広大なあやめ園に咲く、650種300万本ものあやめや花菖蒲の中で優雅な時を過ごすことができる。

期間中の土・日曜日には、友好都市である福岡県太宰府市、山形県天童市、奈良県奈良市の観光物産コーナー、万葉衣装着付けコーナー、郷土芸能、踊りなどのステージイベントや「あやめ俳句大会」、野点、押し花、切り絵などの体験イベントなど様々なイベントが行われる。

イ たがじょう市民市(11月第3日曜日)

農産物の販売や友好都市山形県天童市の物産販売、豪華賞品が当たる大ビンゴゲーム大会、ステージイベントのほか、食べ物コーナー、ちびっ子広場などの催し物が盛りだくさんの秋のイベントである。

ウ 多賀城ビアサミット(7月下旬)

住民参加型のビールイベントで、会場内には特設テント、テーブル・椅子を設置する。席数は約200席である。

子どもたちも楽しめるよう、ソフトドリンクや食べ物も用意されている。

エ 多賀城なべまつり(11月下旬)

本市の特産品である古代米を使った餅と地元野菜が入った多賀城オリジナルの「やかもち鍋」をはじめ、多賀城産トマトを使ったミネストローネなどが提供される。

「やかもち鍋」は多賀城ゆかりの歌人大伴家持とお餅をかけて名付けられた。和歌にちなみ短冊切りにした地元野菜が使われている。

JR多賀城駅前のステージでは多賀城太鼓や多賀城鹿踊、チアダンス、音楽ライブなどが披露される。

オ 「壺の碑」全国俳句大会(10月下旬)

日本三古碑の一つ、多賀城碑は、歌枕「壺の碑」として知られており、俳聖・松尾芭蕉は「おくのほそ細道」にこの碑に触れた感動を一章に記している。この「壺の碑」への芭蕉の感動に思いをはせながら、全国から俳句を募集し、大会を開催している。

カ 市民夏祭り(ザ・祭り in 多賀城)(8月下旬)

「ふるさと創生」を推進していききたいという発想から生まれた「ザ・祭り in 多賀城」と銘打ったイベントである。盆踊り、縁日、ステージコンサート、YOSAKOI、花火大会、フリーマーケットなどが催される。



キ 悠久の詩都の灯(イルミネーション)(11月下旬~12月末)

11月末から12月末までJR多賀城駅前広場を彩るイルミネーションで、住民の手で飾り付けを行う。毎週金曜日には、屋台が出店され賑わう。



ク 多賀城フェスティバル(月の市)

震災後に駅前の賑わい創出を目的として開催されていた「多賀城月の市」を継承したイベントである。「月の市」を実施していたころから交流のある五所川原市(青森県)より寄贈された「ねふた」を本市内の各イベントにおいて活用している。

ケ 野田の玉川あんどんまつり(8月下旬)

野田の玉川は全国六玉川の一つに数えられ、数多くの歌に歌枕として詠まれている。

当日は手作りのあんどん約 200 個を野田の玉川水路内に 550m にわたって並べ、幻想的な雰囲気の中、1300 年前のいにしえ人に思いをめぐらす。



100 個のあんどんが流される、流しあんどんも行われる。

コ 史都多賀城万葉まつり(10月上旬)

日本最古の歌集「万葉集」の編者であり、晩年に陸奥按察使・持節征東將軍の役職につき、多賀城とかかわりがあった大伴家持をしのび、古代多賀城の栄華を再現する祭りである。



(写真 河北新報)

手作りの華やかな万葉衣装を身につけた住民の万葉行列をはじめ、東北歴史博物館では万葉コンテスト、笙の演奏、万葉踊りの披露、古代横笛の演奏、家持の歌の朗詠などのステージイベント(水上ステージほか)が行われるほか、茶席、出店コーナー、お土産品販売コーナー、万葉衣装着付け体験コーナーもある

(4) 観光客入込数

全国に誇れる特別史跡多賀城跡を筆頭にした史跡名所を有するにもかかわらず、仙台方面からの観光客は、塩竈市・松島町方面を目的地としており、本市・七ヶ浜町を通過する状況にある。また、本市の観光資源は市内に点在しており、導線の創出が課題となっている。

本市の平成 26 年の観光客入込数は年間約 791 千人であるが、その内訳は、敷地のほとんどが隣町である利府町内に位置する県立都市公園加瀬沼公園の来園者と、ビジネスを目的とした本市内宿泊施設への宿泊客で約 57%を占め、観光に結びついていないのが現状である。

地場産品を活用した特産品等、核となる商品に乏しく、それらの販売所もない状況にある。

図表1-14 観光客入込数の推移

(単位：人)

| | 平成20年 | 平成21年 | 平成22年 | 平成23年 | 平成24年 | 平成25年 | 平成26年 |
|------|------------|------------|-------------|------------|------------|------------|------------|
| 多賀城市 | 661,410 | 705,713 | 682,999 | 236,062 | 466,989 | 773,833 | 790,779 |
| 仙台市 | 15,731,418 | 19,372,152 | 197,895,520 | 16,207,500 | 18,554,458 | 18,671,429 | 19,746,251 |
| 松島町 | 3,473,000 | 3,735,000 | 3,568,621 | 2,237,793 | 2,650,784 | 2,981,193 | 2,931,249 |

ア 周辺市町 観光客入込数比較

仙台市の北東エリアには、本市、塩竈市、東松島市、七ヶ浜町、松島町及び利府町の3市3町の市町が存在する。

それら合計6つの市町全体で、年間約8,444千人の観光客を誘引していることとなるが、本市はその内およそ9.4%に相当する約791千人を集客している。

仙台市の北東エリアの3市3町の中で、圧倒的な観光集客力を持つのは松島町・塩竈市の2エリアである。

図表1-15 平成26年各市町観光客入込数

(単位：人)

| | 観光客入込数 | 構成比 |
|------|-----------|-------|
| 松島町 | 2,931,249 | 34.7% |
| 塩竈市 | 2,269,133 | 26.9% |
| 利府町 | 1,805,039 | 21.4% |
| 多賀城市 | 790,779 | 9.4% |
| 東松島市 | 365,540 | 4.3% |
| 七ヶ浜町 | 282,227 | 3.7% |
| 計 | 8,443,967 | 100% |

(出典：平成26年宮城県観光統計概要より)

図表 1-16 平成 26 年本市及び周辺市町 年間観光客入込数



イ 周辺市町 主要観光スポット 観光客入込数比較

本市の周辺には、年間観光客入込数 1,000 千人を超える観光スポットが複数存在する。本市は、仙台市に最も近い自治体ではあるものの、最も観光客の多い観光スポット（東北歴史博物館）でも年間 142 千人に留まっているのが実情である。

図表 1-17 周辺市町 観光客入込数 10 万人以上の観光地

| No. | 観光スポット名 | 所在地 | 平成 26 年 観光客入込数 |
|-----|------------|----------|-------------------|
| 1 | 松島海岸 | 松島町 | 2,931 千人 |
| 2 | 宮城県総合運動公園 | 利府町 | 1,206 千人 |
| 3 | マリンゲート塩竈 | 塩竈市 | 1,149 千人 |
| 4 | 鹽竈神社 | 塩竈市 | 1,020 千人 |
| 5 | 加瀬沼公園 | 利府町/多賀城市 | 265 千人 |
| 6 | 県民の森・青少年の森 | 利府町 | 234 千人 |
| 7 | 海水浴・ゆふと | 東松島町 | 218 千人 |
| 8 | 七ヶ浜国際村 | 七ヶ浜町 | 168 千人 |
| 9 | 東北歴史博物館 | 多賀城市 | 142 千人 |

※平成 26 年 観光統計概要より

図表 1-18 平成 26 年本市及び周辺市町 最大集客スポットの観光客入込数



東日本大震災以前、松島海岸では年間 3,500 千人の観光客が訪れていた。震災で大きく 2,200 千人強まで落ち込んだものの、現在は回復傾向にある。

県総合運動公園は、平成 26 年、1,200 千人を超える観光客入込数となったが、イベントの内容により集客力が大きく異なる。

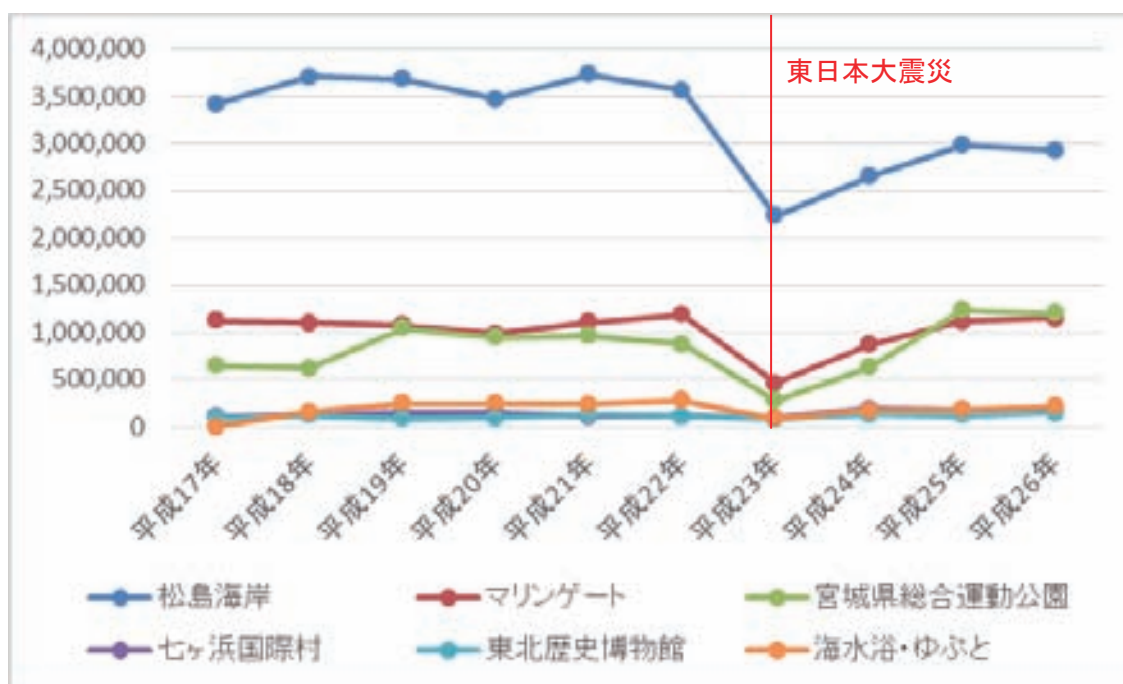
東北歴史博物館は、年間 84 千～130 千人の観光客入込数で、ほぼ横ばいで推移している。

図表 1-19

各市町村の最大観光地における10年間観光客入込数推移（※海水浴・ゆふとのみ9年比）

（単位：人）

| 施設 | 平成17年 | 平成18年 | 平成19年 | 平成20年 | 平成21年 | 平成22年 | 平成23年 | 平成24年 | 平成25年 | 平成26年 | 10年比 |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|--------|
| 松島海岸 | 3,419,000 | 3,711,000 | 3,685,000 | 3,473,000 | 3,735,000 | 3,568,621 | 2,237,798 | 2,650,784 | 2,981,193 | 2,931,249 | 85.7% |
| マリンゲート | 1,120,200 | 1,097,600 | 1,076,100 | 990,500 | 1,107,200 | 1,190,800 | 464,000 | 871,800 | 1,116,200 | 1,148,600 | 102.5% |
| 宮城県総合運動公園 | 649,222 | 619,871 | 1,044,870 | 948,039 | 965,208 | 876,245 | 279,455 | 629,332 | 1,231,561 | 1,206,059 | 185.8% |
| 七ヶ浜国際村 | 109,752 | 132,150 | 142,992 | 155,568 | 114,219 | 113,253 | 95,729 | 195,471 | 181,267 | 168,141 | 153.2% |
| 東北歴史博物館 | 90,111 | 123,505 | 89,770 | 95,136 | 130,091 | 117,482 | 84,076 | 127,666 | 125,407 | 142,063 | 157.7% |
| 海水浴・ゆふと | 0 | 157,856 | 252,457 | 248,629 | 238,612 | 282,156 | 90,152 | 178,160 | 188,485 | 218,987 | 138.7% |



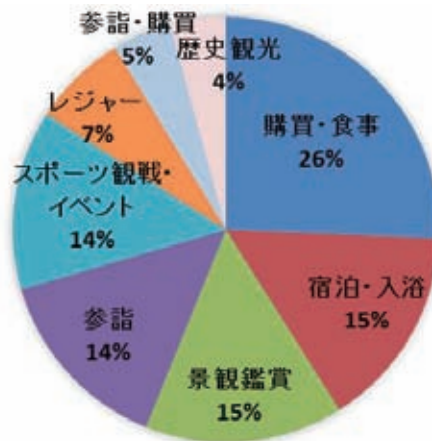
(5) 宮城県内で集客している観光スポットの共通項

宮城県内には、年間500千人以上の観光客入込数となる施設が15ヶ所存在する。ここでは、それらの観光地を抽出し、その要因の検証を行った。計15ヶ所の施設のうち、11ヶ所の施設は購買や飲食・チケット代等による支出を伴うものである。

なかでも、商業施設は3ヶ所合計の観光客入込数が4,993千人と、非常に大きな集客力を持っていることが分かる。集客力の強い観光スポットは、商業的機能を有するもの、若しくは参詣を目的とする社寺が多い。

図表 1-20 県内人気観光地（観光客入込数 100 万人以上）の展開機能

| | 50万人以上 観光地数 | 合計 観光客入込数 |
|-----------------|----------------|--------------|
| 購買・食事 (商業施設) | 3 | 4,993千人 |
| 宿泊・入浴 | 3 | 2,994千人 |
| 景観鑑賞 | 1 | 2,931千人 |
| 参詣 | 2 | 2,789千人 |
| スポーツ観戦・ イベント | 2 | 2,656千人 |
| レジャー | 2 | 1,398千人 |
| 参詣・購買 | 1 | 873千人 |
| 歴史観光 | 1 | 820千人 |



(単位：人)

| No. | 名称 | 所在地 | 観光客 入込数 | 目的 |
|-----|-----------------|-----|------------|--------|
| 1 | あ・ら・伊達な道の駅 | 大崎市 | 3,126,484 | 購買・食事 |
| 2 | 松島海岸 | 松島市 | 2,931,249 | 景観鑑賞 |
| 3 | 竹駒神社 | 岩沼市 | 1,770,000 | 参詣 |
| 4 | 楽天コボスタジアム宮城 | 仙台市 | 1,450,233 | スポーツ観戦 |
| 5 | 宮城県総合運動公園 | 利府町 | 1,206,059 | イベント |
| 6 | 秋保温泉 | 仙台市 | 1,186,614 | 宿泊・入浴 |
| 7 | マリンゲート塩竈 | 塩竈市 | 1,148,600 | 購買・食事 |
| 8 | 鳴子温泉 | 大崎市 | 1,073,700 | 宿泊・入浴 |
| 9 | 鹽竈神社・志波彦神社 | 塩竈市 | 1,019,200 | 参詣 |
| 10 | 定義如来 | 仙台市 | 872,760 | 参詣・購買 |
| 11 | 仙台城址・瑞鳳殿・博物館等 | 仙台市 | 819,778 | 歴史観光 |
| 12 | 国営みちのく湖畔公園 | 川崎町 | 743,304 | レジャー |
| 13 | 遠刈田温泉 | 蔵王町 | 734,144 | 宿泊・入浴 |
| 14 | 道の駅「上品の郷」(ひたかみ) | 石巻市 | 718,079 | 購買・食事 |
| 15 | 八木山動物公園等 | 仙台市 | 654,411 | レジャー |

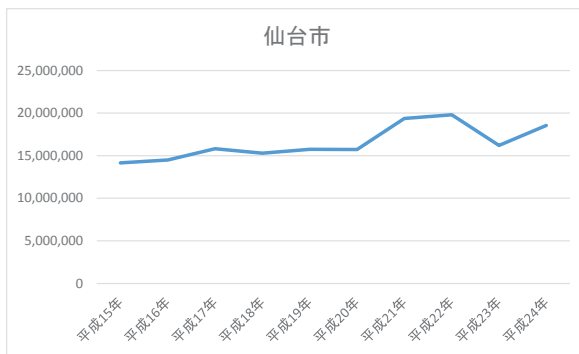
図表1-21 本市の震災前後における観光客入込数の推移



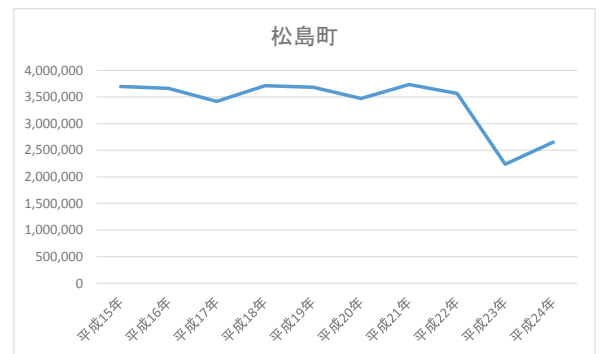
本市の観光客入込数は、震災前まで増加傾向にあったが、震災のあった平成23年に観光客入込数が大きく落ち込んだ。しかし、翌年にはまた観光客入込数は増加に転じている。

また、他の市町と比較すると、観光客入込数が少ない状況にある。

(参考) 仙台市観光客入込数推移



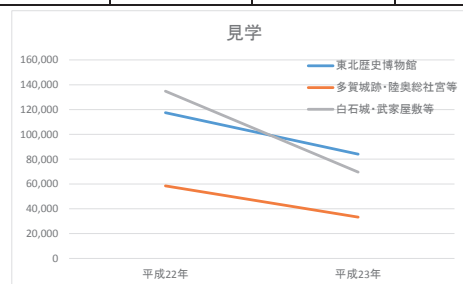
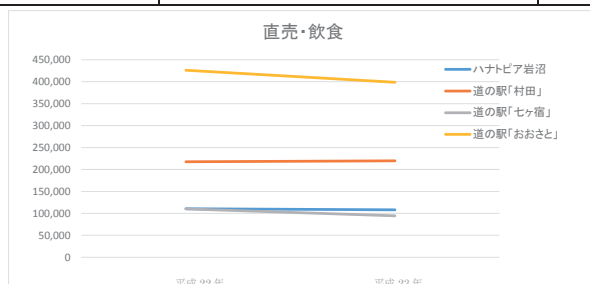
松島町観光客入込数推移



図表 1-22 施設別震災前後観光客入込数

(単位：人)

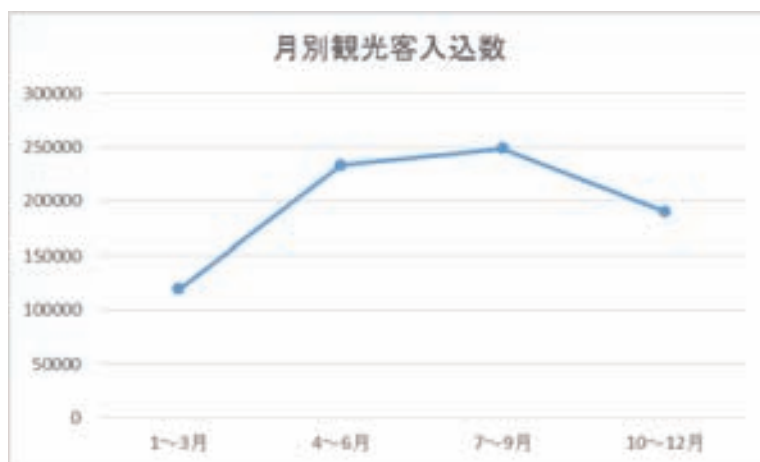
| | 施設 | 設特性 | 平成22年 | 平成23年 | 伸長率 |
|------|-------------|-------|---------|---------|--------|
| 多賀城市 | 東北歴史博物館 | 見学 | 117,482 | 84,076 | 71.6% |
| | 多賀城跡・陸奥総社宮等 | 見学 | 58,515 | 33,234 | 56.8% |
| 岩沼市 | ハナトピア岩沼 | 直売・花 | 110,464 | 107,942 | 97.7% |
| 村田町 | 道の駅「村田」 | 直売・飲食 | 217,713 | 219,643 | 100.9% |
| 白石市 | 白石城・武家屋敷等 | 見学 | 134,831 | 69,525 | 51.6% |
| 七ヶ宿町 | 道の駅「七ヶ宿」 | 直売・軽食 | 110,004 | 94,498 | 85.9% |
| 大郷町 | 道の駅「おおさと」 | 直売・飲食 | 425,863 | 398,670 | 93.6% |



直売・飲食業態は震災後の観光客入込数は、あまり減少しなかった。
一方で、見学するだけの観光施設の観光客入込数が大幅に減少した。

図表 1-23 多賀城市月別観光客入込数(平成 26 年 年間観光客入込数 790,779 人)
(単位：人)

| 1～3月 | 4～6月 | 7～9月 | 10～12月 |
|---------|---------|---------|---------|
| 119,106 | 233,063 | 248,165 | 189,905 |



■観光客入込数のピークは7～9月である。

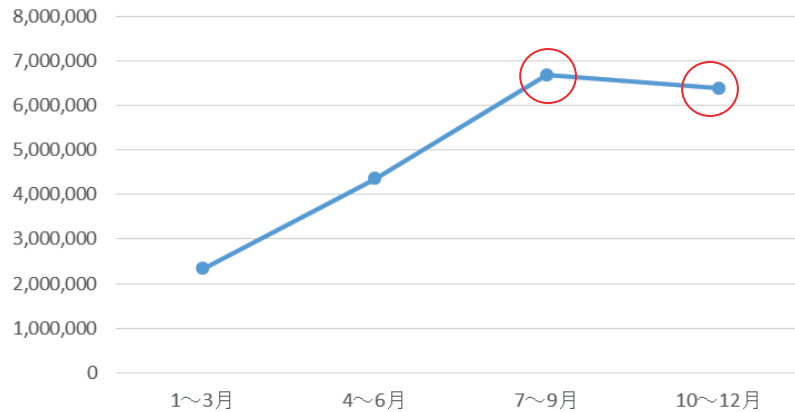
多賀城跡あやめまつりが6月下旬～7月上旬にあるため、その月に観光客が集中する。

イベントがある月とない月では、観光客入込数に約2.1倍の差がある。

図表 1-24 仙台市月別観光客入込数(平成26年 年間観光客入込数 19,746,251人)
(単位:人)

| 1~3月 | 4~6月 | 7~9月 | 10~12月 |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 2,325,238 | 4,350,477 | 6,680,041 | 6,390,495 |

月別観光客入込数



■ 7~12月の観光客入込数が全体の約7割を占めている。

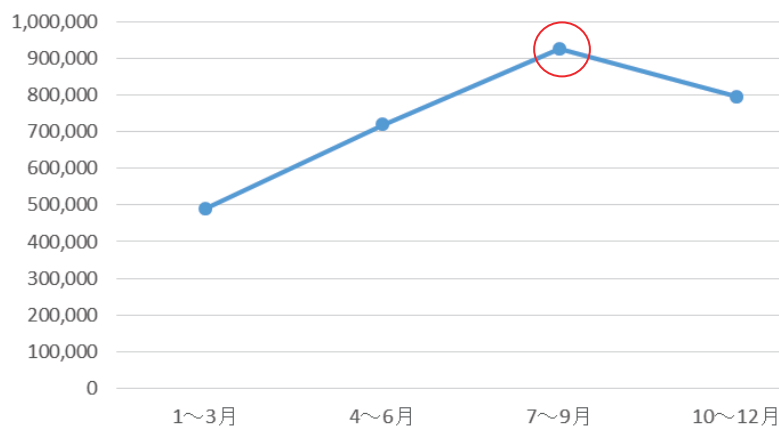
「仙台七夕まつり」が8月にあるため、7~9月の観光客入込数が660万人を超える。

また、「SENDAI 光のページェント」が12月にあるため、10~12月の観光客入込数が約640万人である。

図表 1-25 松島町月別観光客入込数(平成26年 年間観光客入込数 2,931,249人)
(単位:人)

| 1~3月 | 4~6月 | 7~9月 | 10~12月 |
|---------|---------|---------|---------|
| 489,908 | 719,525 | 926,257 | 795,559 |

月別観光客入込数



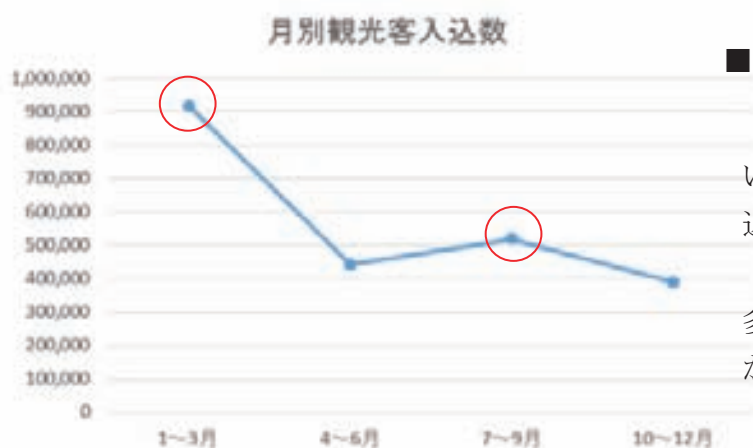
■ 7~9月が最も観光客入込数が多い。

7~9月は、観光シーズンのため観光客入込数が最も多い。

10~12月は、紅葉の時期で、多くのお寺や神社等がイルミネーションを行うので2番目に観光客入込数が多い月である。

図表 1-26 塩竈市月別観光客入込数(平成 26 年 年間観光客入込数 2,269,133 人)
(単位:人)

| 1~3月 | 4~6月 | 7~9月 | 10~12月 |
|---------|---------|---------|---------|
| 916,615 | 442,915 | 519,470 | 390,133 |



■ピークは1~3月である。

塩竈神社への参拝客が多いため、1~3月の観光客入込数が最も多い。

また、7~9月が2番目に多い理由は、塩竈みなと祭があるためである。

出典「観光統計概要」平成 26 年 宮城県経済商工観光部観光課

(6) 全国の「歴史」をテーマにした観光都市の事例と傾向

奈良時代をテーマとした観光都市は少なく、都が存在した奈良市のみが観光客の集客に成功している。

西の都と言われた大宰府は、平安時代に建立された天満宮が集客要因となっており、政庁跡の集客は極めて少ない状況である(太宰府市回答)。

図表 1-27 全国歴史観光都市の時代と観光客入込数 一覧

※()内の数値は平成26年の観光客入込数(千人単位)
(一部平成25年のデータを採用)

| | 飛鳥時代以前 | 奈良時代 | 平安時代 | 鎌倉時代 | 室町時代 | 戦国時代 | 江戸時代 |
|----------|---|-------------|-------------|-------------|-------------|------------|------------|
| 1,000万人~ | 出雲市(12,098) 伊勢市(10,868) 高野市(10,075) | 奈良市(12,796) | 京都市(55,840) | | | | |
| 800万人~ | | | 太宰府市(8,206) | 鎌倉市(21,064) | | | |
| 600万人~ | | | 甘藷館市(7,332) | | | | |
| 400万人~ | | | | | 小田原市(4,370) | 金沢市(5,979) | 熊本市(5,441) |
| 200万人~ | | | 甲斐市(2,000) | | | | |
| 100万人~ | 富野+藤野(1,168) | | 高野市(1,718) | | | 津波市(1,957) | |
| 50万人~ | | 伊賀市(791) | | | | | |
| 30万人~ | | | | | | | |

第2章 本市の現状と可能性

第2章 本市の現状と可能性

1 アンケート調査

本市への観光客の誘引として一番に狙うべきターゲットは、1時間圏の集客圏内である仙台市圏 100万人と想定される。まずはここからの週末観光による集客を視野に入れ、更に仙台市だけでなく、調査対象地域を塩竈市、東松島市、利府町、松島町及び七ヶ浜町にも広げ、仙台市及び周辺自治体住民意識調査を実施した。

また、本市の住民への調査項目には、仙台市及び周辺自治体住民向けアンケートと同一の選択肢(本市の住民にとっては当たり前のものや本市にはあり得ないものも含む。)等を用い、周辺自治体の住民と本市の住民との比較分析による認知度やイメージギャップ、課題と魅力の明確化を試みた。

(1) 多賀城市民意識調査結果

本市内に居住する住民を対象として、質問紙によるアンケート調査を行った。調査方法及び期間等は次のとおりである。

| | |
|---------|---|
| ・調査方法 | 郵送配布回収 |
| ・回答者 | 無作為抽出による20歳以上の多賀城市民 |
| ・有効回収数 | 878票 (サンプル配布数 2,000人 回収率43.9%) |
| ・調査時期 | 平成27年9月18日～9月30日 |
| ・主な調査項目 | ① 多賀城市に対するイメージ ② 訪れたことのある観光スポット(複数回答) ③ 多賀城市内の各イベントに対する認知度 ④ 日常生活における消費行動について ⑤ 市内で観光客をもてなすならどこに行くか? ⑥ 多賀城市のベストスポット ⑦ 多賀城の昔ながらの習慣・収集 ⑧ 多賀城市の観光地化にあつたらいいと思うもの(複数回答) ⑨ 道の駅・物産館を選択しなかった理由 ⑩ 道の駅に必要な施設(複数回答) ⑪ 出身地を尋ねられた際の回答 ⑫ 多賀城観光活性化に関する自由記述 ⑬ 回答者属性 |

ア 多賀城市民意識調査結果の概要

(7) 歴史に興味がない方を呼び込める集客要素が弱い

「歴史」という本市のイメージは市内に強く浸透しており、観光戦略を考える上で欠かせないキーワードであることが分かる。一方で、「グルメが豊富」や「芸術を楽しめる」「レジャーを楽しめる」「イベントが盛ん」といった娯楽的なイメージは弱く、現状では歴史に興味を持たない方も含めた幅広い観光客を呼び込むだけの集客力は乏しいものと考えられる。

(イ) 飲食・土産品の購入といった商業的機能に課題がある

本市の住民の消費行動を見ると、食事・買い物のいずれにおいても、日常的なものは本市内で行うが、より専門的なものや少しこだわりたいもの、特別な日の食事については、本市内で行う住民は少なく、仙台市に出かける住民が多いという状況にある。これは、仙台市は施設数が多く選択肢も広いという量的な理由も大きい。

一方で、観光客を呼び込む上では「食事」「お土産」という商業的機能の充実も不可欠である。その必要性は住民アンケートからも「名産品の開発が必要」という声で表れており、施設・ハード面の充実と併せて検討を進める必要があると考えられる。

(ウ) イベントの幅の広さを活用する

本市では、様々なイベントが行われている。なかでも歴史を活かした「万葉まつり」、自然を活かした「あやめまつり」は住民の認知度が高く、積極的に市外へもPRをしていきたい祭りの一つであると言える。「ザ・祭り in 多賀城」も認知度が高い。一方で、まだ住民にも認知されていないイベントも多数存在する。

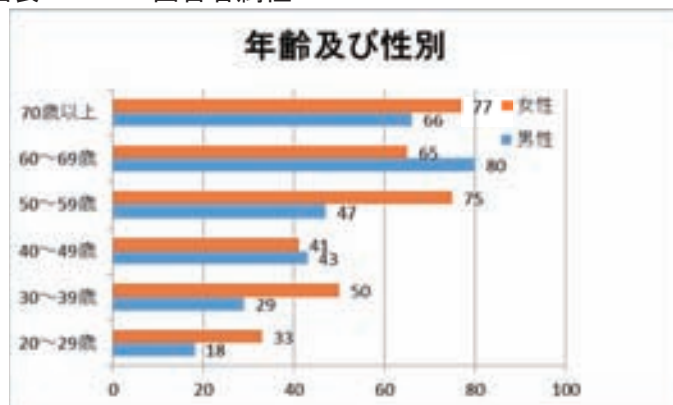
様々なイベントが既に実施されているため、一つ一つの魅力を強め、情報発信力を高めていくことで、まずは本市内から、そして周辺自治体からの集客へとつなげることも可能であると考えられる。

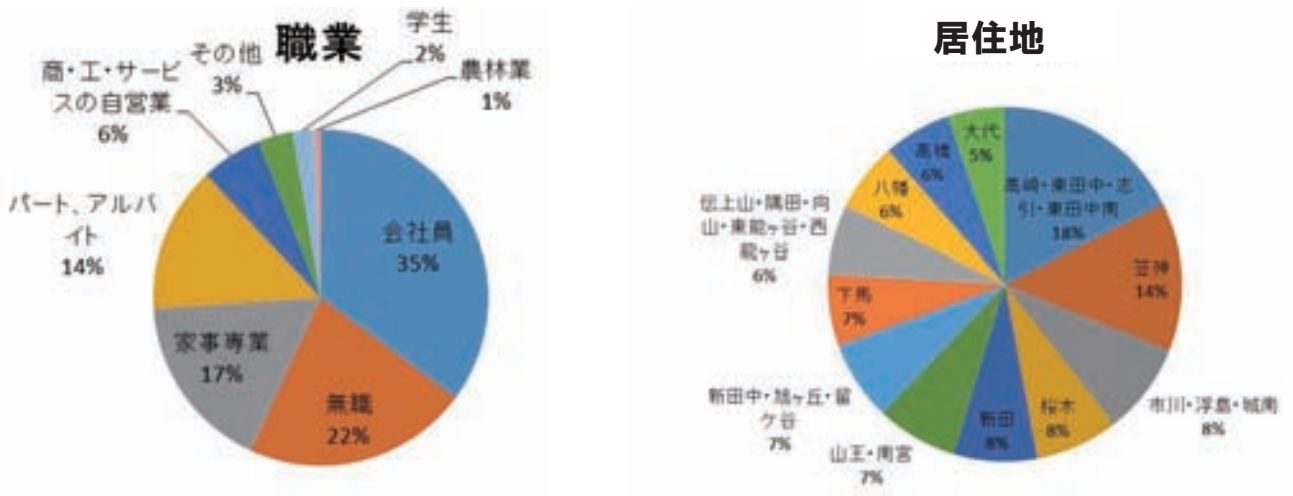
イ 主な回答結果

(ア) 回答者属性

図表 2-1 回答者属性

(単位：人)

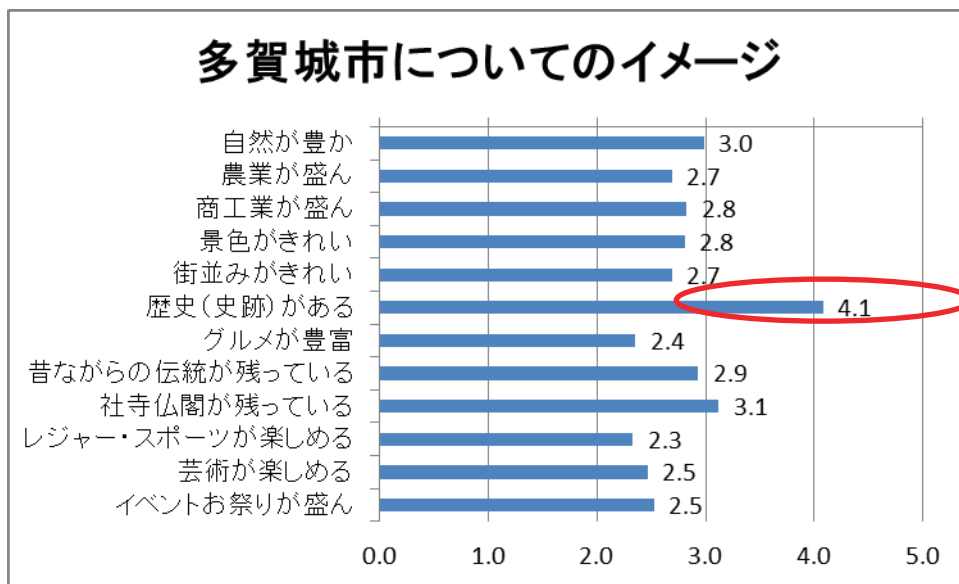




(イ) 多賀城市についてのイメージ

①回答者全体

図表 2-2 多賀城市についてのイメージ

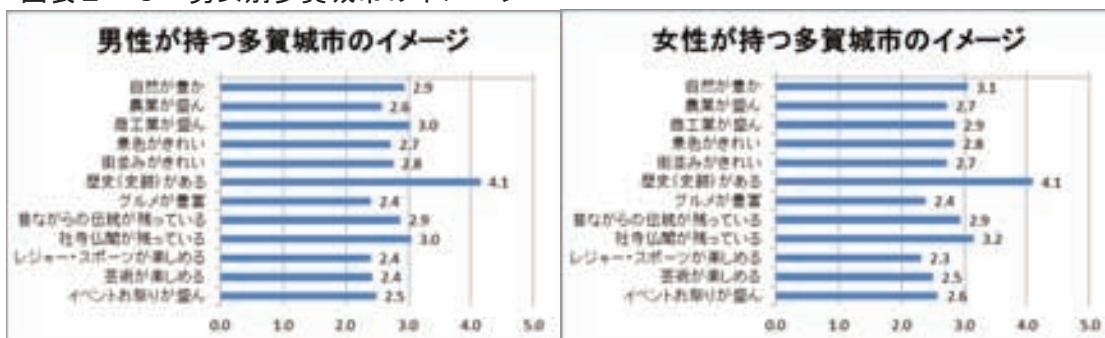


「歴史(史跡)がある」という項目のみが5段階評価で4.1ポイントの得点を示している。

次の「社寺仏閣が残っている」も歴史と関係の深い項目であるため、歴史やそれに関する社寺仏閣というイメージが強いと言える。

(ウ) 性別による比較

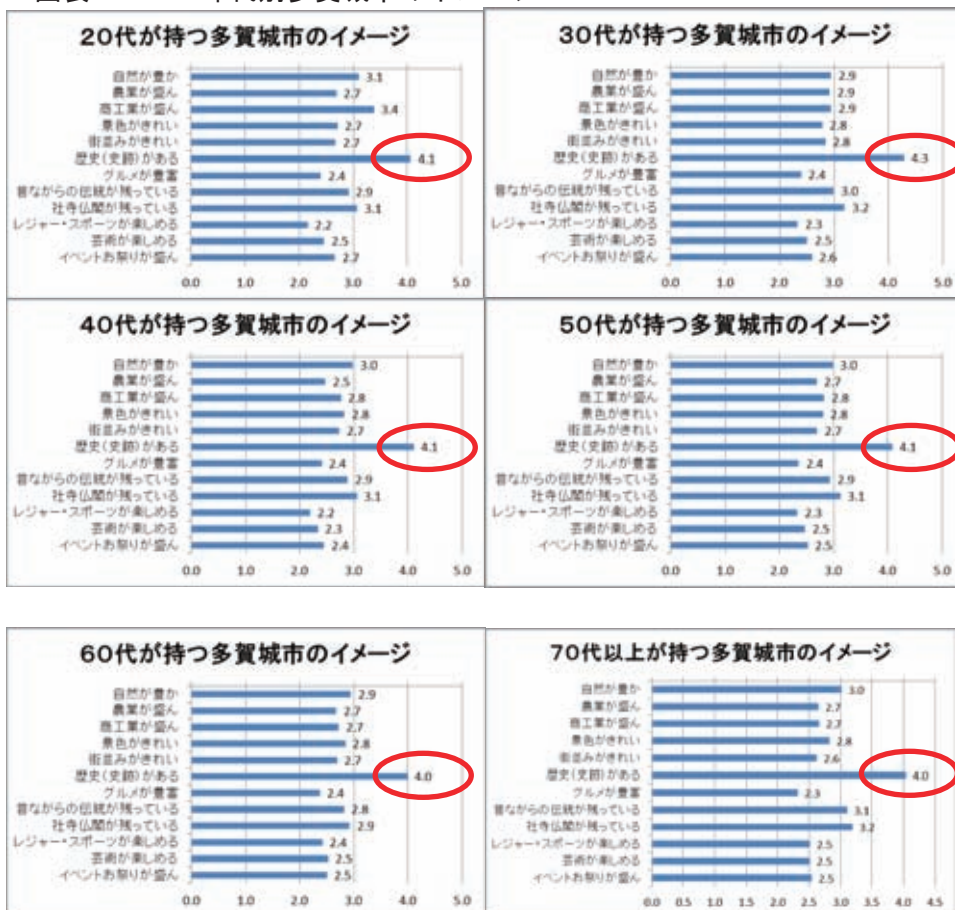
図表 2-3 男女別多賀城市のイメージ



男女による本市へのイメージの違いは見られない。

(エ) 年齢による比較

図表 2-4 年代別多賀城市のイメージ



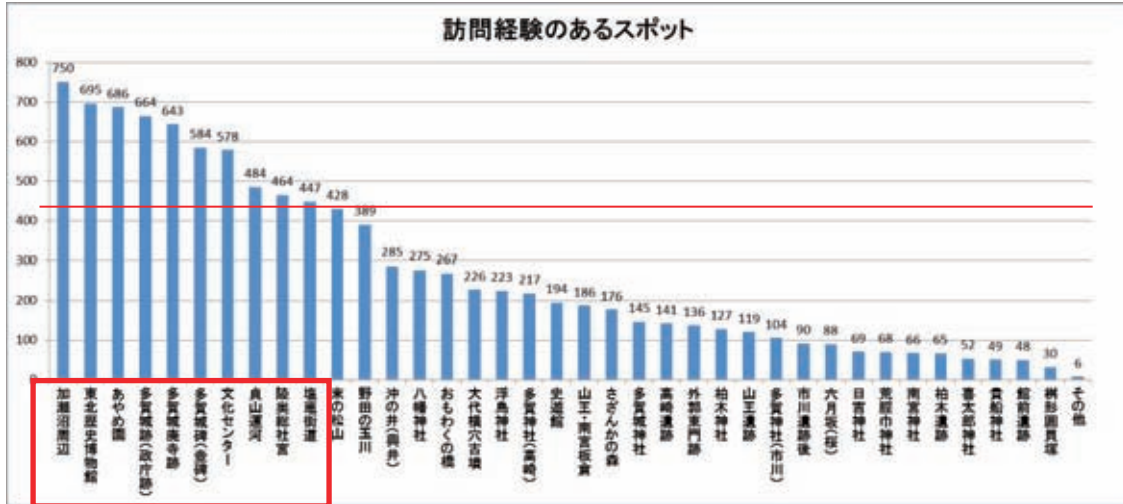
歴史(史跡)があるというイメージは本市の住民のいずれの世代にも共通したイメージであることから、本市の観光戦略において「歴史」というテーマは欠かせないものであると考えられる。

(オ) 訪問経験のある観光地

①回答者全体

図表2-5 訪問経験のある観光スポット

(単位：人)

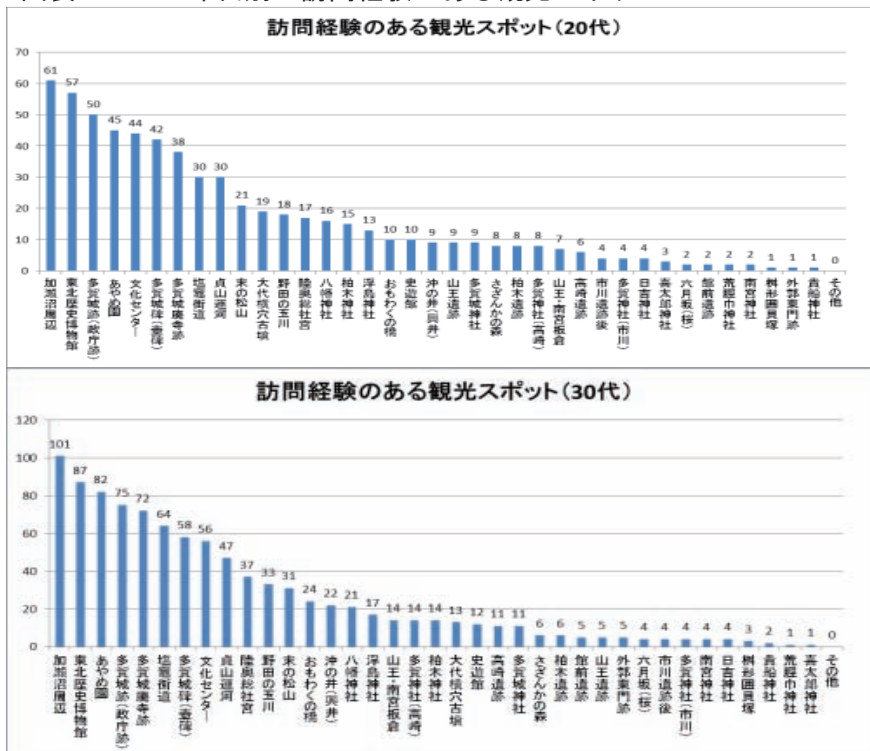


最も回答数が多かったのは加瀬沼公園であり、回答者の約85%が訪問経験あり、と答えている。回答者の半分以上が訪れたことがあると答えた観光スポットは10ヶ所あり、一人当たりの平均訪問施設数は12ヶ所となっている。

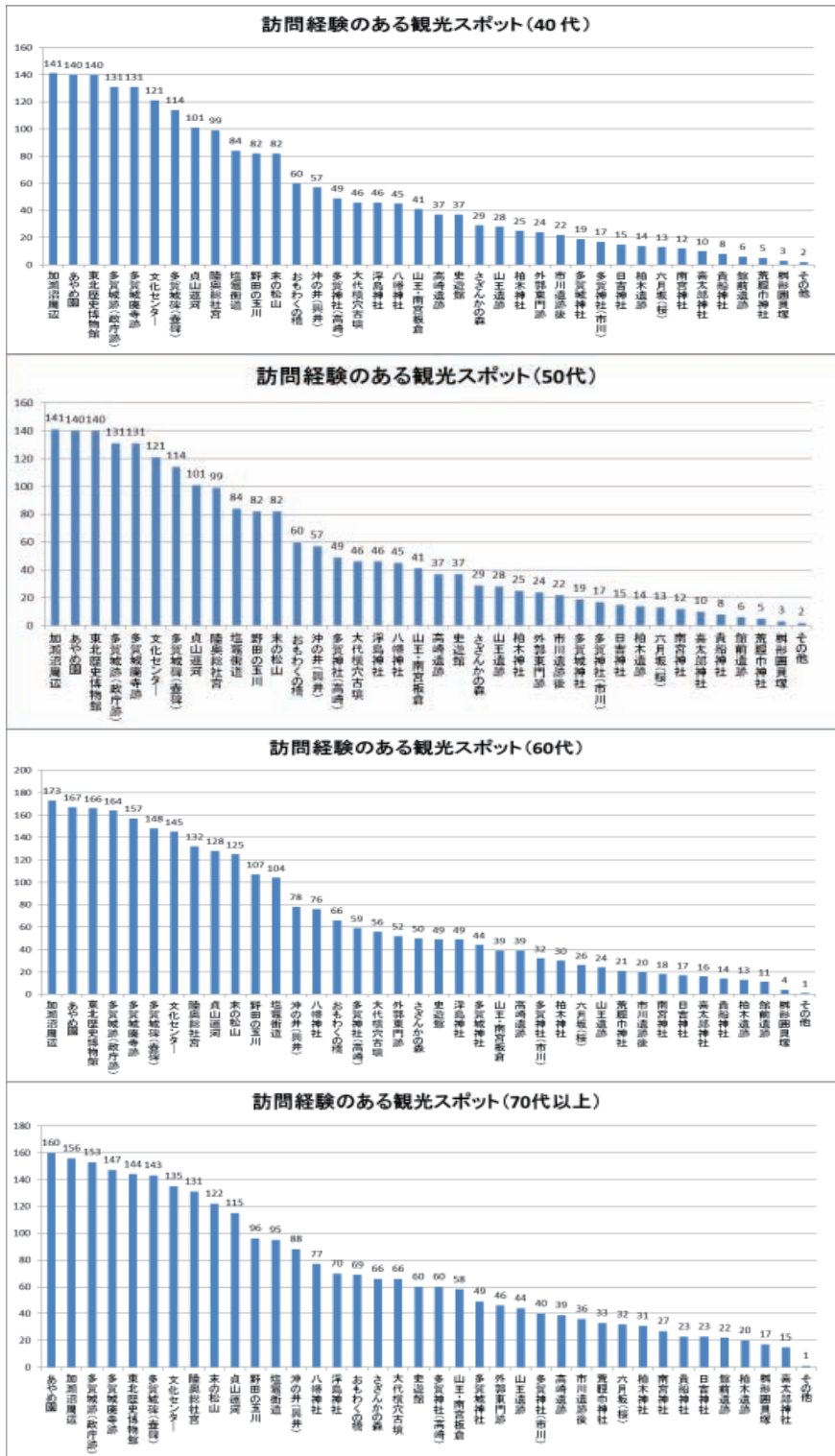
②年齢による比較

図表2-6 年代別 訪問経験のある観光スポット

(単位：人)



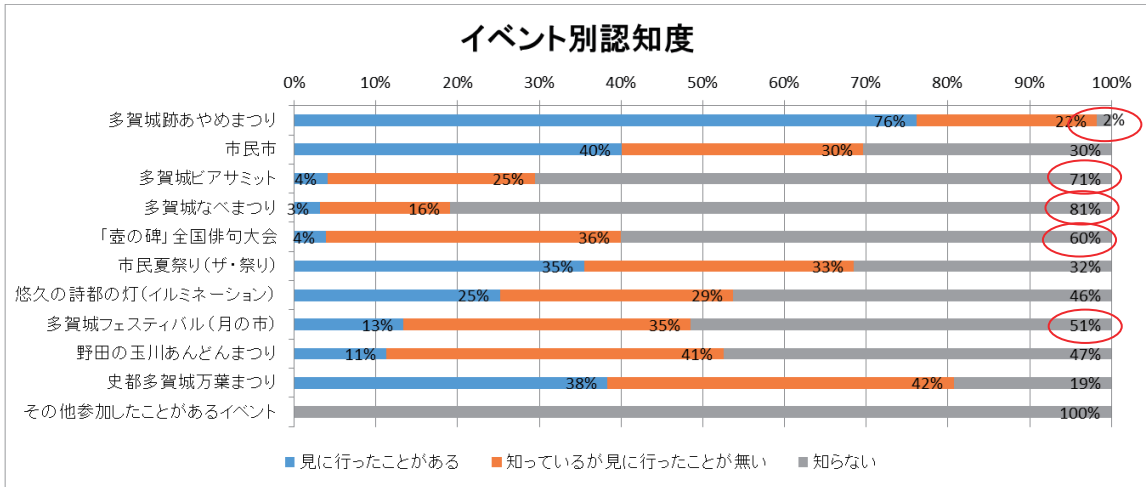
(単位：人)



70代以上の方以外を除くすべての世代が訪問したことがある観光スポットで、1番回答数が多かったものが、加瀬沼周辺であった。40代以上の世代において、2番目に訪問されているのがあやめ園であった。あやめ園は高齢の方に好まれる観光スポットであると考えられる。

(カ) 多賀城市のイベント別認知度

図表2-7 本市内イベント別認知度

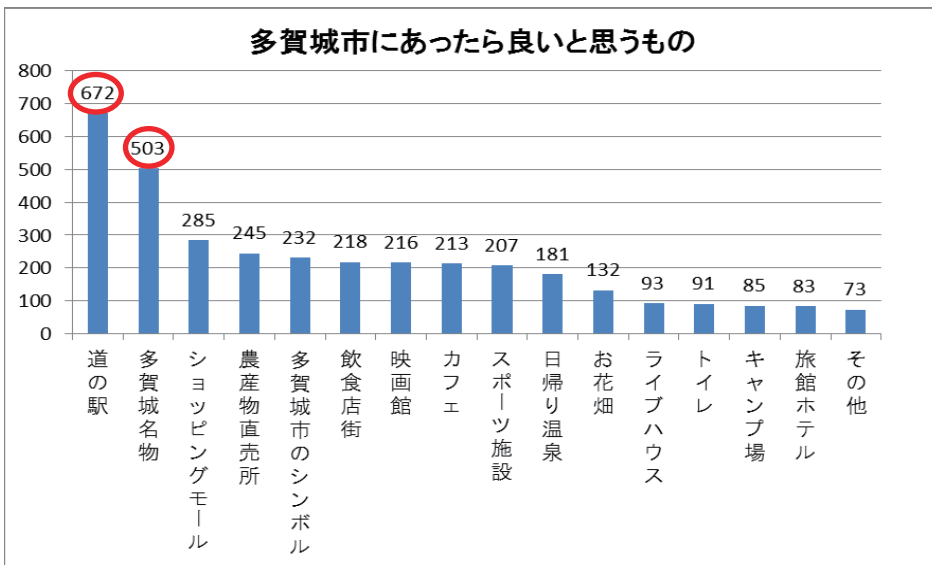


あやめまつりに行ったことがあると答えた回答者は、76%、知っている方まで含めると98%の認知度となり、他のイベントと比較して圧倒的な認知度を有している。一方、多賀城フェスティバル・俳句大会・なべまつり・ビアサミットの4つのイベントについては認知度が50%未満であり、住民への情報発信についても改善の必要があると考えられる。

(キ) 多賀城市にあったら良いと思うもの

図表2-8 多賀城市にあったら良いと思うもの

(単位：人)



道の駅・多賀城名物という回答が突出して高い結果となった。これは、本市の名物と言える商品がないことを表している結果であると考えられる。

(ク) 道の駅に必要なだと思うもの

(単位：人)

図表 2-9 道の駅に必要なだと思うもの

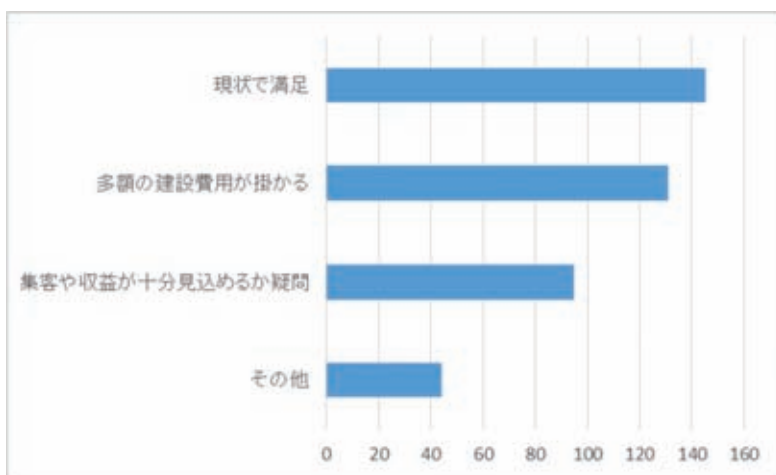


農産物直売所を希望する声が多く、次いで本市の名産品販売の必要性を感じている声が多い。他事例から見ても、観光客を呼び込むためには単なる施設ではなく、「多賀城市と言えばあれ」と言われる名物商品の必要性が高いため、その開発は非常に重要であると考えられる。

(ケ) 道の駅・物産館のような新しい集客施設があれば良いと考えなかった理由

図表 2-10 新たな集客施設を求めない理由

| 現状で満足 | | 多額の建設費用が掛かる | | 集客や収益が十分見込めるか疑問 | | その他 | |
|-------|-------|-------------|-------|-----------------|-------|-----|-------|
| 実数 | 構成比 | 実数 | 構成比 | 実数 | 構成比 | 実数 | 構成比 |
| 145 | 43.8% | 131 | 39.6% | 95 | 28.7% | 44 | 13.3% |



道の駅、物産館が必要だと回答しなかった人の、その理由については、現状で満足している人（約 44%）と多額な建設費用がかかると考えた人（約 40%）が全体の約 84%を占める。

(3) 日常の生活行動について

① 買い物

図表2-11 買い物に関する行動

| | 多賀城市 | | 仙台市 | | 塩竈市 | | 松島町 | | 七ヶ浜町 | | 利府町 | | その他 | |
|------|------|-------|-----|-------|-----|------|-----|------|------|------|-----|------|-----|------|
| | 実数 | 構成比 | 実数 | 構成比 | 実数 | 構成比 | 実数 | 構成比 | 実数 | 構成比 | 実数 | 構成比 | 実数 | 構成比 |
| 最寄品 | 707 | 84.7% | 49 | 5.9% | 54 | 6.5% | 0 | 0.0% | 1 | 0.1% | 20 | 2.4% | 4 | 0.5% |
| 買回り品 | 371 | 44.8% | 432 | 52.1% | 7 | 0.8% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 5 | 0.6% | 14 | 1.7% |
| 専門品 | 44 | 5.4% | 703 | 86.2% | 5 | 0.6% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 14 | 1.7% | 50 | 6.1% |

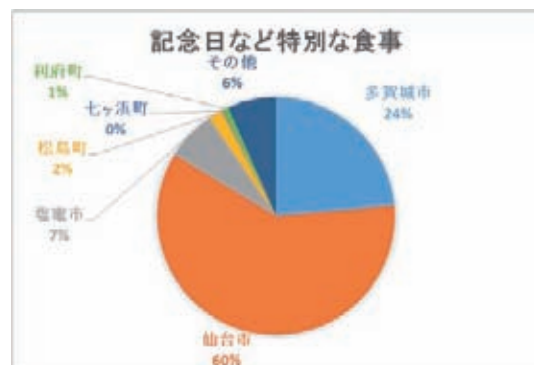
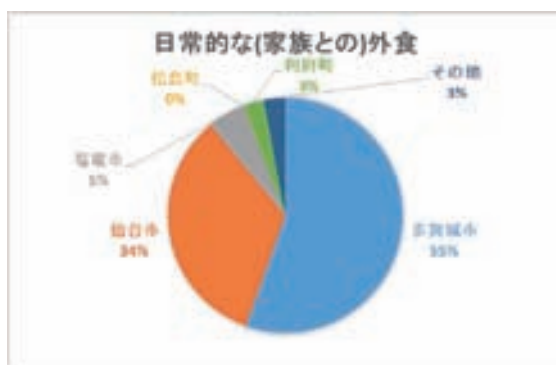


最寄品以外は仙台市に出て買い物をするという本市の住民が多いことが分かる。買回り品・専門品を購入できる店舗が本市内に少ないため、その結果、仙台市に出て買い物をすると考えられる。

② 飲食

図表2-12 飲食に関する行動

| | 多賀城市 | | 仙台市 | | 塩竈市 | | 松島町 | | 七ヶ浜町 | | 利府町 | | その他 | |
|--------------|------|-------|-----|-------|-----|------|-----|------|------|------|-----|------|-----|------|
| | 実数 | 構成比 | 実数 | 構成比 | 実数 | 構成比 | 実数 | 構成比 | 実数 | 構成比 | 実数 | 構成比 | 実数 | 構成比 |
| 日常的な(家族との)外食 | 455 | 55.5% | 275 | 33.5% | 42 | 7.1% | 1 | 0.2% | 0 | 0.0% | 23 | 2.8% | 24 | 2.9% |
| 記念日など特別な食事 | 191 | 23.6% | 486 | 60.1% | 55 | 9.4% | 16 | 2.7% | 1 | 0.2% | 7 | 0.9% | 53 | 6.6% |

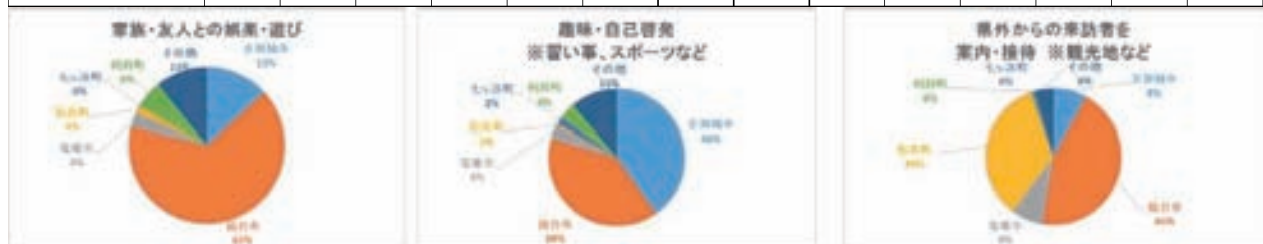


日常的な外食は、すぐに行ける本市内（55%）で済ませるが、特別な日の食事は仙台市にいくという方が約60%を占めている。

③ 余暇

図表 2-13 余暇に関する行動

| | 多賀城市 | | 仙台市 | | 塩竈市 | | 松島町 | | 七ヶ浜町 | | 利府町 | | その他 | |
|---------------------------|------|-------|-----|-------|-----|------|-----|-------|------|------|-----|------|-----|-------|
| | 実数 | 構成比 | 実数 | 構成比 | 実数 | 構成比 | 実数 | 構成比 | 実数 | 構成比 | 実数 | 構成比 | 実数 | 構成比 |
| 家族・友人との娯楽・遊び | 106 | 13.3% | 524 | 65.5% | 25 | 3.1% | 12 | 1.5% | 1 | 0.1% | 46 | 5.8% | 86 | 10.8% |
| 趣味・自己啓発 ※習い事、スポーツなど | 313 | 40.2% | 306 | 39.3% | 25 | 3.2% | 4 | 0.5% | 13 | 1.7% | 32 | 4.1% | 86 | 11.0% |
| 県外からの来訪者を 案内・接待 ※観光地など | 63 | 8.0% | 351 | 44.6% | 60 | 7.6% | 271 | 34.4% | 3 | 0.4% | 3 | 0.4% | 36 | 4.6% |

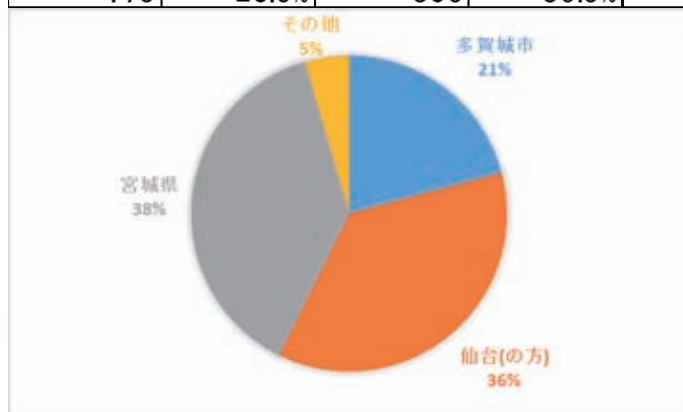


余暇については、娯楽施設が多い仙台市で過ごす人が多い。ただし、趣味や自己啓発については、身近で行うことができるため本市内で行うという方が多い（40.2%）。

(ウ) 県外に行ったとき出身を尋ねられたら、どのように返答するかについて

図表 2-14 出身地を問われた時の回答

| 多賀城市 | | 仙台(の方) | | 宮城県 | | その他 | |
|------|-------|--------|-------|-----|-------|-----|------|
| 実数 | 構成比 | 実数 | 構成比 | 実数 | 構成比 | 実数 | 構成比 |
| 175 | 20.9% | 306 | 36.5% | 320 | 38.1% | 38 | 4.5% |



仙台市や宮城県と答える人の割合がそれぞれ30%を超え、約20%の多賀城市と答える人の割合を上回っている。

本市の全国的な認知度の低さを意識している住民が多い可能性があると推察される。

(シ) 誇りや自慢に思っている地域の宝について

① 本市内で来客をもてなすとしたら

図表2-15 来客のもてなし

| もてなしの項目 | 連れて行きたい場所として回答されたもの |
|---------|---|
| 食べる | 鳥善、利久、くいしん坊、小島、寿司、うまい鮎勘、グリーンゲイブル、キャッスルプラザ、喜久水庵、蔵、たんや善治郎、とんかつ一代、かつ庄、亀喜寿司、イオン、味くら、やまなか家、和み家、山ざき、まるまつ、キリンビール園、コトリコーヒー、焼肉、アッラミア、多賀城駅周辺、牛タン、ガスト、ティファニー、城伸寿司、明華苑、グリーンライフコーヒーロースター、カズノリムラタ、ガネーシャ、Beaubourg、服部コーヒー、梅月堂、大吉亭、美彩ダイニング湯田、和食、ラーメン屋、むら泉、松平、徳兵衛、貴伸、桜木製麺所、こうあん、銀鱗、イタリア食堂、油そばはてな、一步、明月苑、むつごろう、宮ステーキ、三島屋、マクドナルド、とんちん館、たま田 |
| お土産を買う | カズノリムラタ、イオン、梅月堂、ティファニー、ファソン・ドウ・ドイ、喜久水庵、ヨークベニマル、東北歴史博物館、榮太楼、多賀城駅、プチトリアノン、ピュイダムール、笹かまぼこ、阿部蒲鉾店、仙台市、ヤマザワ、仙台駅、ドゥーブルマロン、花月堂、Ko-an、あやめまつり、菓子店、ケーキ店、酒店、高砂、高砂生協、多賀城みそ、たなばたけ、萩の月、ビッグ、三井アウトレット、ミラックマツヤ、一茶、観光案内所、農協、菓匠三全、スーパー、鐘崎かまぼこ、寿正堂 |

【食べる】

最も記載が多かった「鳥善」でも59名のみであり、全体的に「食」に対する意見が少ない。また、「利久」といった牛タン店、店舗名を記載せず「寿司」と記載するなど、食のカテゴリーでの回答も目立った。

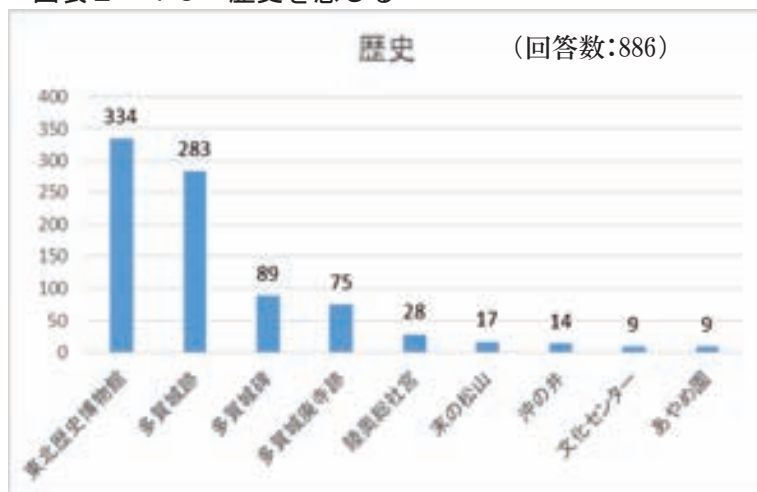
【お土産を買う】

「カズノリムラタ」をはじめ、菓子店が上位5つの中に4つ入っている。しかし、2番目にイオン、7番目にヨークベニマルと、いわゆるスーパーマーケットや大型ショッピングセンターが上位に入っており、お土産を買う店舗として専門性（地域訴求やこだわり）のある店舗は少ないということが分かる。

②歴史を感じるもの

図表 2-16 歴史を感じる

(単位：人)



| No. | 名称 | 数 |
|-----|-------------|-----|
| 1 | 東北歴史博物館 | 334 |
| 2 | 多賀城跡 | 283 |
| 3 | 多賀城跡碑 | 89 |
| 4 | 多賀城跡寺跡 | 75 |
| 5 | 陸奥総社宮 | 28 |
| 6 | 末の松山 | 17 |
| 7 | 沖の井 | 14 |
| 8 | 文化センター | 9 |
| 9 | あやめ園 | 9 |
| 10 | 高崎遺跡 | 4 |
| 11 | 大代横穴古墳 | 2 |
| 12 | 多賀城駅 | 2 |
| 13 | 野田の玉川 | 2 |
| 14 | 六月坂 | 3 |
| 15 | 万葉まつり | 2 |
| 16 | イオン | 1 |
| 17 | 市川橋周辺 | 1 |
| 18 | おもわくの橋 | 1 |
| 19 | カズノリムラタ | 1 |
| 20 | グリーンベルト | 1 |
| 21 | 塩釜 | 1 |
| 22 | 塩釜、松島、仙台に行く | 1 |
| 23 | 多賀城市 | 1 |
| 24 | 松島 | 1 |
| 25 | 砂押川 | 1 |
| 26 | 史遊館 | 1 |
| 27 | 八幡神社 | 1 |
| 28 | 加瀬沼 | 1 |

東北歴史博物館が 334、多賀城跡が 283 の回答となっており、突出した結果となっている。本市の歴史観光を考える際には、この 2 施設を中心に進めていく。

(ス) 本市内のベストスポットについて

自然に関わるスポットについての回答が 51.2%あり、街並みと回答した人も 27.9%いた。

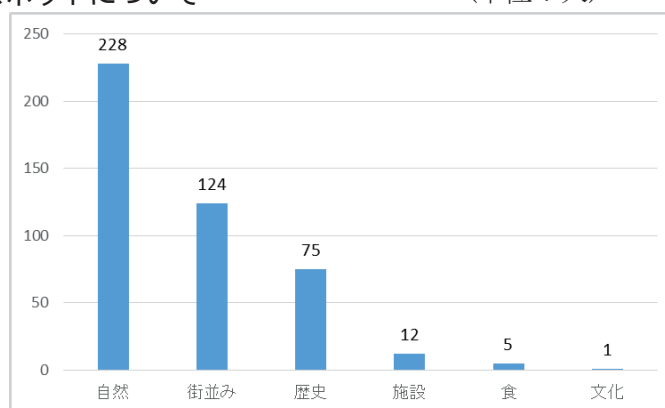
一方で、施設と回答したものは 3%未満であることから、本市の住民は、自然や街並みが本市の価値であると捉えていることが見てとれる。

図表 2-17 本市内のベストスポットについて

(単位：人)

| |
|-----------------|
| 回答者：310 |
| 延べ回答数：445 |
| 一人当たりの平均回答数：1.4 |

| 分類 | 回答数 | 構成比 |
|-----|-----|-------|
| 自然 | 228 | 51.2% |
| 街並み | 124 | 27.9% |
| 歴史 | 75 | 16.9% |
| 施設 | 12 | 2.7% |
| 食 | 5 | 1.1% |
| 文化 | 1 | 0.2% |



本市は史都と呼ばれているが、ベストスポットに歴史関連の資源を回答した人が 16.9%であったのに対し、自然や街並みなどの景色を回答した人がそれを上回っていることから、本市の住民にとって本市は歴史というイメージが定着しているものの、自然や景観という第 2 の都市イメージも存在していると考えられる。

図表2-18 本市内のベストスポット内容

(単位：人)

■ 自然

| No. | 分類 | 回答数 |
|-----|---------|-----|
| 1 | 多賀城跡 | 30 |
| 2 | 加瀬沼周辺 | 24 |
| 3 | あやめ園 | 20 |
| 4 | 砂押川 | 18 |
| 5 | 東北歴史博物館 | 14 |
| 6 | 六月坂 | 9 |
| 7 | 東北学院大学 | 5 |
| 8 | 多賀城廃寺跡 | 5 |
| 9 | 多賀城碑 | 5 |
| 10 | 多賀城公園 | 5 |
| 11 | 山王駅 | 5 |
| 12 | 陸奥総社宮 | 5 |
| 13 | ロジュマン | 5 |
| 14 | 野田の玉川 | 2 |
| 15 | 樋の口大橋 | 2 |
| 16 | その他 | 49 |

■ 街並み

| No. | 分類 | 回答数 |
|-----|---------------------------|-----|
| 1 | 多賀城跡から見える景色(ex:夜景・工業地帯など) | 22 |
| 2 | 多賀城駅(ex:イルミネーションなど) | 8 |
| 3 | イオンからの景色 | 4 |
| 4 | 山王道路から見える夜景 | 4 |
| 5 | 文化センターからみる市内の景色 | 4 |
| 6 | 砂押川の遊歩道 | 4 |
| 7 | 東北学院大学周辺 | 3 |
| 8 | その他 | 47 |

■ 歴史

| No. | 分類 | 回答数 |
|-----|---------|-----|
| 1 | 多賀城跡 | 40 |
| 2 | 東北歴史博物館 | 14 |
| 3 | 多賀城廃寺跡 | 6 |
| 4 | 多賀城碑 | 5 |
| 5 | 末の松山 | 4 |
| 6 | 陸奥総社宮 | 4 |
| 7 | その他 | 2 |

■ 施設

| No. | 分類 | 回答数 |
|-----|-------------|-----|
| 1 | 文化センター | 2 |
| 2 | 家電量販店 | 1 |
| 3 | 多賀城市立図書館 | 1 |
| 4 | 多賀城市役所 | 1 |
| 5 | 多賀城駅 | 1 |
| 6 | 大代公園 | 1 |
| 7 | 陸上自衛隊多賀城駐屯所 | 1 |

■ 食

| No. | 分類 | 回答数 |
|-----|-------|-----|
| 1 | レストラン | 2 |
| 2 | スーパー等 | 2 |
| 3 | ラーメン店 | 1 |

■ 文化

| No. | 分類 | 回答数 |
|-----|--------|-----|
| 1 | あやめまつり | 1 |

(㉔) 地域の昔ながらの習慣、珍しい習慣

伝統的な文化や風習、行事について祭と回答した人が 60.7%いることから、祭に対しての認知度が高いことが分かる。

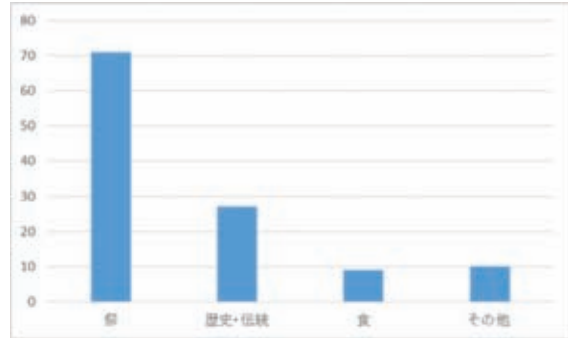
歴史・伝統と回答した人は 23.1%であり、史都多賀城と呼ばれている昔ながらの習慣や伝統文化への認知度は低い可能性があるものと考えられる。

図表 2-19 地域の歴史・文化・伝統について

(単位：人)

| 分類 | 回答数 | 構成比 |
|-------|-----|-------|
| 祭 | 71 | 60.7% |
| 歴史・伝統 | 27 | 23.1% |
| 食 | 9 | 7.7% |
| その他 | 10 | 8.5% |

回答者：95
 延べ回答数：117
 一人当たりの平均回答数：0.13



この間に回答した人は95名(10.8%)であることから、昔ながらの習慣や伝統的な文化や風習が継承されていない可能性があるものと考えられる。

■ 祭

| No. | 分類 | 回答数 |
|-----|--------|-----|
| 1 | 万葉まつり | 12 |
| 2 | 夏まつり | 8 |
| 3 | あやめまつり | 6 |
| 4 | どんと祭 | 5 |
| 5 | 柏木神社祭 | 3 |

■ 食

| No. | 分類 | 回答数 |
|-----|------------------------|-----|
| 1 | すっぽこ汁 | 2 |
| 2 | 芋煮 | 1 |
| 3 | 旧石器で料理 | 1 |
| 4 | 正月に雑煮の餅を取り出して納豆をかけて食べる | 1 |
| 5 | そば粉づくり | 1 |
| 6 | 多賀城の神社の祭りに草餅をつくって祝う | 1 |
| 7 | 年越しにナメタを食べる | 1 |

■ 歴史・伝統

| No. | 分類 | 回答数 |
|-----|-------------------------|-----|
| 1 | 契約講 | 3 |
| 2 | 盆火をたく | 2 |
| 3 | お正月に年の悪い人は各家を訪れてお餅をもらう | 2 |
| 4 | 敬老会 | 2 |
| 5 | 鹿踊り | 2 |
| 6 | 多賀城太鼓 | 2 |
| 7 | 灯籠流し | 1 |
| 8 | 農家の家で新築祝い等で今でもお持ちをまく | 1 |
| 9 | 古い町名(八幡字馬場、本丸、沖) | 1 |
| 10 | 虫おくり | 1 |
| 11 | 正月14日夕方各家庭を回って餅を持って回る行事 | 1 |
| 12 | 元朝参り | 1 |
| 13 | 西園寺の除夜の鐘つき | 1 |

■ その他

| No. | 分類 | 回答数 |
|-----|---------------|-----|
| 1 | 12時と17時に音楽がなる | 2 |
| 2 | 学校行事 | 1 |
| 3 | 地藏菩薩 | 1 |
| 4 | 地引網 | 1 |
| 5 | 小学校で行う田植えや田舎利 | 1 |
| 6 | 縄文土器づくり | 1 |
| 7 | 田植え、稲刈り | 1 |
| 8 | 多賀城駅のイルミネーション | 1 |
| 9 | 地域の掃除 | 1 |

(2) 仙台市及び周辺自治体住民意識調査結果

周辺の自治体に住む住民を対象として、インターネットによるアンケート調査を行った。調査方法及び期間等は次のとおりである。

| | |
|---------|--|
| ・調査方法 | インターネットによる調査 |
| ・回答者 | 本市近隣自治体に住む住民(インターネット調査会社のモニター登録者から各自治体の人口等によってサンプル数を配分) (調査対象市町：仙台市、塩竈市、東松島市、松島町、七ヶ浜町、利府町) |
| ・有効回収数 | 1,037票(回収アンケートすべてを分析に使用) |
| ・調査時期 | 平成27年9月16日～9月18日 |
| ・主な調査項目 | ① 多賀城市に対するイメージ ② 訪れたことのある観光スポット(複数回答) ③ 多賀城市内の各イベントに対する認知度 ④ 多賀城市への来訪・通過の際の交通手段 ⑤ この地域の歴史・文化に触れる場所 ⑥ 道の駅に必要な施設(複数回答) ⑦ 多賀城観光活性化に関する自由記述 ⑧ 回答者属性 |

ア 仙台市及び周辺自治体住民意識調査結果の概要

(7) 歴史面での観光地についてのPRが必要

近隣市町の住民においては、本市に「歴史がある」というイメージは持っていても、多賀城跡をはじめとした本市内の歴史的資源への訪問経験は乏しいのが現状である。

本市の歴史を感じられる多賀城跡等の史跡については、より積極的なPRが必要であると考えられる。

(4) 歴史に頼らない集客要素の付加が課題

一方で、本市の住民へのアンケート結果を踏まえると、歴史的な施設を訪問したとしても、飲食店や名物となるお土産がなければ、本市として大きな集客力を持つことは難しいともいえる。歴史と絡めた商品の開発・PRを検討していくことが重要になるものと考えられる。

(ウ) イベントのPRが必要

様々なイベントを本市内で行っているにもかかわらず、近隣市町の住民からの認知度は非常に低いのが現状である。まず本市の住民の認知度が高いあやめまつり、万葉まつり、ザ・祭り in 多賀城からPRを行い、市外の認知・集客を図っていくことが重要となるものと考えられる。

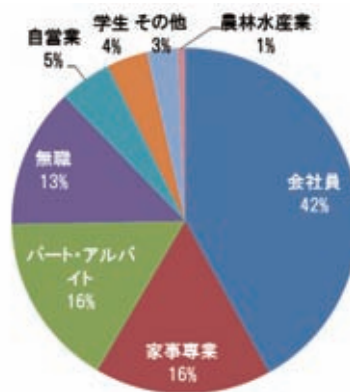
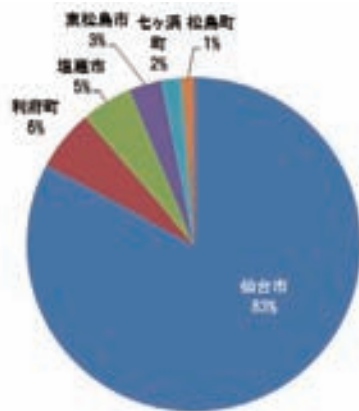
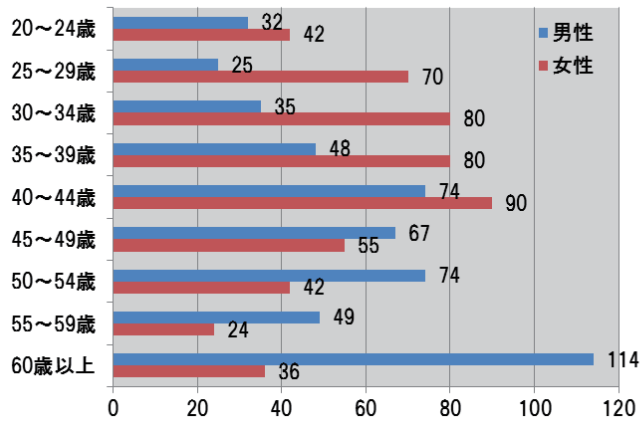
一方で、初めての開催でまだ実績もなく、本市の住民への周知も十分とは言えなかったビアサミットやなべまつりを知っており、更に実際に参加したと回答している周辺自治体住民も少数ながらいることから、市外にも何らかの方法で本市のイベント情報に接している住民がいることも分かった。

イ 主な回答結果と多賀城市民意識調査との比較

(7) 回答者属性

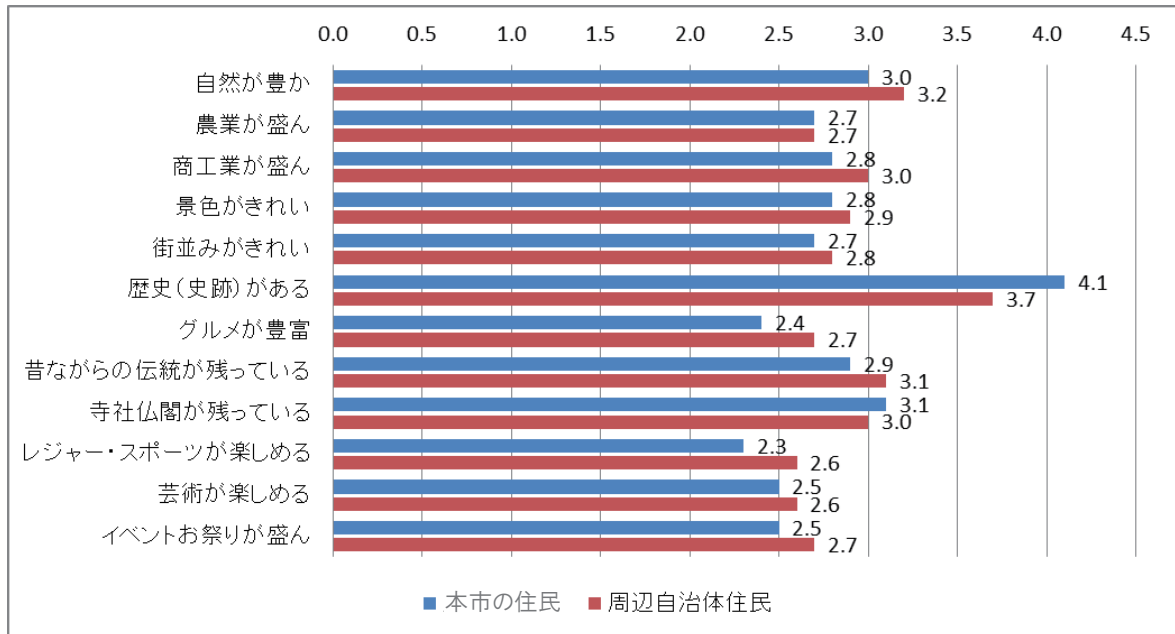
図表 2-20 回答者属性

(単位：人)



(イ) 多賀城市に対するイメージ

図表2-21 本市の住民 (n=878)、周辺自治体住民 (n=1,037) 比較



本市に対する最も強いイメージは、本市の住民、周辺自治体住民の方いずれにおいても「歴史(史跡)がある」となっている。

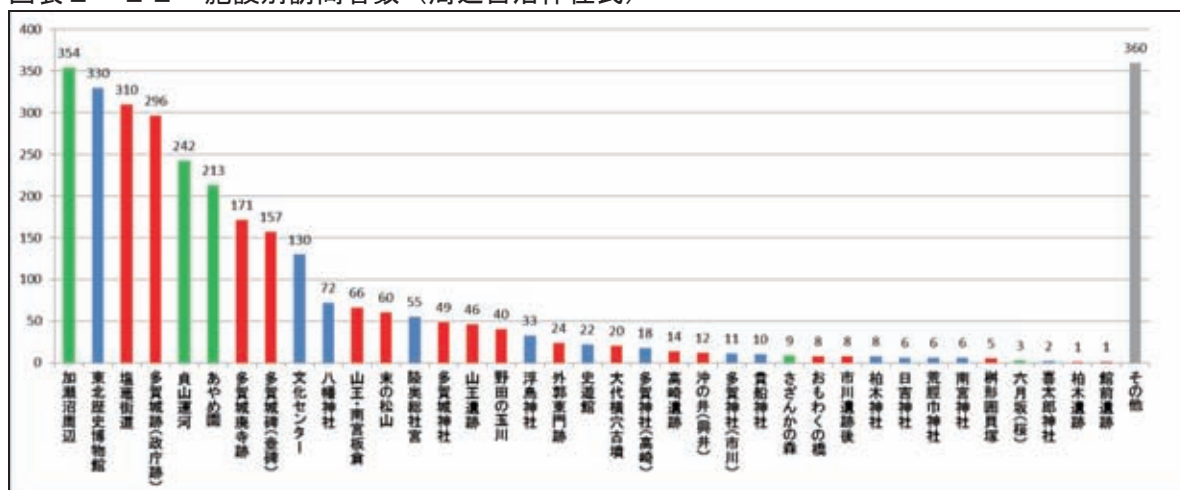
- 歴史(史跡)がある
- 社寺仏閣が残っている

という2項目については、本市の住民の得点が周辺自治体住民を上回っていたが、残りの10個のイメージに対しては、周辺自治体住民の方が、本市の住民の得点を上回っている。周辺自治体住民の方は、2番目に「自然が豊か」というイメージを持っており、1番目(歴史(史跡)がある)との差も小さいことから、観光客の誘致に活かせる可能性があると考えられる。

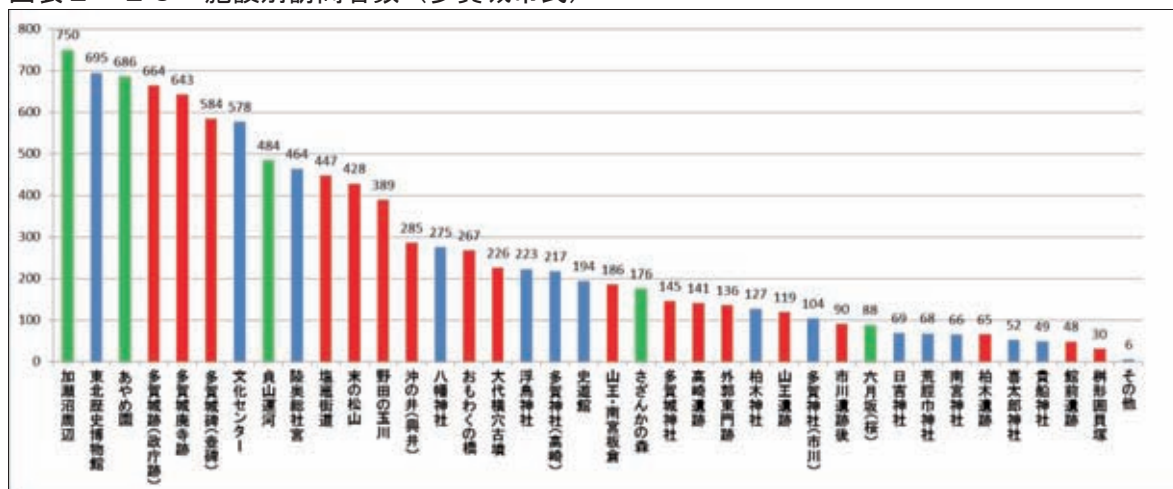
(ウ) 施設別訪問者数

■ …自然遺産 ■ …人文遺産 ■ …歴史遺産

図表 2-2 2 施設別訪問者数（周辺自治体住民） （単位：人）



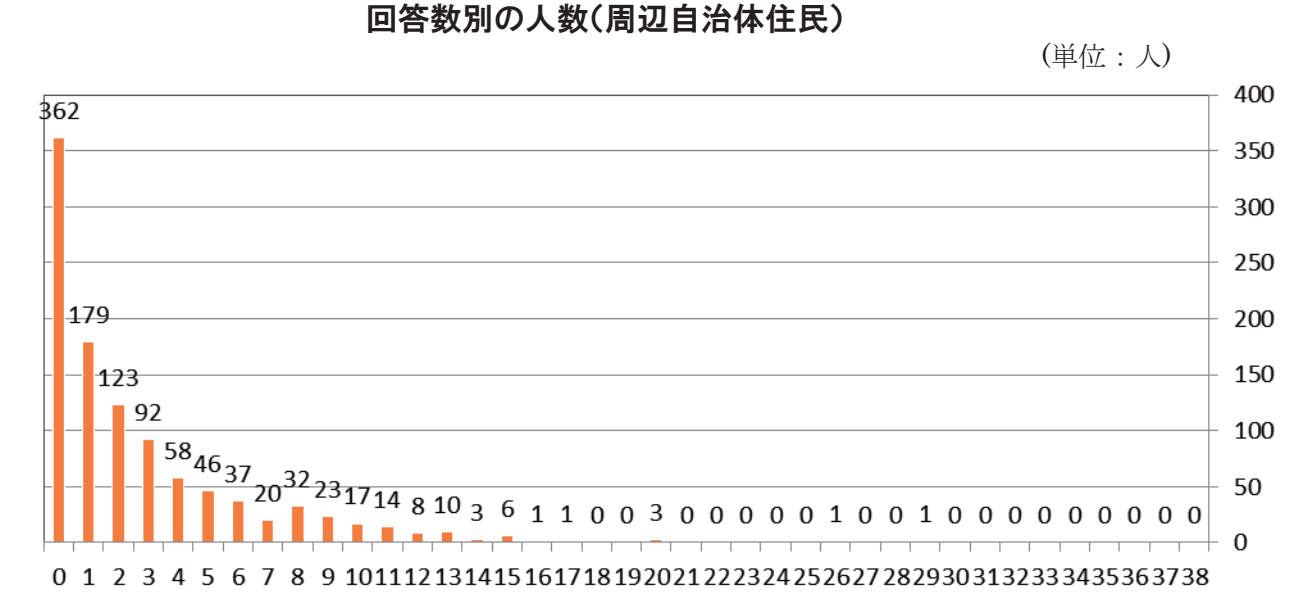
図表 2-2 3 施設別訪問者数（多賀城市民） （単位：人）



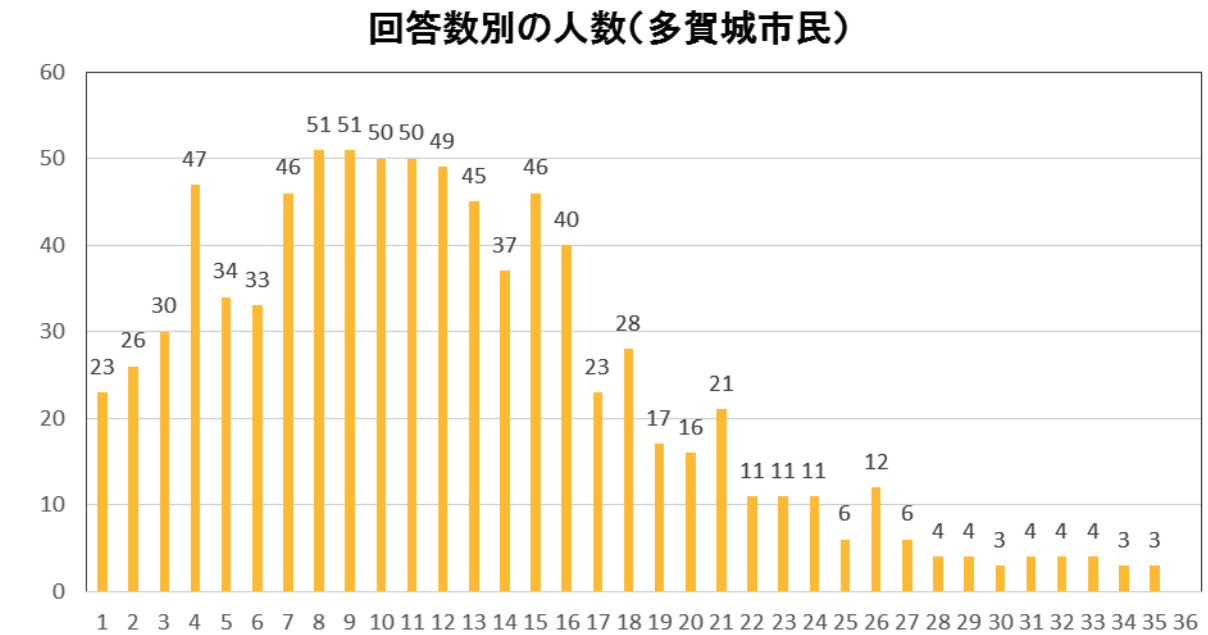
本市の住民及び周辺自治体住民のいずれにおいても、加瀬沼周辺への訪問者数が最も多いという結果になった。一方で、どこにも訪問したことがないという方が、本市の住民では6名（約1.4%）であるに対し、周辺自治体住民では360名（約35%）存在する。このことから、周辺自治体に住む方が本市に観光を目的として来ることは少ないものと考えられる。

(I) 訪問経験のある施設数

図表2-24 回答数別人数比較



※ 横軸は訪問先数(単位:回)



※ 横軸は訪問先数(単位:回)

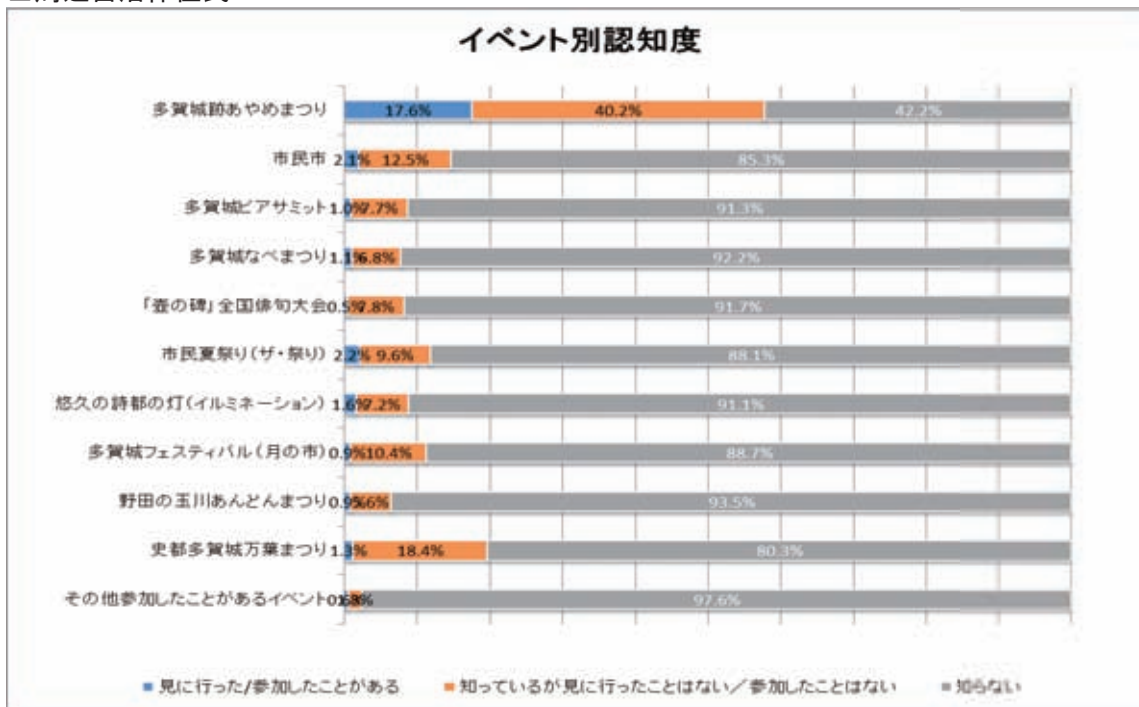
最も顕著な差が見られたのが、一人当たりの訪問施設数である。本市の住民は、一人平均12ヶ所の観光スポットを訪問しており、これは周辺自治体住民(平均2.7ヶ所)の4.4倍に相当する。

本市の住民は、本市の観光スポットを認知して訪問しているが、周辺自治体住民には知られていない段階であると考えられる。

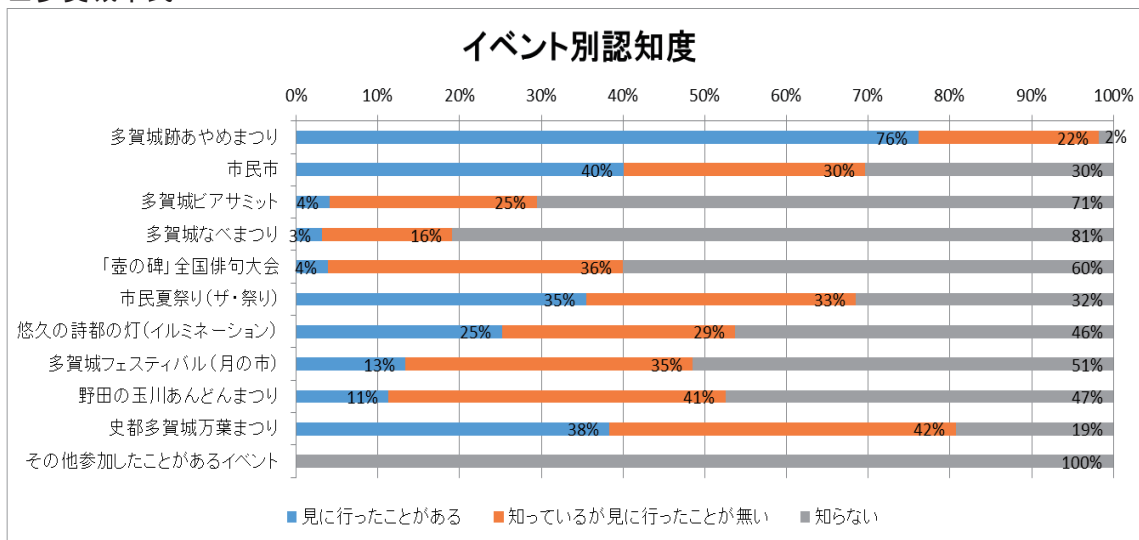
(オ) イベント別認知度

図表 2-25 イベント別認知度比較

■ 周辺自治体住民



■ 多賀城市民



全体的な傾向として、本市の住民と周辺自治体住民の間には、イベントへの認知度に大きな差があることが見てとれる。本市の住民では認知度 98%のあやめまつりでも、周辺自治体の住民の認知度は 42%にとどまっている。

(3) 多賀城市周辺観光地観光動向アンケート調査結果

周辺の観光地を訪れる観光客は、どのようなルートで地域を回り、どのような消費活動を行うのかを把握すること、また本市のことを認識しているか、どのようなイメージを持っているかを把握するために、観光地で街頭アンケート調査を行った。

アンケート調査の調査方法や期間、設問項目は次のとおりである。

| | |
|---------|---|
| ・調査方法 | 対面調査（アンケート及びヒアリング調査） |
| ・回答者 | ① 松島町 松島公園定期観光船発着場周辺及び レストハウス来訪者 ② 仙台市 仙台うみの杜水族館来訪者 |
| ・有効回収数 | 各施設 100 票ずつ |
| ・調査時期 | ① 松島町 平成 27 年 11 月 28 日 ② 仙台市 平成 27 年 12 月 5 日 |
| ・主な調査項目 | ① 今回の旅行の目的 ② 来訪時に利用した主な交通機関 ③ 日帰りか宿泊か ④ どこに宿泊するか ⑤ 別の市町に立ち寄るか（※複数選択可） ⑥ 今回の旅行で使う費用 ⑦ 観光地に求めるもの（※複数選択可） ⑧ 多賀城市の認知度 ⑨ 多賀城で行ったことがある場所（※複数選択可） ⑩ 多賀城に行ってみたいと思わせるものは何か（※複数選択可） ⑪ 回答者属性 |

ア 多賀城市周辺観光地観光動向アンケート調査結果の概要

松島公園とうみの杜水族館の双方の観光客アンケートから、観光客層の違い、及びそれぞれから本市に誘引を図る上での課題について検討を行った。

図表 2-26 各観光地 来訪者の特性比較

| 松島公園 | | うみの杜水族館 |
|--|------------------|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ■関東・甲信越からの観光客が多く、宿泊を伴う方がほとんどである。 ■広域であるにもかかわらず、本市を知っている方が全体の66%存在する。名所・旧跡を観光目的にする割合が高いため、本市の歴史・文化的な価値を訴求することで集客の見込みはある層であると言える。 | 概要・誘引に向けた課題 | <ul style="list-style-type: none"> ■県内客が過半を占め、日帰り客がほとんどである。自家用車で移動するため、本市を訪れる目的がはっきり定めれば集客は可能であるといえる。 ■志向性として、観光に食事・グルメや温泉浴といった要素を求める傾向が強く、松島公園を訪れる客層とは異なるものと推察される。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ■関東・甲信越地区の観光客が53%を占める ■県内観光客の比率は18%程度 | 居住地 | <ul style="list-style-type: none"> ■95%が東北エリアからの観光客 ■県内観光客の比率は55% |
| 20代 16名 30代 16名 40代 14名 50代 25名 60代 19名 | 年齢層 | 10代 1名 20代 16名 30代 34名 40代 16名 50代 21名 60代 9名 70歳以上 2名 |
| <ul style="list-style-type: none"> ■74%が宿泊を伴う観光 ■宿泊地は松島町が50%、仙台市が32% | 日帰りor宿泊 | <ul style="list-style-type: none"> ■72%が日帰り観光客 ■宿泊地は仙台市が55% ※地下鉄開業前に調査 |
| <ul style="list-style-type: none"> ■自家用車比率は47% ■公共交通機関の利用者が32%存在 | 交通手段 | <ul style="list-style-type: none"> ■自家用車比率は79% ■公共交通機関 7% 観光バス 11% |
| <ul style="list-style-type: none"> ■多賀城市を知らない 34% ■知っているが行ったことはない 49% ■行ったことがある 17% | 多賀城市の認知度・訪問経験の有無 | <ul style="list-style-type: none"> ■多賀城市を知らない 9% ■知っているが行ったことはない 32% ■行ったことがある 59% |
| <ul style="list-style-type: none"> ■名所・旧跡 100人中61人 ■食事・グルメ 100人中59人 | 観光に求める要素 | <ul style="list-style-type: none"> ■食事・グルメ 100人中45人 ■温泉浴 100人中32人 |

イ 松島公園観光客調査結果

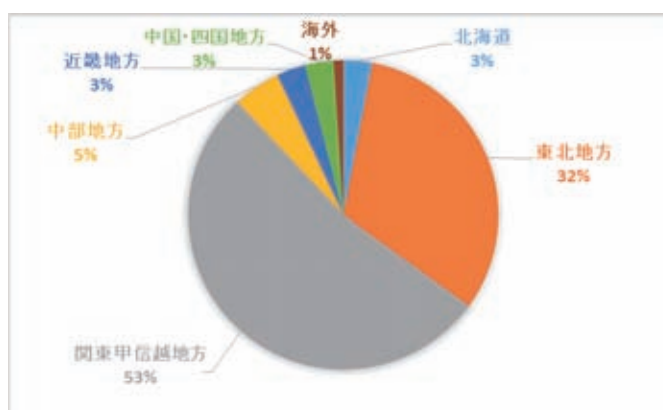
(7) 居住地

図表 2-27 松島公園訪問者の地域別人数

(単位：人)

n=100

| 地方別 | 人数 |
|---------|----|
| 北海道 | 3 |
| 東北地方 | 32 |
| 関東甲信越地方 | 53 |
| 中部地方 | 5 |
| 近畿地方 | 3 |
| 中国・四国地方 | 3 |
| 九州地方 | 0 |
| 海外 | 1 |



東北地方からの観光客が32%存在する一方、関東甲信越地方からの観光客が50%以上を占めている。

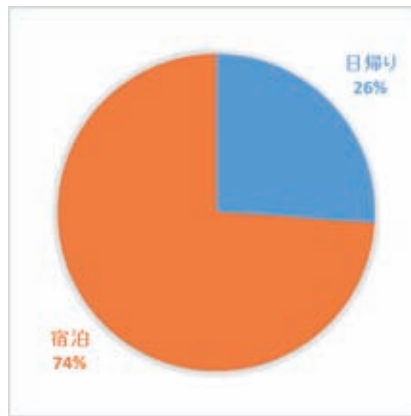
松島公園は、遠方からの観光客も多いことから、全国的に知名度が高いことが分かる。

(イ) 宿泊者率

図表2-28 松島公園来訪者 宿泊・日帰り割合 (単位：人)

n=100

| 日帰り | 宿泊 |
|-----|----|
| 26 | 74 |



宿泊を伴う観光客が74%を占めている。

江戸初期から日本を代表する景勝地として、日本三景の一つに数えられる「松島」を擁する松島町は、観光客の集客範囲も広く、東北以外からの観光客も多いため、日帰りよりも宿泊者が多いことが分かる。

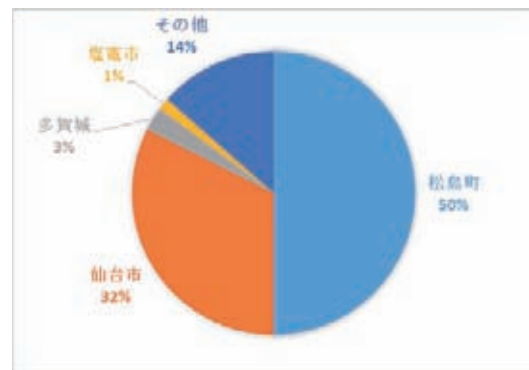
(単位：人)

(ウ) 宿泊先

図表2-29 松島公園来訪者宿泊先

n=74

| 松島町 | 仙台市 | 塩竈市 | 多賀城市 | その他 |
|-----|-----|-----|------|-----|
| 37 | 24 | 1 | 2 | 10 |



松島町に宿泊している人が50%、仙台市に宿泊している人が約30%を占めている。

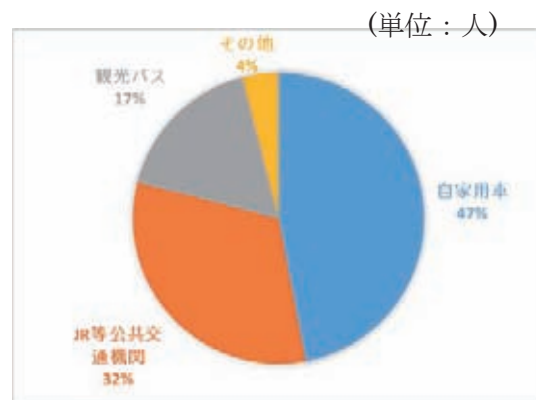
仙台市以外では、松島町の近隣市町に宿泊する人が少ないことが分かる。

(イ) 交通手段

図表2-30 松島公園来訪者交通手段

n=100

| 自家用車 | JR等公共交通機関 | 観光バス | その他 |
|------|-----------|------|-----|
| 47 | 32 | 17 | 4 |



自家用車で松島公園を訪れている人の割合が最も高く、47%を占めている。

また、松島町はJRのアクセスが良いため、公共交通機関で訪れる人も多く、全体の32%を占めている。

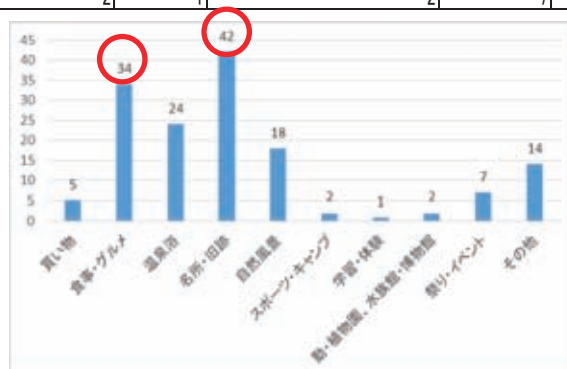
(オ) 旅行の目的 (※複数選択可)

図表 2-3-1 松島公園来訪者 旅行の目的

(単位：人)

| | 買い物 | 食事・グルメ | 温泉浴 | 名所・旧跡 | 自然風景 | スポーツ・キャンプ | 学習・体験 | 動・植物園、水族館・博物館 | 祭り・イベント | その他 |
|-----|-----|--------|-----|-------|------|-----------|-------|---------------|---------|-----|
| 回答数 | 5 | 34 | 24 | 42 | 18 | 2 | 1 | 2 | 7 | 14 |

名所・旧跡をみるために松島町を訪れたという人が 100 人中 42 人である。また、食事・グルメを目的に来ている人も 100 人中 34 人存在する。



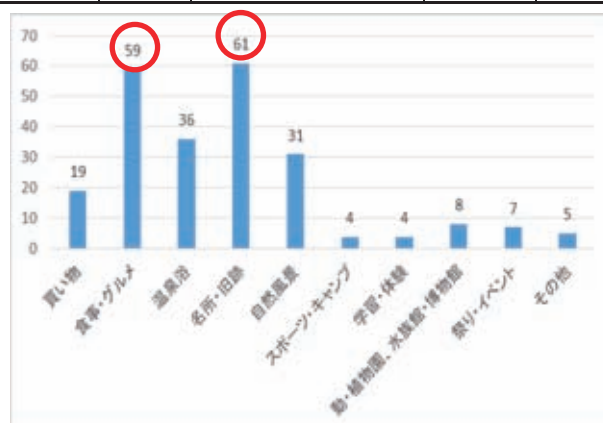
(カ) 観光地に求めるもの (※複数選択可)

図表 2-3-2 松島公園来訪者 観光地に求めるもの

(単位：人)

| | 買い物 | 食事・グルメ | 温泉浴 | 名所・旧跡 | 自然風景 | スポーツ・キャンプ | 学習・体験 | 動・植物園、水族館・博物館 | 祭り・イベント | その他 |
|-----|-----|--------|-----|-------|------|-----------|-------|---------------|---------|-----|
| 回答数 | 19 | 59 | 36 | 61 | 31 | 4 | 4 | 8 | 7 | 5 |

観光地に求めるものを名所・旧跡をみるためと回答した人が 100 人中 61 人である。また、食事・グルメを求めている人は、100 人中 59 人である。



(キ) “旅行の目的” と “観光地に求めるもの” の比較

図表 2-3-3 旅行の目的 (複数選択可)

(単位：人)

| | 買い物 | 食事・グルメ | 温泉浴 | 名所・旧跡 | 自然風景 | スポーツ・キャンプ | 学習・体験 | 動・植物園、水族館・博物館 | 祭り・イベント | その他 |
|-----|-----|--------|-----|-------|------|-----------|-------|---------------|---------|-----|
| 回答数 | 5 | 34 | 24 | 42 | 18 | 2 | 1 | 2 | 7 | 14 |

図表 2-3-4 観光地に求めるもの (複数選択可)

(単位：人)

| | 買い物 | 食事・グルメ | 温泉浴 | 名所・旧跡 | 自然風景 | スポーツ・キャンプ | 学習・体験 | 動・植物園、水族館・博物館 | 祭り・イベント | その他 |
|-----|-----|--------|-----|-------|------|-----------|-------|---------------|---------|-----|
| 回答数 | 19 | 59 | 36 | 61 | 31 | 4 | 4 | 8 | 7 | 5 |

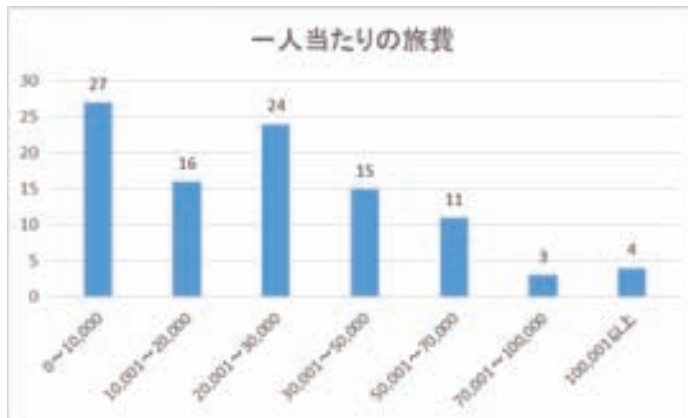
“旅行の目的” と “観光地に求めるもの” が、一致しているということが分かる。いずれにおいても、名所・旧跡を求める意見が強く、観光地に求めるものとしては、食事・グルメを選択する方が旅行の目的と比較して多くなっている。

(7) 一人当たりの旅行費用

図表2-35 松島公園来訪客一人当たりの旅行費用（全体）

（単位：人）

| | 0~10,000 | 10,001~20,000 | 20,001~30,000 | 30,001~50,000 | 50,001~70,000 | 70,001~100,000 | 100,001以上 |
|-----|----------|---------------|---------------|---------------|---------------|----------------|-----------|
| 回答数 | 27 | 16 | 24 | 15 | 11 | 3 | 4 |
| 割合 | 27% | 16% | 24% | 15% | 11% | 3% | 4% |



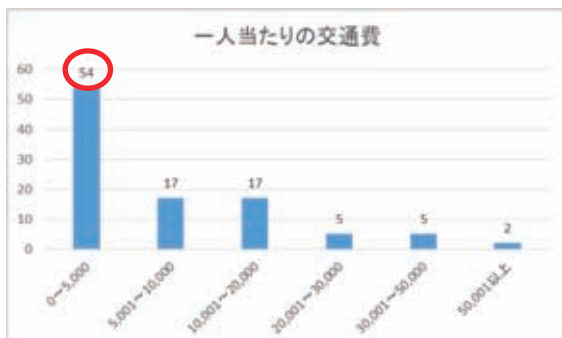
一人当たりの旅行費用全体を1万円以内に収める人の割合が最も高く、27%を占めている。旅行費用を3万円以内に収める人が約70%いることが分かる。

図表 2-36 一人当たり旅行費用内訳

(単位：人)

① 交通費

n=100

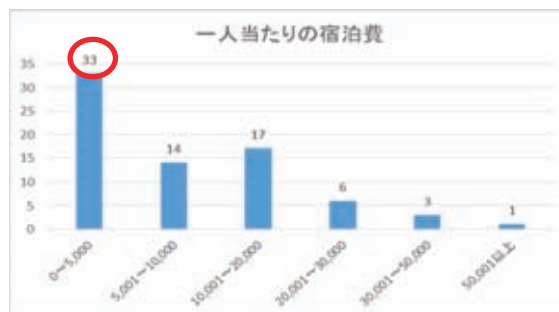


※0~5,000円の人が54人いる。そのうち18人が県内客である。

平均 10,815 円

② 宿泊費

n=74

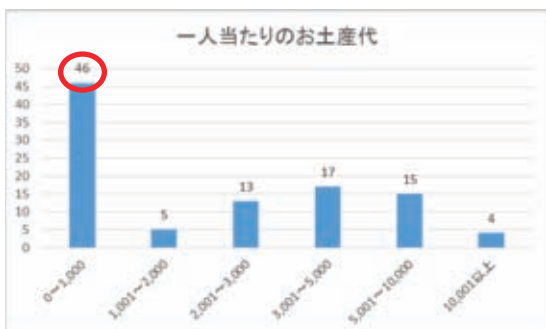


※0~5,000円の人が33人いる。そのうち22人は実家や友人宅で宿泊をするため、0から5,000円の割合が大きい。

平均 11,022 円

③ お土産代

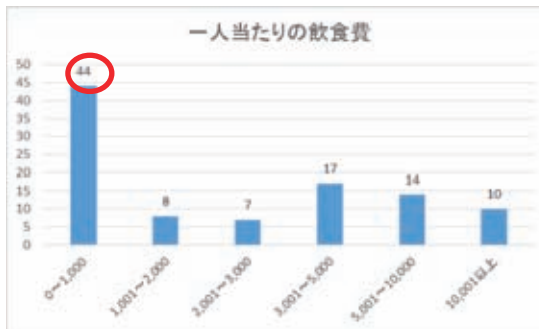
n=100



平均 3,625 円

④ 飲食費

n=100

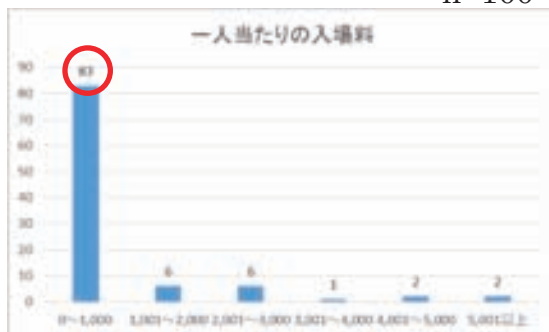


※0~1,000円の人が44人いる。そのうち18人が県内客である。

平均 5,092 円

⑤ 入場料

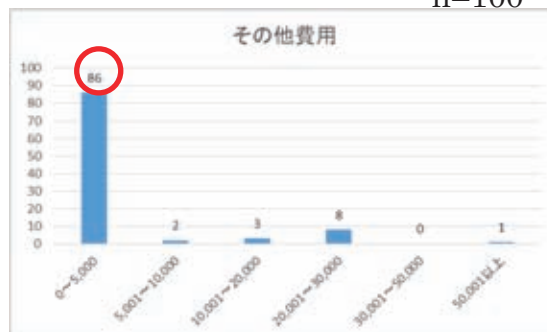
n=100



平均 600 円

⑥ その他

n=100



平均 3,435 円

ウ 仙台うみの杜水族館訪問客調査結果

(7) 居住地

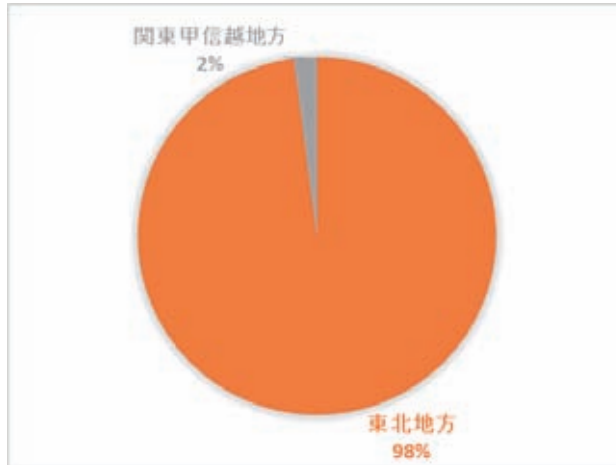
図表 2-37 仙台うみの杜水族館来訪客居住地

(単位：人)

n=97

| 地方別 | |
|---------|----|
| 北海道 | 0 |
| 東北地方 | 95 |
| 関東甲信越地方 | 2 |
| 中部地方 | 0 |
| 近畿地方 | 0 |
| 中国・四国地方 | 0 |
| 九州地方 | 0 |
| 海外 | 0 |

| 県別 | |
|-----|----|
| 宮城県 | 56 |
| 福島県 | 13 |
| 岩手県 | 11 |
| 青森県 | 6 |
| 山形県 | 6 |
| 秋田県 | 3 |
| 群馬県 | 1 |
| 東京都 | 1 |



東北地方から訪れている人が98%を占めている。また、県別に見ると地元である宮城県からの訪問者が最も多く55%以上を占めていることが分かる。仙台うみの杜水族館は、近隣の人々が集まるスポットであるということが分かる。

(4) 宿泊者率

図表 2-38 仙台うみの杜水族館来訪客 宿泊日帰り割合

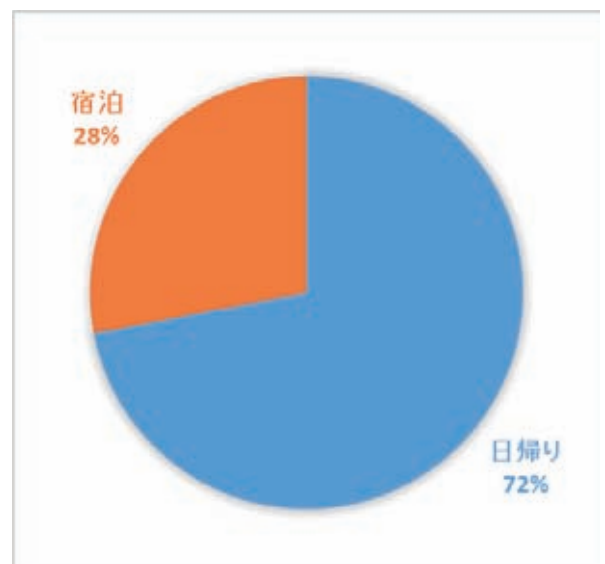
(単位：人)

n=100

| 日帰り | 宿泊 |
|-----|----|
| 72 | 28 |

日帰りする人が72%を占めている。

仙台うみの杜水族館は、地元である宮城県の人が多く訪れているため日帰りの人が多い。



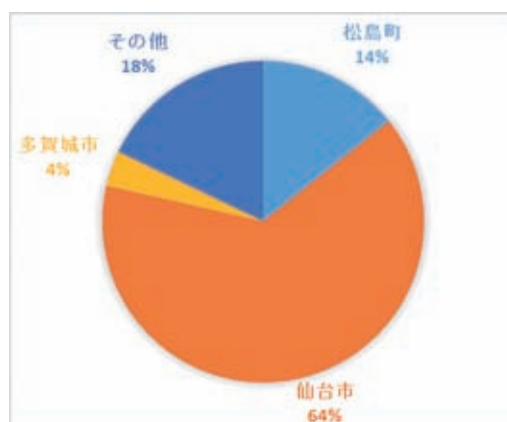
(ウ) 宿泊先

図表 2-39 仙台うみの杜水族館来訪客宿泊先

(単位：人)

| 松島町 | 仙台市 | 塩竈市 | 多賀城市 | その他 |
|-----|-----|-----|------|-----|
| 4 | 18 | 0 | 1 | 5 |

宿泊者のうち、仙台市に宿泊している人が64%を占めている。仙台市に宿泊した人が、利便性が良いためであるということが分かる。



(エ) 交通手段

図表 2-40 仙台うみの杜水族館来訪客 交通手段

n=100

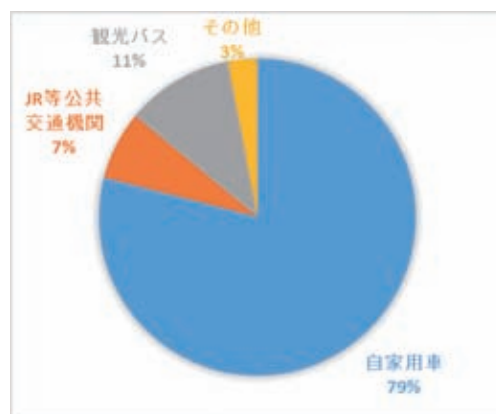
| 自家用車 | JR等公共交通機関 | 観光バス | その他 |
|------|-----------|------|-----|
| 79 | 7 | 11 | 3 |

(単位：人)

地元客が多いため自家用車で水族館を訪れている人の割合が最も高く、約80%を占めている。

また、水族館までのアクセスが不便なため公共交通機関で訪れる人が少ない。

※地下鉄開業前に調査



(オ) 旅行の目的（複数選択可）

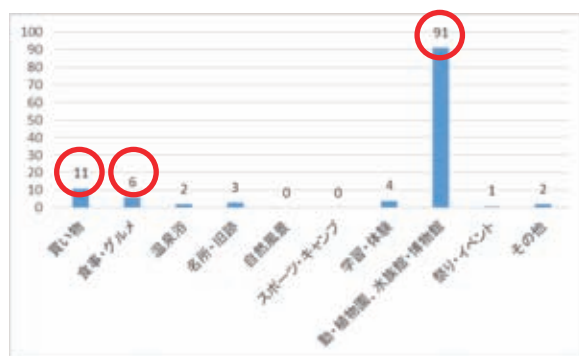
図表 2-41 仙台うみの杜水族館来訪客 旅行の目的

(単位：人)

| | 買い物 | 食事・グルメ | 温泉浴 | 名所・旧跡 | 自然風景 | スポーツ・キャンプ | 学習・体験 | 動・植物園、水族館・博物館 | 祭り・イベント | その他 |
|-----|-----|--------|-----|-------|------|-----------|-------|---------------|---------|-----|
| 回答数 | 11 | 6 | 2 | 3 | 0 | 0 | 4 | 91 | 1 | 2 |

水族館で調査を行ったため、動・植物園、水族館・博物館を目的で訪れたという人が100人中91人である。

また、近隣にアウトレットがあるため、買物が目的であると回答した人は、100人中11人である。

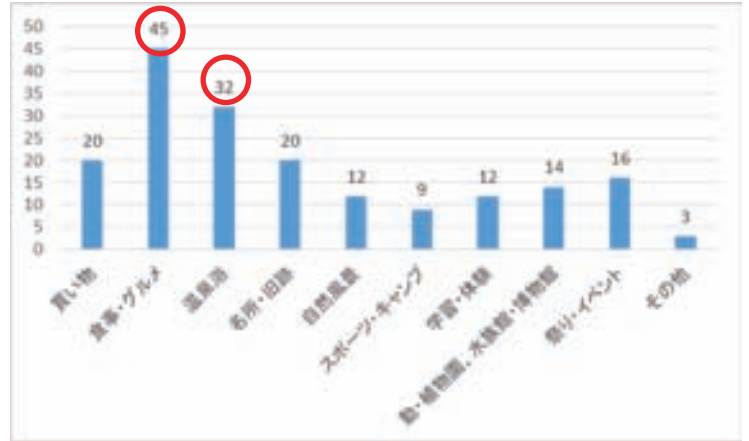


(カ) 観光地に求めるもの (複数選択可)

図表2-42 仙台うみの杜水族館来訪客 観光地に求めるもの (単位：人)

| | 買い物 | 食事・グルメ | 温泉浴 | 名所・旧跡 | 自然風景 | スポーツ・キャンプ | 学習・体験 | 動・植物園、水族館・博物館 | 祭り・イベント | その他 |
|-----|-----|--------|-----|-------|------|-----------|-------|---------------|---------|-----|
| 回答数 | 20 | 45 | 32 | 20 | 12 | 9 | 12 | 14 | 16 | 3 |

観光地に求めるものとして食事・グルメと回答した人は100人中45人である。2番目に多かった項目は温泉浴であり、100人中32人が選択した。



(キ) “旅行の目的”と“観光地に求めるもの”の比較

図表2-43 旅行の目的 (複数選択可) (単位：人)

| | 買い物 | 食事・グルメ | 温泉浴 | 名所・旧跡 | 自然風景 | スポーツ・キャンプ | 学習・体験 | 動・植物園、水族館・博物館 | 祭り・イベント | その他 |
|-----|-----|--------|-----|-------|------|-----------|-------|---------------|---------|-----|
| 回答数 | 11 | 6 | 2 | 3 | 0 | 0 | 4 | 91 | 1 | 2 |

図表2-44 観光地に求めるもの (複数選択可) (単位：人)

| | 買い物 | 食事・グルメ | 温泉浴 | 名所・旧跡 | 自然風景 | スポーツ・キャンプ | 学習・体験 | 動・植物園、水族館・博物館 | 祭り・イベント | その他 |
|-----|-----|--------|-----|-------|------|-----------|-------|---------------|---------|-----|
| 回答数 | 20 | 45 | 32 | 20 | 12 | 9 | 12 | 14 | 16 | 3 |

“旅行の目的”と“観光地に求めるもの”として買い物、食事・グルメを選択した人が多い。買い物、食事・グルメは、観光客にとって重要視している項目であるということが分かる。

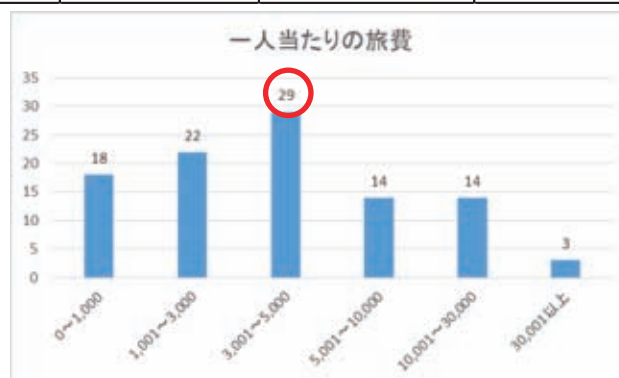
(7) 一人当たりの旅行費用

図表 2-45 仙台うみの杜水族館来訪客一人当たりの旅行費用（全体）

（単位：人）

| | 0～1,000 | 1,001～3,000 | 3,001～5,000 | 5,001～10,000 | 10,001～30,000 | 30,001以上 |
|-----|---------|-------------|-------------|--------------|---------------|----------|
| 回答数 | 18 | 22 | 29 | 14 | 14 | 3 |
| 割合 | 18% | 22% | 29% | 14% | 14% | 3% |

一人当たりの旅行費用を 3,001～5,000 円以内に収める人の割合が最も高く、全体の 29% を占めている。また、地元である宮城県の訪問者が多いため、5,000 円以内に旅費を収める人が約 70% を占めている。

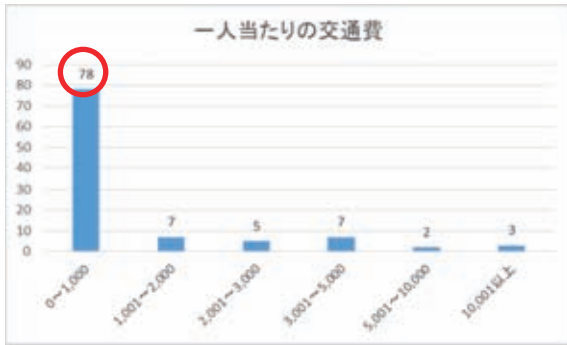


図表2-46 仙台うみの杜水族館来訪客 一人当たりの旅行費用（詳細）

（単位：人）

① 交通費

n=100

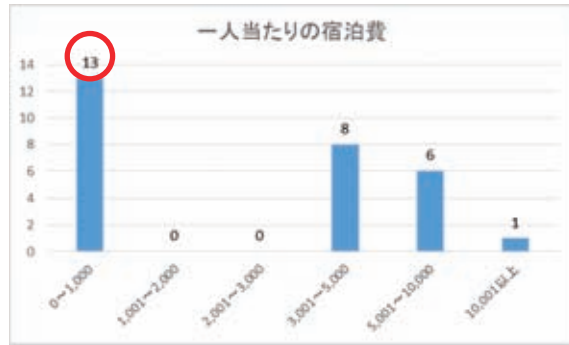


※0~1,000 円の人が 78 人いる。そのうち 56 人が県内客である。

平均 1,081 円

② 宿泊費

n=28

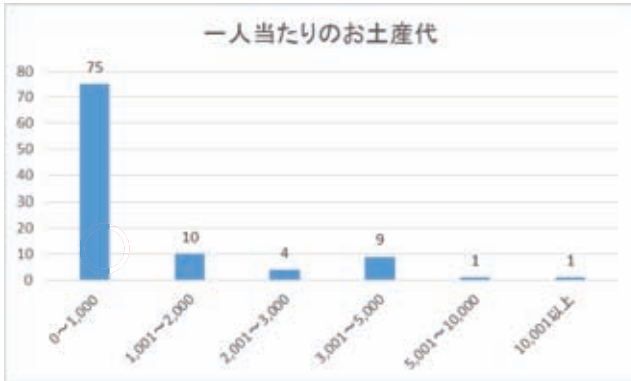


※0~1,000 円の人が 13 人いる。13 人全ての人が実家や友人宅に泊まる。

平均 3,513 円

③ お土産代

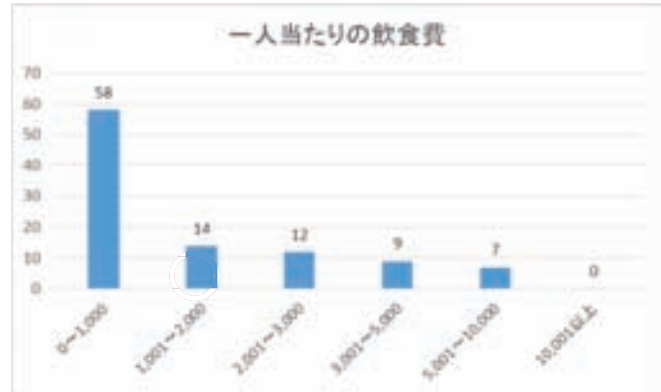
n=100



平均 1,068 円

④ 飲食費

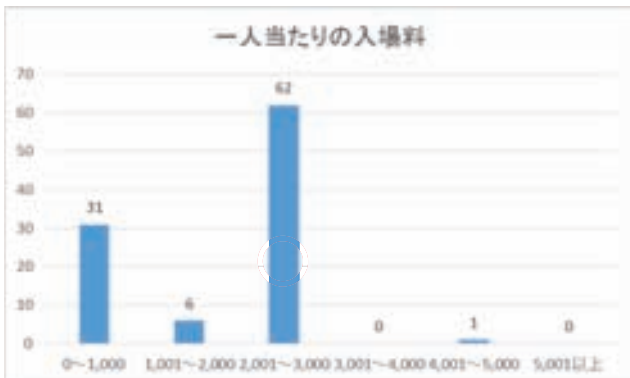
n=100



平均 1,708 円

⑤ 入場料

n=100



※31 人は年間パスポートによる 無料入場客である。

平均 1,431 円

地元である宮城県の人が多く訪れているため、交通費や宿泊費などがかからない人が多い。

また、水族館は入場料が一人 2,100 円のため価格帯が 2,001～3,000 円に集中している。

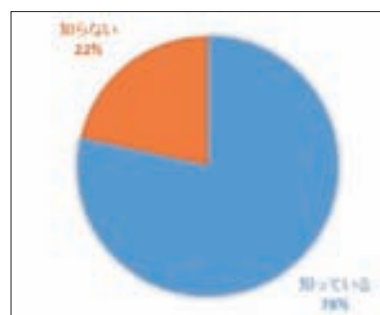
エ 多賀城市について

図表 2-47 多賀城市を知っているか

① 全体 (単位：人) n=200

| | 知っている | 知らない |
|-----|-------|------|
| 回答数 | 157 | 43 |
| 割合 | 78% | 22% |

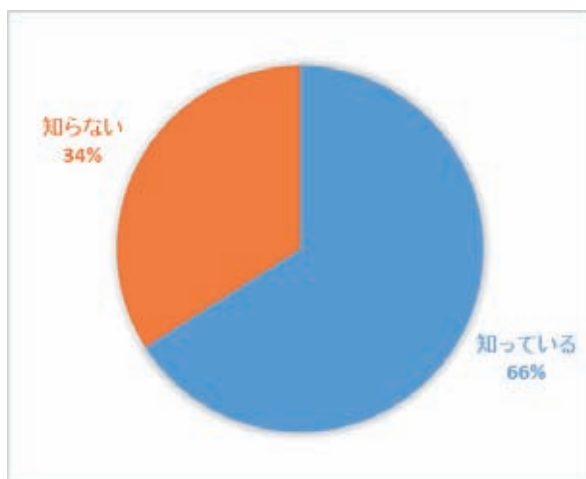
本市を知っている人は約 80%である。本市の近隣である松島公園や水族館に来ている観光客でも、本市を知らない人がいる。



② 詳細

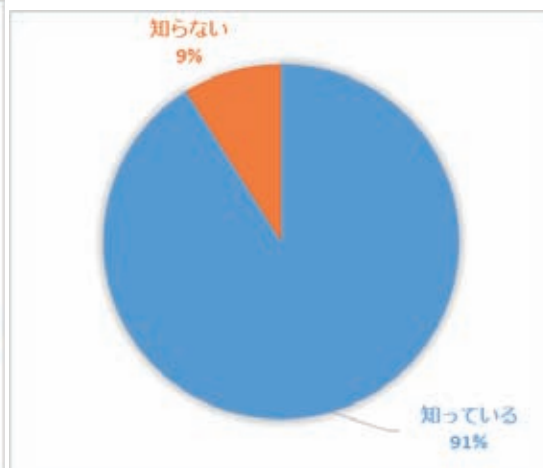
・松島公園

| 知っている | 知らない | n |
|-------|------|-----|
| 66 | 34 | 100 |



・仙台うみの杜水族館

| 知っている | 知らない | n |
|-------|------|-----|
| 91 | 9 | 100 |



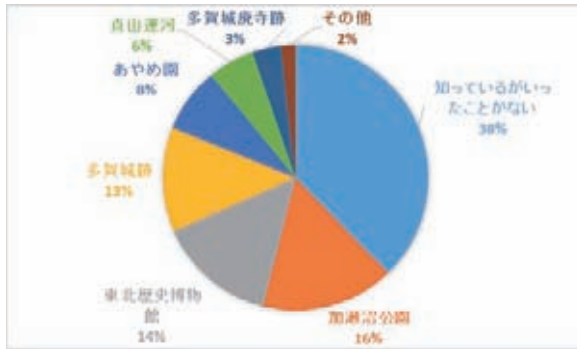
松島公園を訪れる観光客の居住地は、関東甲信越地方が 53%であるにもかかわらず、66%が本市を知っていると回答している。

図表2-48 多賀城市に行ったことがあるか（知っているとは回答した方）

① 全体（複数選択可）

（単位：人）

| | 知っているがいったことがない | 加瀬沼公園 | 東北歴史博物館 | 多賀城跡 | あやめ園 | 貞山運河 | 多賀城廃寺跡 | その他 |
|-----|----------------|-------|---------|------|------|------|--------|-----|
| 回答数 | 86 | 37 | 33 | 29 | 18 | 13 | 8 | 4 |
| 割合 | 38% | 16% | 14% | 13% | 8% | 6% | 4% | 2% |



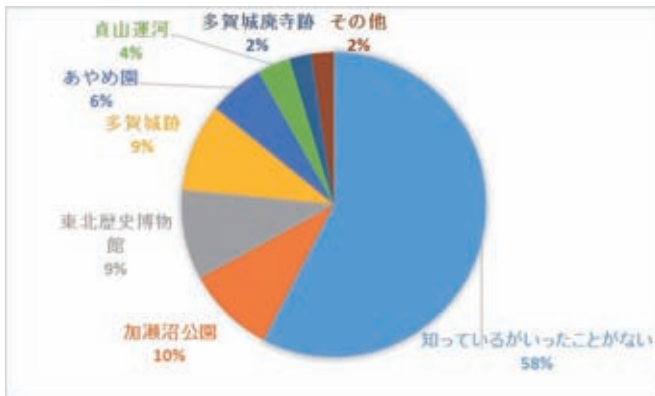
本市を知っていると回答した人のうち、38%の観光客は本市に行ったことが無いと回答している。

本市は知っているが行ったことが無いという観光客が多いということが分かる。

② 詳細

・松島公園（複数選択可）

| | 知っているがいったことがない | 加瀬沼公園 | 東北歴史博物館 | 多賀城跡 | あやめ園 | 貞山運河 | 多賀城廃寺跡 | その他 |
|-----|----------------|-------|---------|------|------|------|--------|-----|
| 回答数 | 49 | 8 | 8 | 8 | 5 | 3 | 2 | 2 |
| 割合 | 58% | 9% | 9% | 9% | 6% | 4% | 2% | 2% |



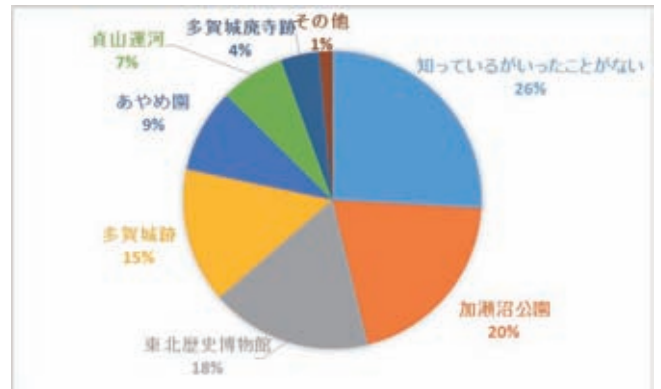
松島公園への来訪者の内、本市を訪れたことがあると回答したのは、知っているとは回答した人の42%であり、半分以上は知ってはいるものの訪問経験はないのが現状である。

一方、うみの杜水族館の来訪者に関しては、本市を知っている人の74%は本市内の観光スポットを訪れている。

また、いずれの来訪者においても、本市の観光スポット来訪者数は加瀬沼公園、東北歴史博物館の順となっている。

・仙台うみの杜水族館（複数選択可）

| | 知っているがいったことがない | 加瀬沼公園 | 東北歴史博物館 | 多賀城跡 | あやめ園 | 貞山運河 | 多賀城廃寺跡 | その他 |
|-----|----------------|-------|---------|------|------|------|--------|-----|
| 回答数 | 37 | 29 | 25 | 21 | 13 | 10 | 6 | 2 |
| 割合 | 26% | 20% | 17% | 15% | 9% | 7% | 4% | 1% |

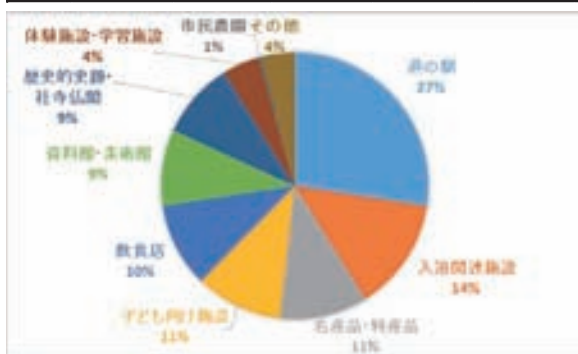


図表 2-49 どんな施設があったら行ってみたいと思うか
(本市に行ったことのある方)

① 全体 (複数選択可)

(単位:人)

| | 道の駅 | 入浴関連施設 | 名産品・特産品 | 子ども向け施設 | 飲食店 | 資料館・美術館 | 歴史的史跡・社寺仏閣 | 体験施設・学習施設 | 市民農園 | その他 |
|-----|-----|--------|---------|---------|-----|---------|------------|-----------|------|-----|
| 回答数 | 62 | 31 | 24 | 24 | 23 | 21 | 21 | 10 | 1 | 9 |
| 割合 | 27% | 14% | 11% | 11% | 10% | 9% | 9% | 4% | 0% | 4% |

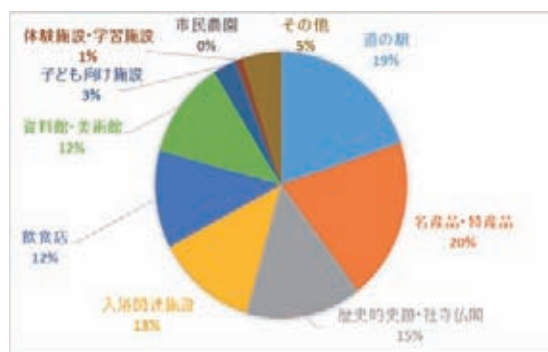


本市に訪れたことがあると回答した人のうち、27%の観光客が本市に道の駅があったら訪れてみたいと回答している。

② 詳細

・松島公園 (複数選択可)

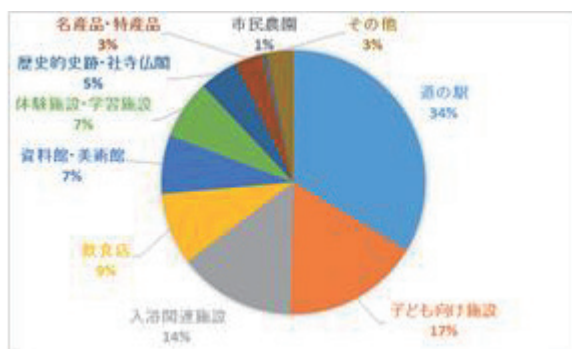
| 施設 | 道の駅 | 名産品・特産品 | 歴史的史跡・社寺仏閣 | 入浴関連施設 | 飲食店 | 資料館・美術館 | 子ども向け施設 | 体験施設・学習施設 | 市民農園 | その他 |
|-----|-------|---------|------------|--------|-------|---------|---------|-----------|------|------|
| 回答数 | 19 | 20 | 15 | 13 | 12 | 12 | 3 | 1 | 0 | 4 |
| 割合 | 19.2% | 20.2% | 15.2% | 13.1% | 12.1% | 12.1% | 3.0% | 1.0% | 0.0% | 4.0% |



松島公園は、県外から来ている観光客が多いため、道の駅や名産品・特産品、歴史的史跡を求めている人で約50%を占めている。

・仙台うみの杜水族館 (複数選択可)

| 施設 | 道の駅 | 子ども向け施設 | 入浴関連施設 | 飲食店 | 資料館・美術館 | 体験施設・学習施設 | 歴史的史跡・社寺仏閣 | 名産品・特産品 | 市民農園 | その他 |
|-----|-----|---------|--------|-----|---------|-----------|------------|---------|------|-----|
| 回答数 | 42 | 21 | 18 | 11 | 9 | 9 | 6 | 4 | 1 | 4 |
| 割合 | 34% | 17% | 14% | 9% | 7% | 7% | 5% | 3% | 1% | 3% |



一方、仙台うみの杜水族館を訪れている人の半数は県内客のため、子どもと過ごすことのできる施設と道の駅を求めている人で約50%を占めている。

図表2-50 どんな施設があったら行ってみたいと思うか
(本市に行ったことのない方)

① 全体 (複数選択可) (単位:人)

| | 歴史的史跡・社寺仏閣 | 道の駅 | 資料館・美術館 | 飲食店 | 入浴関連施設 | 体験施設・学習施設 | 名産品・特産品 | 子ども向け施設 | 市民農園 | その他 |
|-----|------------|-----|---------|-----|--------|-----------|---------|---------|------|-----|
| 回答数 | 12 | 9 | 5 | 4 | 4 | 4 | 2 | 2 | 0 | 4 |
| 割合 | 26% | 20% | 11% | 9% | 9% | 9% | 4% | 4% | 0% | 9% |



本市に訪れたことがないと回答した人のうち、26%の観光客が本市に歴史的史跡・社寺仏閣があれば、訪れてみたいと回答している。このことから「史都多賀城」という歴史・文化が豊かな本市のイメージが、全国的にはないことが分かる。

② 詳細

・松島公園 (複数選択可)

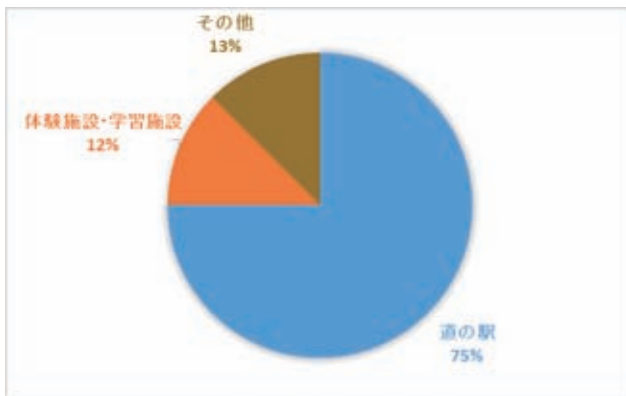
| 施設 | 歴史的史跡・社寺仏閣 | 資料館・美術館 | 入浴関連施設 | 飲食店 | 道の駅 | 体験施設・学習施設 | 名産品・特産品 | 子ども向け施設 | 市民農園 | その他 |
|-----|------------|---------|--------|-------|------|-----------|---------|---------|------|------|
| 回答数 | 12 | 5 | 4 | 4 | 3 | 3 | 2 | 2 | 0 | 3 |
| 割合 | 31.6% | 13.2% | 10.5% | 10.5% | 7.9% | 7.9% | 5.3% | 5.3% | 0.0% | 7.9% |



県外からの観光客が多い松島公園では、約半数の人が本市に歴史的史跡や資料館があれば訪れてみたいと回答している。

・仙台うみの杜水族館 (複数選択可)

| 施設 | 道の駅 | 体験施設・学習施設 | 子ども向け施設 | 入浴関連施設 | 飲食店 | 資料館・美術館 | 歴史的史跡・社寺仏閣 | 名産品・特産品 | 市民農園 | その他 |
|-----|-------|-----------|---------|--------|------|---------|------------|---------|------|------|
| 回答数 | 6 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 割合 | 15.8% | 2.6% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 2.6% |



一方、仙台うみの杜水族館を訪れている人の75%は、道の駅があったら本市に行ってみたくないと回答している。

史都多賀城というイメージは、県内客にはあるが県外客にはないことが推察される。

2 ヒアリング調査

(1) 委員ヒアリング

委員会及び検討部会を開催する前に、各委員に対し個別ヒアリングを実施し、各委員が考える本市観光の将来像や観光振興に係る提案などの意見をいただいた。

図表2-5-1 委員ヒアリングまとめ

| | | | |
|-----|-------|---|--|
| 歴史 | 取り組み例 | 1. 歴史のまち歩き 内容 ～バス・徒歩で多賀城の名所を巡るコースを3つ用意 定員は20～30名(無料) | |
| | 意見 | 1. 観光路の更なる活用 (1) 木の精進 → 新たな観光スポット 多賀城の景色が見えるようなスポットにする (2) CGの導入 スマホをかければCGで城が見えるようにする (3) 再現 多賀城を再現した建物をつくる 2. その他既存資源の活用 (1) コースづくり 自転車で行われるコースをつくる 多賀城市のみの歴史ではなく、近隣市町村を含めた歴史を発信 | 3. 新たな資源の付加 (1) 観光スポットの新設 ① 瓦葺が壊れた石アなどを決めて、歴史要素と結合させる ② ノブラスポットと結びつける (2) 食事場所 歴史文化遺産を見ながら飲食をできる場をつくる (3) 食と歴史の融合 古代米イベントの開催 |
| 集客 | 取り組み例 | 1. セツ川に海の駅 建物完成平成25年2月21日 機能 → 飲食・物販・加工施設 | 2. 実例参考 (1) セツ川のフェス 3,000～4,000人集客している (2) セツ川のヤマザワで産直 地元農家や卸場で作っている人に販売してもらう (3) 多賀城のビアサミット 駅前で集客力のあるイベントを更に活用する |
| | 意見 | 1. 集客のために求めるもの (1) ラン館 → 作り方を教える、ラン館 (2) 物産館・道の駅 → 地域特産以外の販売も含む (3) 津波ミュージアム → 津波を体験・学習する施設 (4) 若者が集えるような施設 (Ex.) タワー 2. 花の活用 (1) アナアロード 花を植えて、道に名前をつける (2) 花のある街「ボニムシヤ」 俳句に出てくる花もあわせて町づくり | 3. 既存資源の活用 (1) 砂押川 → イカダレース (2) 多賀城ファン 多賀城を知りたいサポーターを募り、会員制を設ける (3) 文化センター ① 小規模でよいので、地域住民の発表の場として機能させる ② 昔の映画を上映する (4) 団体との協力 TAFさんなどの団体と協力をしてイベントを行う |
| その他 | 意見 | 1. 既存施設の活用 (1) 駅中観光案内で物販を行えば道の駅は不要 2. 行動を起こす (1) ニーズは自分達でつくる とにかくやってみないと人が集まるかわからない (2) マスに発信 マスメディアやフィルムコミッション(映画・ドラマ撮影地として誘致) を活用する (3) 住民を楽しませる 住民が楽しんでいる姿を外から来た人が楽しむ必要がある | 3. 名産の開発と発信 (1) スパイスを名物にする (2) 豆餡を名物にする (3) 地産地消の新たなスイーツを名物にする (4) やかもちなべやタケヒロを多賀城の飲食店で出す (5) 特産品としてはニラもある |

(2) 検討部会

本市の観光振興に係る方向性の検討や各施策・事業の具体的提案の意見を述べるに当たり、効果的な話し合いができるよう、2つのテーマに絞ることとした。

第一に、本市の観光コンセプトとして、「歴史・文化」は欠かせないテーマであると言えることから、「歴史・文化資源の活用」を一つ目のテーマとした。

第二に、既存の観光資源及び新たな観光資源をいかに経済効果につなげられるかが本市の課題であることから、「観光を経済効果につなげる事業」を二つ目のテーマとした。検討部会では、上記二つのテーマに係る本市の強み・弱み、各テーマに沿った事業例など具体的な提案がなされた。

本市の観光コンセプトとして、歴史・文化は欠かせないテーマであると言えるが、観光資源として活用しきれていないのが現状である。

それを有効に活用するためには、観光客を呼ぶための新たな取り組み、視点が必要と推察される。また、新たな視点の切り口として“花”を活用した集客ポイントづくりも挙げられる。

ア 本市の観光が持つ課題

現在の本市の観光における課題については、意見が多岐にわたるため、ここでは歴史文化・商業機能の2つの視点から整理を行った。

(7) 歴史文化の視点から

① 認知度と集客力

同時代の歴史資源を持つ観光地として、京都市や奈良市が挙げられるが、それらと比較すると本市は認知度が低く、大衆的な観光地にはなっていない。

② 食事・休憩場所の不足

多賀城跡をはじめとした各史跡には、史跡が存在するだけで、休憩場所・滞在場所が非常に少ない。

③ 視覚的訴求力の弱さ

奈良の大仏のように視覚的に訴えるものがない。

④ テーマが狭い

歴史や文化という限定的な分類だけでは、集客力が弱いのではないか。

(1) 商業機能の視点から

① 名物の無さ

本市には名物となるお土産品や飲食店がない。

② 購入できる場所

本市の名産品を購入できる店舗が分からない。

③ 交通網の視点から

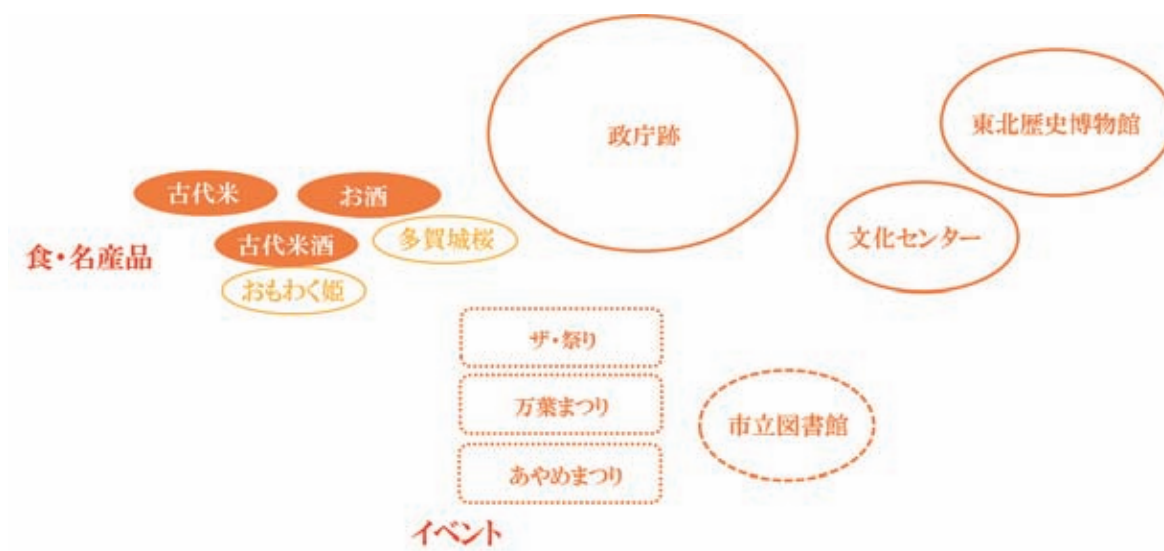
バスの整備には、流入につながる可能性も持つが、反対に観光客の流出につながることへの懸念も存在する。

イ 展開の広がり の検討

アンケート調査や各種ヒアリングを基に、「歴史・文化」、「商業的機能」、「自然」、「コミュニティ」といった資源を活用した今後の方向性の展開について検討した。

(7) 既存資源の整理・活用モデル

図表 2-52 ヒアリングを基とした本市の既存資源

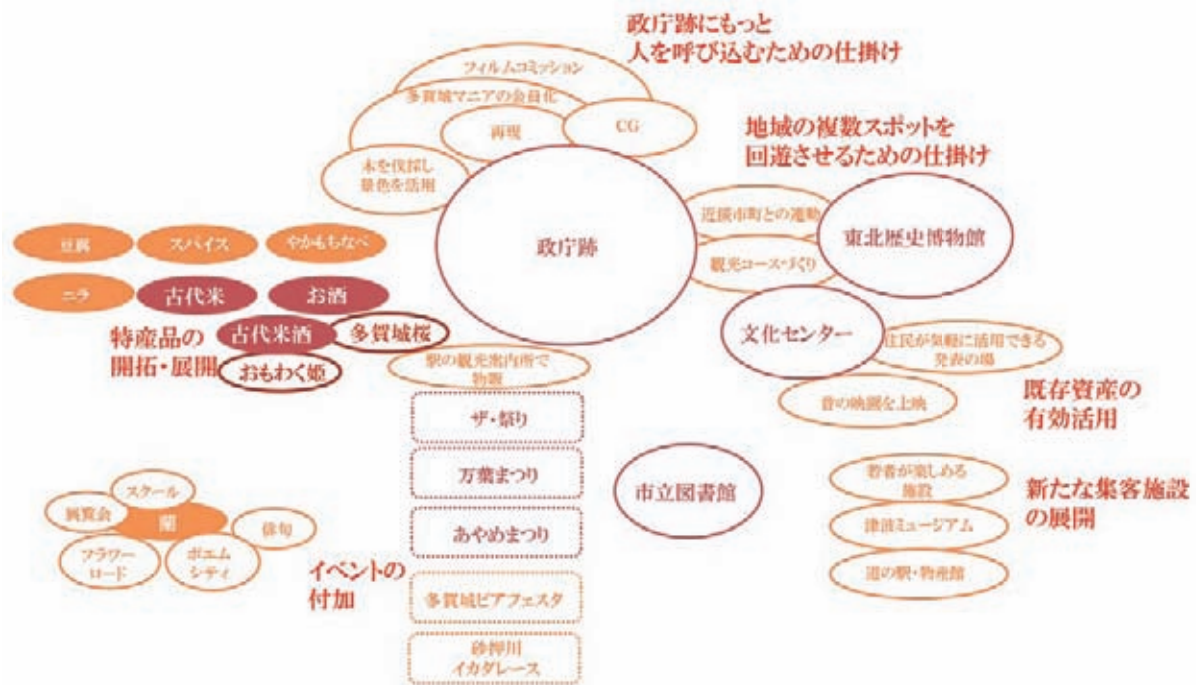


現状の資源としては、歴史・文化に関係するものが多くを占めており、新たに市立図書館が加わってくる状況であるが、歴史、文化ともに「見る」という目的で観光客は本市を訪れている。

特産品としては、古代米と古代米を活用したお酒などの製品が挙げられている。

(イ) 調査結果から見た既存資源活用の展開イメージ例

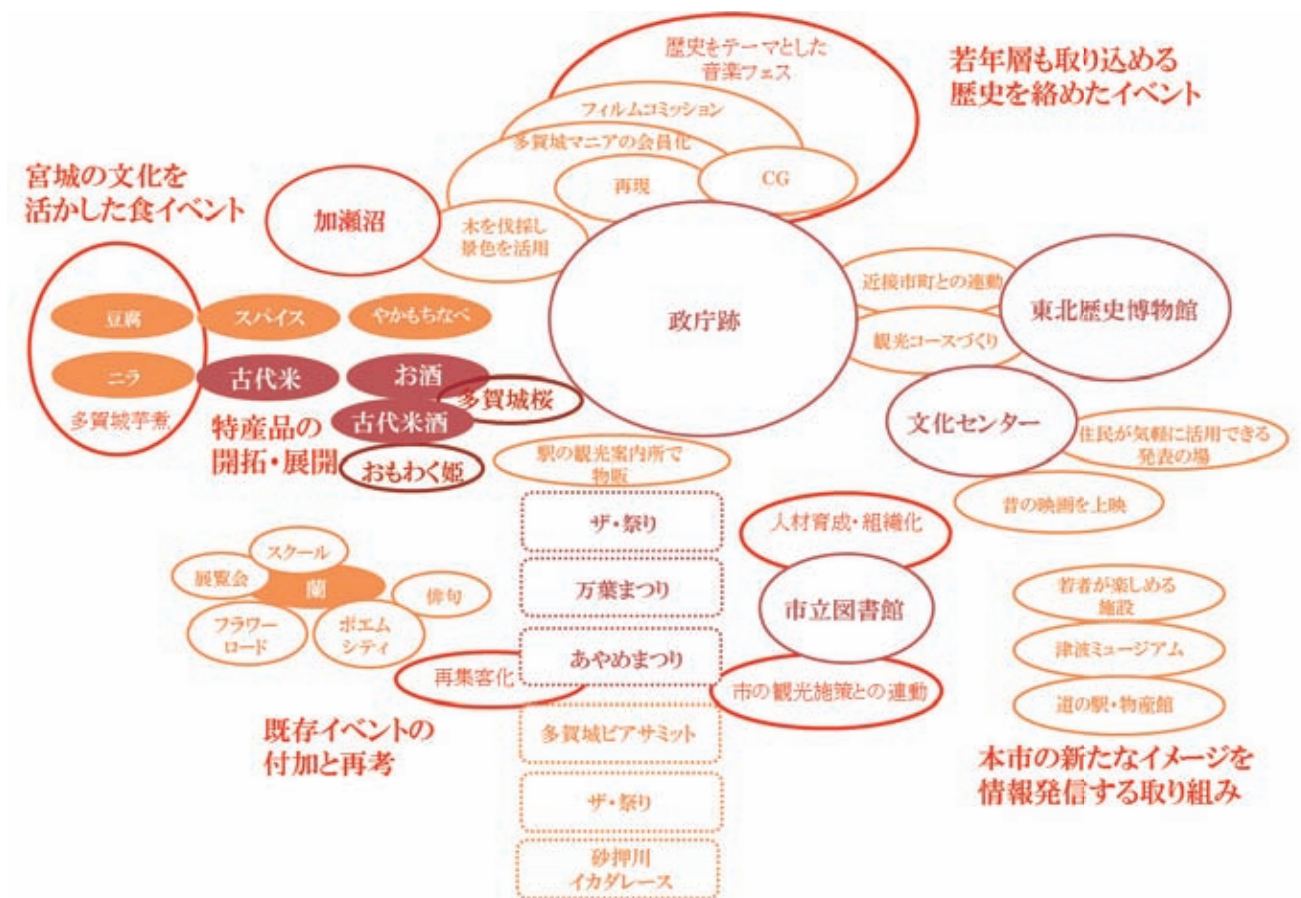
図表2-53 ヒアリングから抽出された本市の資源の活用



ヒアリング調査等では、既存資源の更なるブラッシュアップが必要という意見のほか、それらを活用した新規のイベントや特産品開発、更には個々の資源の、点を線、面へとつなぎ展開させていく仕掛けを新たに加え、集客を図っていくべきとの意見があった。

(ウ) 資源活用の更なる広がりの可能性例

図表 2-54 本市の資源の活用の可能性



今後の方向性としては、既存の資源を活用しつつ、そのための動機や機能の付加を行う。

また、既存資源をつなぎ合わせたイベントや取り組みを行うとともに、これまでになかった新規のイベントや施設の展開などを検討し、若年層や歴史を目的としていない新たな層の集客を行うための取り組みが求められる。

(3) キーパーソン調査

本市内で地域づくり等に活躍している住民や団体に、検討部会で洗い出された本市の現状及び課題を踏まえ、各団体が既に取り組んでいる事業や今後の展開等についてヒアリング調査を行った。

ア 観光推進につなげられる強み

(7) 歴史というイメージ・資源の活用

多賀城跡を中心とした歴史資源が活用しきれていない。

そこで、歴史をテーマとした新たな観光推進が必要ではないか。

【例】

- ・南門の復元
- ・プロジェクトマッピング
- ・火おこしや勾玉、瓦、土器づくりなど、非日常の体験・価値(思い出)の提供

※イベント実施に当たり、史跡の特性上制約がある。

(4) 古代米の活用

古代米には、抗酸化作用、美容効果といった効能がある。観光集客のキーワードである「食」にも関わるため、古代米に焦点を当て、食べるだけでなく多角的に焦点を当て、観光推進につなげてはどうか。

【例】

- ・古代米 × 食べる = 古代米を活用した多賀城グルメを展開する(現在観光協会で行っている)
- ・古代米 × 学ぶ = 古代米資料館をつくり、食育の情報発信を行う
- ・古代米 × 見る = 古代米田んぼアート、田植え等体験

(5) 田んぼを利用したイベントの開催

山形県酒田市では、耕作を行っていない冬の田んぼで雪合戦を行うなど、田んぼを活用してイベントを行っている。本市でも同様に田んぼを活用してイベントを開催してはどうか。

【例】

- ・田んぼアート
- ・田んぼゴルフ
- ・泥んこ運動会

イ まず一度足を運んでいただくために～集客力の強化

(7) イベントの強化

- ・人気のあるフェスの開催、誘致
 - ・ジャズフェスのような音楽を楽しめるイベントの開催
- (本市で行う場合には、飲食店内で生演奏。店ごとに出演者が異なる。)

(イ) 本市の魅力の情報発信力強化

- ・新たな史跡巡りルート ※各施設・ルートのターゲットを明確にする

ウ 住民の誇り・愛着の醸成

観光施策以前に、住民が、本市に愛着を持ち、魅力を誇れるようになることが必要である。

そのための機会として、以下のような機会を作ってはどうか。

- ・子どもも大人も郷土の歴史を学ぶことができる機会
- ・有志の住民同士で本市の魅力をディスカッションする機会
- ・高齢者が講師となり本市の歴史や文化を継承する機会（語り部）

(4) マスメディア・有識者調査

検討部会での意見及びアンケート結果等から見えてきた本市の課題及び強みを活かした今後の観光振興の方向性について、専門家の視点から市場ニーズ、今後の観光分野の発展性等についてアドバイスをいただいた。

ヒアリングは、次の4者に対して実施した。

- ・東京都 大手旅行誌製作会社
- ・東京都 大手旅行誌製作会社
- ・宮城県仙台市 地元向けタウン誌製作会社
- ・本市 公共交通機関関係者

ア 本市の強みの活用

本市には、多賀城跡や末の松山等、歴史、文化資源は多く存在するものの、シンボルとなるような目に見える施設が存在しない点が課題である。

そのため、歴史・文化資源を観光に結び付けていくためには、以下のような施策が必要になるものと考えられる。

- ・ストーリーの付加 : 驚くようなストーリーを付加するなどの、目を引くような施策
- ・独自イベントの実施 : 集客力の強いイベントに本市ならではの独自性を掛け合わせる。これにより、タウン誌などでも取り上げる価値が生まれる（歴史に絞った音楽イベントなどは取り上げやすい）。

※ただし、歴史や文化資源を持った都市はありふれているので、他市との明確な差別化要因と親しみやすさが重要となる。

イ 本市の観光推進におけるチャンス

市立図書館の移転は大きなチャンスになる可能性がある。この可能性を活かす意味で、JR多賀城駅前の賑わいの創出やここを訪れる人々を本市観光に誘

引するための施策を行うことも有効ではないか。そのための施策としては、以下のものが考えられる。

- ・駅前集客の最大化：駅前でのイベント実施など、市外の方に、JR多賀城駅付近に行ってみようと思わせる動機を付加する。
- ・積極的な情報発信：JR多賀城駅周辺や市立図書館において、来訪者向けに本市の歴史や文化を情報発信する。
- ・二次交通の充実：JR多賀城駅から、JR国府多賀城駅方面に向かう交通手段を設定する（シャトルバス等）。

ウ 産業観光の集客力を活かす

工場見学は、全国的に見ても高い集客力を持っている。実際に、直近7年間程の期間で見ると、旅行ガイド誌の工場見学版が売れている傾向がある。工場見学は勉強・学習のためではなく、見た目の面白さによる集客が大きい。

現在のところ、本市において工場見学を大々的に行っている工場は存在しないが、観光推進に際しては検討価値のあるテーマではないか。既存の工場や、開発途中の工業団地等においても、この機能を持つことで、本市独自の産業観光がPRできるものと考えられる。

エ 商業機能の強化

本市では、観光の際の主目的となるグルメや買い物に対応する機能が乏しいため、観光集客のターゲットも一部の歴史好き、史跡好きに限られる印象を受ける。また、歴史や文化といったテーマは実生活につながらないため、グルメや買い物、遊びといった分かりやすいテーマを取り上げた場合と比較すると、雑誌の発行部数が減少してしまう傾向にある。この点も、タウン誌や旅行誌に掲載されにくくなっている一因となっている。

そのため、「買う」、「食べる」、「遊ぶ」といった伝わりやすい魅力づくりは、観光推進において不可欠な要素である。特に雑誌の編集部の視点で見ると、「食」における魅力は重要である。

オ 単独店舗ではなくコミュニティ単位での訴求

特に観光情報誌では、たとえ単独の一店舗が魅力的なものであっても、それ単体で記事となることは少なく、毎月設定されているテーマに合わなければ掲載されないことが多い。情報発信力を高めるためには、より多くの店舗・施設が共同で働きかける「コミュニティ単位」での情報発信が重要である。

本市の場合には、周辺の自治体を巻き込んだ3市3町(多賀城市、塩竈市、東松島市、松島町、七ヶ浜町、利府町)での連携により、松島湾岸エリア全体での観光情報を情報発信することで、観光としての訴求力が高まり、メディアに取り上げられる可能性も高くなると考えられる。

第 3 章 調査結果の分析

第3章 調査結果の分析

1 アンケート調査・ヒアリング調査の結果とまとめ

これまで実施してきた、アンケート調査、ヒアリング調査等の結果を踏まえ、本市の今後の観光振興の方向性について、整理する。

(1)本市の強み・課題

ア 本市についてのイメージは圧倒的に歴史である。

本市の住民アンケートにおいて、歴史（史跡）があるというのが圧倒的に一番であった。また仙台市及び周辺自治体の住民アンケートでも歴史（史跡）があるというイメージが一番であった。

全国から観光客が訪れている松島公園で行った調査では、本市について「知らない」と答える人が3分の1存在し、全国的には認知度はまだまだであるといえる。

- 首都圏や全国を対象とした観光の取り組みよりも、既に認知度が高く、その特徴を十分に認知している仙台市及び周辺自治体の住民を対象とした観光への取り組みが望ましい（100万人を超える商圏人口と本市へのアクセス時間の利便性の理由から）。
- 歴史イメージがあるという、本市の強みを活用した観光の取り組みが重要である。歴史イメージを核として、既存の観光資源の活用や活性化、更に新たな取り組みを行うことで本市の観光化を推進していく必要がある。

歴史イメージを持ちながら、実際はどんな観光地を訪れているかという点に関しては、本市の住民も仙台市及び周辺自治体の住民も、一番のスポットは歴史的なものではなく、自然要素の「加瀬沼周辺」という結果であった。歴史のまちというイメージはあるものの、歴史的スポットは1番に挙げられていない。2番目に「東北歴史博物館」が挙げられている。回答の上位には「あやめ園」という自然要素の施設と「多賀城跡」、「多賀城廃寺跡」、「貞山運河」という歴史的スポットが挙げられている。

歴史的スポットは多いものの、圧倒的な施設は存在していない。またリピーターする性格を持つ施設も少ない。本市の住民は1人平均すると12ヶ所を訪問しているが、仙台市及び周辺自治体住民は平均2.7ヶ所と、約4.5倍の開きがある。

- 歴史イメージを背景に、一番の観光スポットとして挙げられるような、本市の歴史イメージを代表する観光ポイントが必要である。
- いくつかのスポットを訪れる周遊型の観光の確立と、リピーターにも対応できる取り組みが必要である。

イ イベントの多彩さと本市の住民のイベント認知度の高さも強みである。

ヒアリング調査では、本市の強みは「歴史に次いで、“イベント”にある」という意見が多数存在した。

本市の住民のイベント別認知度は、あやめまつりが98%、万葉まつりが81%と非常に高い。特に、あやめまつりを見に行ったことがある人は76%と高い結果となっている。

仙台市及び周辺自治体の住民のイベント別の認知度は、あやめまつりが58%、万葉まつりが20%と本市の住民と比較すると低い。

また、イベントの多彩さはあるものの、そのほかのイベントの認知度は総じて低い。

本市の住民には認知度が高い2つのイベントも、仙台市及び周辺自治体の住民にはそれほど知られていない。

- 仙台市及び周辺自治体の住民に、比較的認知度が高いあやめまつりと万葉まつりの2つのイベントをもっと訴求し、情報発信していくことが必要である。そのためにイベント自体の再強化、活性化に取り組むとともに、今まで以上に、外に向けてイベント自体の広告宣伝や広報活動に取り組むことも必要である。

仙台市及び周辺自治体の住民アンケートにおいて、多賀城市観光活性化についての自由記述では、第1位に「認知度UPの為のPR」が挙げられ、本市の魅力情報を発信し、PRを望む声が多い。

イベント自体が名物化すれば、全国に向けての情報発信はもちろんのこと、毎年そのイベントを目当てに本市を訪れる観光客（リピーター）の獲得が可能となる。

現状では、イベントとしての認知度は高くはないものの、まだ新しいイベントであることを考慮すると、多賀城なべまつり（2014年～）と多賀城ビアサミット（2015年～）が健闘している。

これはイベントの特徴である“食”という要素が、集客及び認知に貢献しているものと推察できる。

- 新しい食のイベントを強化し、活性化すると共に“食”を切り口とした観光の取り組みも行っていく必要がある。

ウ 新たな資源活用とコミュニティ構築

本市はJR仙台駅から仙石線で20分という近接性を持ち、JR多賀城駅前に移転する市立図書館はCCC（カルチュラル・コンビニエンス・クラブ）株式会社が管理運営する、東北初の図書館であり、様々な商業施設が併設されることから注目を集める施設である。

また、本市には「自然が豊か」という第2のイメージがあり、加瀬沼公園やあやめまつりへの観光客入込数の高さから、自然資源が新たな観光の切り口となる可能性がある。

さらに、本市の活動団体は他の地域に比べ、独自の調査研究を実施するなど高いレベルの取り組みを継続的に実施しており、人材・コミュニティといった資源に、今後の取り組みの担い手としても重要な役割が期待される。

【本市内で観光推進に取り組む主な団体】

・多賀城・七ヶ浜商工会

地域活性化を図るために「ザ・祭り in 多賀城」や「市民市」などを開催しており、祭りや地域伝承事業などの地域文化の伝承・保存も積極的に支援している。

・多賀城市観光協会

本市の観光振興の核となっており、集客イベントを継続的に実施しているほか、名産品の開発事業を実施し、観光物産品の販売等を行っている。

・国府多賀城観光推進協議会

会員の意見や提案をまとめた「多賀城市の観光振興まちづくり提案書」（T-Project）を作成している。

・NPOゲートシティ多賀城

多賀城跡の大路沿いに花を植栽したり、震災犠牲者の鎮魂行事を主催している。

・タウン・アクティベーション・プロジェクト多賀城（T・A・P多賀城）

JR多賀城駅前で「多賀城ビアサミット」、「悠久の詩都の灯（イルミネーション）」、「音楽ライブ」を実施しているほか、地元食材を活用し、多賀城風ミネストローネ「タケヒロネ」を創作し、各種イベントに参画している。

・多賀城市史跡案内サークル

本市の観光資源である文化財を訪れる本市内外の観光客のガイドとして活動している。

・一般財団法人チガノウラカゼコミュニティ

3市3町（多賀城市、塩竈市、東松島市、松島町、七ヶ浜町、利府町）

の地域資源を活用し、ストーリー性のある体験型ツアーやイベントを企画し、地域力を高める取り組みを数多く実施している。

(2) 今後の可能性

ア 歴史・文化資源の活用

本市は、来訪者数の差はあるものの、観光で訪れる対象となるスポットが数多く存在する。しかし、歴史のまちというイメージがあるものの、“これ”という圧倒的に有名な本市を代表するスポットが存在していない。

また、商品についても同様で、名産品というものが存在せず、その開発の取り組みを本市の住民が望んでいる。

ヒアリング調査において「いろいろな施設があるが決め手がない、圧倒的な魅力を持つ施設がない」、「名産品の開発に取り組んできたが（今も開発中）できていない」という声が多くあがった。

- 多賀城市外への情報発信を考えた時、観光資源としてまず“多賀城市と言えどこれ”というスポット（施設）やイベントにポイントを絞り、それを軸にして本市全体の展開や代表するものをつくり上げていくことも必要である。名産品に関しても同様で、様々なアイデアや試作品を広く求める一方で、何か一つの商品に絞り、それに注力し集中して開発するような取り組みも必要である。

様々な団体や組織が、本市の観光事業化や名産品開発に取り組んでいる、という実態がある一方、それがまだ明確な成果となって表れていないのが現状である。

- それぞれ別々に取り組むのではなく、観光事業化をトータルかつマクロに考え、様々な団体や組織が話し合い、連携して、力を結集させていく取り組みが必要となる。観光に対して、各種団体、行政が連携協力していくことが必要となる。
また、継続的な事業を可能とするような、財源の確保についても検討が必要である。

- 今後は、本市に住む子どもから大人まで、すべての年齢層の住民の「郷土愛」をどう醸成していくかも重要なカギとなる。本市の特徴として、転出・転入といった社会動態が大きいために、住民であっても本市の歴史や文化についてよく知らないという点が挙げられる。そこで、子どもに対しては、親・地域・学校で歴史・文化の伝承を行っていくとともに、大人に対しても、転入者の学びの機会の充実が必要になると言える。
このことが、ゆくゆくは本市最大の強み(イメージ)である歴史を継続させ、更に市外の方々に情報発信していく原動力になるものと考えられる。

イ 観光を経済効果につなげる事業

本市の住民にとってあったら良いと思うものは、項目別にみると「道の駅・物産館のような集客施設」が全体の18%で1番高かった。次いで「多賀城名物」であった。

また、観光地(松島公園、仙台うみの杜水族館)での調査において、どんな施設があったら本市に行ってみたいかという問いに対して、「歴史的施設・神社仏閣」が1位(26%)であり、「道の駅」という意見が2番目(19%)であった。仙台住民の比率が多い、仙台うみの杜水族館だけに限ると、「道の駅」と答える人が75%と非常に高い数値となった。

全国から観光客が訪れる松島公園においては、「道の駅」と答える人は8%と多くなかったが、本市の住民や仙台市及び周辺自治体の住民は道の駅・物産館を求めていることが分かる。

(7) 観光産業施設及び名産品等の可能性

- 道の駅・物産館といった観光をベースとした商業施設開発は、本市の住民のみならず、仙台市及び周辺自治体住民からの要望も高い。全国からの観光客ではなく、本市の住民と仙台市及び周辺自治体の住民をターゲットとした観光商業施設及び名産品等の開発に取り組むことが重要である。

本市の住民の購買活動は、最寄品の買い物や日常的な外食は、本市内で行うものの、買回り品や専門品の買い物や記念日など特別な食事は、仙台市に行くことが多い。

(4) 商業施設等の開発の可能性

- 道の駅・物産館等の商業施設の開発に当たっては、専門性や独自性を強め、目的来店性(その店に行くことが目的であること)を強めた内容にすることが必要である。それによって本市の住民が、仙台市ではなく本市内で購買する率を増やし、かつ仙台市及び周辺自治体の住民を本市に誘引することを目指す。

専門性や独自性を出すためには、建物等のハード面ではなく、商品やサービスのソフト面が重要となる。

本市の住民が、本市にあったら良いと思うものは、「道の駅」に次いで「多賀

城名物」が挙げられており、道の駅に必要だと思うものという問いに対しては「農産物直売」、「多賀城の名産品販売」、「飲食店舗」が挙げられている。

ヒアリング調査においても、「多賀城名物がない」、「商品を開発しているけれども、なかなか名物には育っていない」という声が多かった。

- 「道の駅で販売するもの＝多賀城名物」の商品開発が必要不可欠である。それも観光客だけを対象としたものではなく、本市の住民や仙台市及び周辺自治体の住民をターゲットとした名物の開発育成が必要となる。

■調査結果のまとめ及び今後の取り組み

| テーマ | キーワード | 強み | 課題 | 今後の取り組み |
|-----------------|--------|---|--|--|
| 歴史・文化資源の活用 | 歴史 | <ul style="list-style-type: none"> 奈良時代の史跡として日本を代表する資産である。 歴史博物館については、本市住民だけでなく、市外の方も多く訪れている。 | <ul style="list-style-type: none"> 政庁跡には建物が現存しておらず、集客力が弱い。 特別史跡であることから、敷地内に建造物を建てることのできない等の規制がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 既存イベントのリニューアル・新規イベント開発 東北歴史博物館と他の施設の連携。 |
| | 文化 | <ul style="list-style-type: none"> 市立図書館はCCC（カルチュアル・コンビニエンス・クラブ）株式会社が管理運営する、東北初の図書館である。 | <ul style="list-style-type: none"> CCCの本市観光への関わりを更に強めていく働きかけが必要である。 行政・本市内企業が主導権をとることはできない。 | <ul style="list-style-type: none"> 市立図書館と連携してのイベント開催 JR多賀城駅周辺から文化センターへの導線の演出。 |
| | 自然 | <ul style="list-style-type: none"> 加瀬沼公園は本市で最も多くの観光客を集めている施設である。 | <ul style="list-style-type: none"> 加瀬沼公園の訪問客を本市内の他の観光スポットに誘引できていないのが現状である。 緩衝緑地や加瀬沼公園、散策路等の更なる活用が望まれる。 | <ul style="list-style-type: none"> 用途変更や現状変更等による規制緩和 アクティブレングジャー（植物の保護パトロール）などのボランティアの活用。 |
| | イベント | <ul style="list-style-type: none"> イベントが豊富に行われている。 あやめまつりは、本市内で開催されるイベントの中では最大の認知度・集客力を持つ。 | <ul style="list-style-type: none"> 集客時期があやめの開花時期に限定されるため、年間を通じた集客ができない。 来場客に対する飲食・体験・物販等の付加機能が不足している。 | <ul style="list-style-type: none"> 既存イベントのリニューアルや新規イベント開発。 |
| | コミュニティ | <ul style="list-style-type: none"> 本市の活動団体は他の地域に比べ、独自の調査研究を実施するなど高いレベルの取り組みを継続的に実施している。 | <ul style="list-style-type: none"> 古くからの住民がいる一方、転出入による社会動態の影響が大きい特性があるため、地域に対する愛着の醸成等に取り組む必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 特定地域をモデル地区にするなど重点地域の選定。 継続的に事業を推進していくための財源確保の仕組みの検討。 地域への誇りや愛着の醸成のための教育。 |
| つなげる事業 経済効果に | 観光商業施設 | | <ul style="list-style-type: none"> 本市に観光に訪れた方がお土産を購入したり、食事をしたりする商業機能が不足している。 | <ul style="list-style-type: none"> 将来的な観光商業施設の展開を見据えた上での、商品の開発や各企業・生産者の連携といった施策をスケジュール立てて進めていく。 |
| | 名産品 | | <ul style="list-style-type: none"> 多賀城市と言えばこれ、という名物が存在しない。 | |

2 観光商業施設に係る事例調査

(1) 全国観光商業施設（道の駅）の統計資料検証

観光を経済効果につなげていくための方策として、土産品の購入や飲食機能を有する観光商業施設の開発は重要である。実際には、全国には様々な観光商業施設が存在し、来場客数や売上金額も多岐にわたっている。

そこで今回、本市における観光商業施設のあり方を検討するために、全国の観光商業施設に関する統計データや先進事例の収集・分析を行った。

なお、統計資料の検証については、データの蓄積が行われている「道の駅」に関する統計を基に分析を行っている。

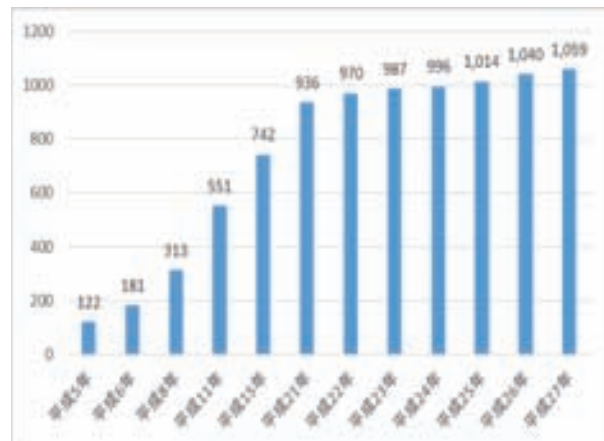
図表3-1 道の駅 登録件数

(単位：件)

| 平成5年 | 平成6年 | 平成8年 | 平成11年 | 平成15年 | 平成21年 | 平成22年 | 平成23年 | 平成24年 | 平成25年 | 平成26年 | 平成27年 |
|------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 122 | 181 | 313 | 551 | 742 | 936 | 970 | 987 | 996 | 1,014 | 1,040 | 1,059 |

出典：国土交通省

平成8～11年（3年比）：約1.8倍
 平成24～27年（3年比）：約1.1倍
 以上の増加率となっておりここ5年間における新規の道の駅は100件未満となっている。



図表3-2 道の駅 設置者

| 設置者 | 箇所数 | 構成比率 |
|-----------|-------|-------|
| 自治体(市町村) | 985 | 98.1% |
| 自治体(都道府県) | 6 | 0.6% |
| 第三セクター | 8 | 0.8% |
| 公益法人 | 5 | 0.5% |
| 合計 | 1,004 | |

出典：国土交通省

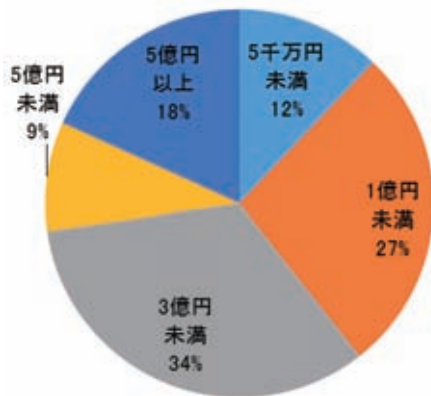
図表3-3 道の駅 管理運営者

| 管理・運営者 | 箇所数 | 構成比率 | 備考 |
|-----------|-------|-------|------------------|
| 指定管理者等 | 445 | 44.3% | JA、民間会社等 |
| 第三セクター | 312 | 31.1% | |
| 自治体 | 158 | 15.7% | |
| 財団法人等への委託 | 89 | 8.9% | 観光施設管理協会、地域振興財団等 |
| 合計 | 1,004 | | |

出典：国土交通省

道の駅のほとんどは自治体（市町村）が設置しているが、実際の管理はJ Aや民間企業といった指定管理者若しくは、第三セクターで運営するケースが多い。

図表 3-4 年商別施設割合

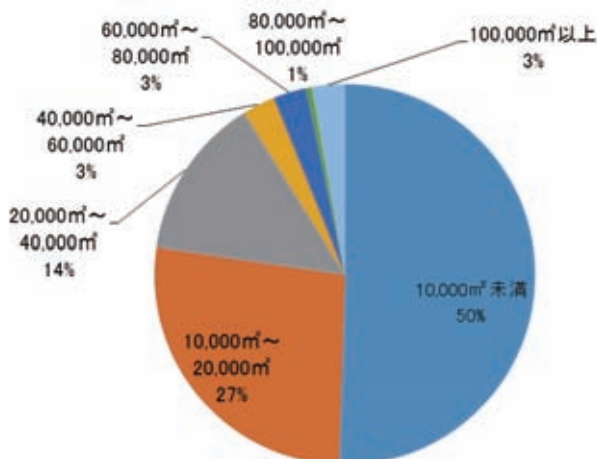


| 年商規模 | 割合 |
|--------|-------|
| 5千万円未満 | 12.1% |
| 1億円未満 | 27.3% |
| 3億円未満 | 33.3% |
| 5億円未満 | 9.1% |
| 5億円以上 | 18.2% |

3 億円未満の施設が全体の 70%以上を占めている。

施設年商のボリュームゾーンは、1 億円以上 3 億円未満であり、全体の 33.3%を占めている。

図表 3-5 敷地面積展開割合



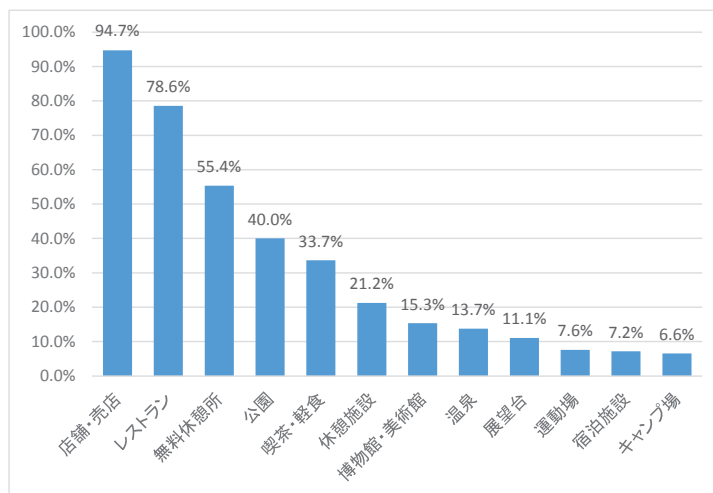
| 敷地面積 | 割合 |
|--------------------|-------|
| 10,000㎡未満 | 50.5% |
| 10,000㎡以上～20,000㎡ | 26.8% |
| 20,000㎡以上～40,000㎡ | 13.8% |
| 40,000㎡以上～60,000㎡ | 2.8% |
| 60,000㎡以上～80,000㎡ | 2.8% |
| 80,000㎡以上～100,000㎡ | 0.5% |
| 100,000㎡以上 | 2.8% |

出展：一般財団法人地域活性化センター

道の駅として展開している施設面積は、10,000 ㎡未満で展開されている施設が半数以上となっている。

図表 3-6 施設機能の設置割合

| 設置機能 | 設置数 | 設置割合 |
|---------|-----|-------|
| 店舗・売店 | 951 | 94.7% |
| レストラン | 789 | 78.6% |
| 無料休憩所 | 556 | 55.4% |
| 公園 | 402 | 40.0% |
| 喫茶・軽食 | 338 | 33.7% |
| 休憩施設 | 213 | 21.2% |
| 博物館・美術館 | 154 | 15.3% |
| 温泉 | 138 | 13.7% |
| 展望台 | 111 | 11.1% |
| 運動場 | 76 | 7.6% |
| 宿泊施設 | 72 | 7.2% |
| キャンプ場 | 66 | 6.6% |



出典：山口県地方自治研究センター

道の駅で展開する機能に関するデータが上記である。売店、つまり特産販売所機能を有する施設が 94.7%となっており、レストラン(78.6%)・喫茶・軽食(33.7%)といった飲食機能を有する施設の割合も高い。

このことから、観光商業施設を展開する上で、店舗・売店・飲食機能は必須であると言える。また、無料休憩所・公園・休憩施設などは、集客には直接つながらないが、時間を過ごすための滞在型機能を有する施設が多い。商業的機能と滞在的機能の2つが必要である。

(2) 道の駅の成功事例

全国で展開されている道の駅の中で、実際に成功している施設の展開状況から、成功する可能性が高い施設運営のあり方を検証した。なお、本市に近い市場環境における成功事例を見るため、近隣の人口集積都市でも仙台市と同規模若しくはそれ以下の都市に限定している。

■施設名：道の駅A

(1) 施設概要

地場産の旬な野菜や加工品を集めた農産物直販所や姉妹都市の物産販売所、風味とこしのあるそばや地元の食材を活かした焼きたてパンがお客さまに大好評。

(2) 成功ポイント

- ①産直に当初から力を入れている。
- ②ここでしか買えない商品がある。
- ③民間主体の経営を実施している。
- ④農家との協力体制・支援体制が確立している。

(3) 基礎情報

- ①売上 : 11億円(推定)
- ②年間客数 : 140万人(推定)
- ③敷地面積 : 3,960㎡
- ④施設面積 : 1,650㎡
- ⑤駐車台数 : 普通車90台、バス10台

(4) 展開機能

| | | |
|-------------|------------|--------|
| 野菜直販 | 海産物直販 | 加工品販売 |
| 物産品販売 | レストラン | カフェ |
| ベーカリー | 菓子屋 | 体験コーナー |
| 宿泊機能 | その他 : コンビニ | |
| 飲食の席数 : 40席 | | |

①所在地及び近隣人口集積都市人口

| 項目 | 都市名 | 人口 |
|----------|-----|-------|
| 所在地 | A市 | 13万人 |
| 近隣人口集積都市 | B市 | 108万人 |

②最寄駅・最寄ICからの距離及び交通量

| 項目 | 距離 | 乗降客数/利用台数 |
|------|--------|-----------|
| 最寄駅 | 0.3km | 400人/日 |
| 最寄IC | 16.9km | 26,000台/日 |

③車で1時間圏内観光施設と集客数

| 施設名 | 種別 | 観光客数 |
|-----|-----|---------|
| A | 観光地 | 2,200万人 |
| B | 名所地 | 200万人 |

(6) 集客要素

①名物単品の有無

- 1) 商品名 : A(スナック菓子)
- 2) 価格 : 778円

②集客イベント

| 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|
| | | | | | | | | | | | |

- 1) イベント名 : 夏祭り
- 2) 開催日 : 8月
- 3) 集客人数 : 1,400人
- 1) イベント名 : 餅つき大会
- 2) 開催日 : 1月
- 3) 集客人数 : 1,400人

■施設名：道の駅B

(1) 施設概要

魚介類が水揚げされる漁港の魚市場に隣接しており新鮮な魚介類の品揃えが豊富である。

(2) 成功ポイント

- ①地元客に特化した商品構成。
- ②地元の魚の訴求や食べ方の提案を行っている。
- ③地元客でも贈り物にできる商品の開発。
- ④定期的なイベントの開催。

(3) 基礎情報

- ①売上 : 10億円(推定)
- ②年間客数 : 140万人(推定)
- ③敷地面積 : 6,930㎡
- ④施設面積 : 1,386㎡
- ⑤駐車台数 : 普通車90台、バス5台

(4) 展開機能

| | | |
|--------------|-------|--------|
| 野菜直販 | 海産物直販 | 加工品販売 |
| 物産品販売 | レストラン | カフェ |
| ベーカリー | 菓子屋 | 体験コーナー |
| 宿泊機能 | その他 : | |
| 飲食の席数 : 120席 | | |

①所在地及び近隣人口集積都市人口

| 項目 | 都市名 | 人口 |
|----------|-----|------|
| 所在地 | A市 | 6万人 |
| 近隣人口集積都市 | B市 | 19万人 |

②最寄駅・最寄ICからの距離及び交通量

| 項目 | 距離 | 乗降客数/利用台数 |
|------|--------|-----------|
| 最寄駅 | 2.2km | 1,200人/日 |
| 最寄IC | 45.9km | 11,000台/日 |

③車で1時間圏内観光施設と集客数

| 施設名 | 種別 | 観光客数 |
|-----|-----|-------|
| A | 寺社 | 100万人 |
| B | 観光地 | 150万人 |

(6) 集客要素

①名物単品の有無

- 1) 商品名 : A(魚のオイル漬け)
- 2) 価格 : 700円

②集客イベント

| 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|
| | | | | | | | | | | | |

- 1) イベント名 : お魚の日
- 2) 開催日 : 月1回(日曜日)
- 3) 集客人数 : 6,000人
- 1) イベント名 : お魚祭り
- 2) 開催日 : 10月
- 3) 集客人数 : 6,000人

■施設名：道の駅C

(1) 施設概要

施設は大きく2つに分かれており、その一つは農産物直売所。そしてもう片方はやや大きめの建物である交流館、ここには情報コーナー、特産品の販売コーナー、軽食コーナー、レストラン等が入っている。

(2) 成功ポイント

- ①地元客をターゲットとした物販・飲食展開。
- ②経営トップが民間出身で、経営権を任されている。
- ③子供向け遊具、足湯など滞在機能の充実。
- ④地域貢献の為に市内のお客様限定で宅配サービス実施。

(3) 基礎情報

- ①売上 : 20億円(推定)
- ②年間客数 : 145万人(推定)
- ③敷地面積 : 23,100㎡
- ④施設面積 : 1,650㎡
- ⑤駐車台数 : 普通車500台、バス20台

(4) 展開機能

| | | |
|--------------|--------------|--------|
| 野菜直販 | 海産物直販 | 加工品販売 |
| 物産品販売 | レストラン | カフェ |
| バーカリー | 菓子屋 | 体験コーナー |
| 宿泊機能 | その他 : 広場、会議室 | |
| 飲食の席数 : 200席 | | |

①所在地及び近隣人口集積都市人口

| 項目 | 都市名 | 人口 |
|----------|-----|------|
| 所在地 | A市 | 12万人 |
| 近隣人口集積都市 | B市 | 52万人 |

②最寄駅・最寄ICからの距離及び交通量

| 項目 | 距離 | 乗降客数/利用台数 |
|------|-------|-----------|
| 最寄駅 | 3.7km | 7,000人/日 |
| 最寄IC | 2.8km | 27,000台/日 |

③車で1時間圏内観光施設と集客数

| 施設名 | 種別 | 観光客数 |
|-----|------|-------|
| A | 商業施設 | 730万人 |

(6) 集客要素

①名物単品の有無

- 1) 商品名 : A(饅頭)
- 2) 価格 : 97円

②集客イベント

| 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|
| | | | | | | | | | | | |

- 1) イベント名 : A
- 2) 開催日 : 12~1月
- 3) 集客人数 : 不明
- 1) イベント名 : B
- 2) 開催日 : 7~8月
- 3) 集客人数 : 12,000人

■施設名：道の駅D

(1) 施設概要

地元の採れたて新鮮なお野菜をはじめ地元の素材、昔ながらの独自の製法で作った地元特化型の食材、できたて・作り立ての商品を通じて、「地元のおいしさ」を追求した食のテーマパークを目指している。

(2) 成功ポイント

- ①産直・海産・飲食など地元向けの品揃えである。
- ②生産者の組織化。
- ③ファクトリースタアの展開。
- ④体験イベントの実施。
- ⑤社員主体でのイベント企画の体制がある。

(3) 基礎情報

- ①売上 : 11億円(推定)
- ②年間客数 : 90万人(推定)
- ③敷地面積 : 9,900㎡
- ④施設面積 : 1,980㎡
- ⑤駐車台数 : 普通車120台、バス5台

(4) 展開機能

| | | |
|--------------|-------|--------|
| 野菜直販 | 海産物直販 | 加工品販売 |
| 物産品販売 | レストラン | カフェ |
| ベーカリー | 菓子屋 | 体験コーナー |
| 宿泊機能 | その他 : | |
| 飲食の席数 : 120席 | | |

①所在地及び近隣人口集積都市人口

| 項目 | 都市名 | 人口 |
|----------|-----|------|
| 所在地 | A市 | 11万人 |
| 近隣人口集積都市 | B市 | 79万人 |

②最寄駅・最寄ICからの距離及び交通量

| 項目 | 距離 | 乗降客数/利用台数 |
|------|--------|-----------|
| 最寄駅 | 5.9km | - |
| 最寄IC | 17.2km | 40,000台/日 |

③車で1時間圏内観光施設と集客数

| 施設名 | 種別 | 観光客数 |
|-----|-----|------|
| A | 観光地 | 1万人 |
| B | 山岳 | 30万人 |

(6) 集客要素

①名物単品の有無

- 1) 商品名 : シイタケ
- 2) 価格 : 180~1200円

②集客イベント

| 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|
| | | | | | | | | | | | |

- 1) イベント名 : 夜祭り
- 2) 開催日 : 8月
- 3) 集客人数 : 2,000人

■施設名：道の駅E

(1) 施設概要

楽しさいっぱい・美味しさいっぱいのタウンサイトである。ここでは、地元の大自然に育まれた食材を使用した、新鮮なものばかり。すぐ近くに自然遊歩道・温泉を完備しており、大自然を満喫しながら思いっきりリラックスできる。

(2) 成功ポイント

- ① 圧倒的単品の存在
- ② 地場素材での商品開発
- ③ コラボレーションによる付加価値商品開発
- ④ 飲食席数・駐車場台数の充実
- ⑤ 県外からも来場するイベント
- ⑥ 運営を主導するリーダーの存在
- ⑦ 集客機能としての産直

(3) 基礎情報

- ① 売上 : 15億円(推定)
- ② 年間客数 : 150万人(推定)
- ③ 敷地面積 : 49,500㎡
- ④ 施設面積 : 2,310㎡
- ⑤ 駐車台数 : 普通車600台、バス10台

(4) 展開機能

| | | |
|--------------|-----------------|--------|
| 野菜直販 | 海産物直販 | 加工品販売 |
| 物産品販売 | レストラン | カフェ |
| ベーカリー | 菓子屋 | 体験コーナー |
| 宿泊機能 | その他 : ソフトクリーム販売 | |
| 飲食の席数 : 300席 | | |

① 所在地及び近隣人口集積都市人口

| 項目 | 都市名 | 人口 |
|----------|-----|--------|
| 所在地 | A村 | 3,000人 |
| 近隣人口集積都市 | B市 | 34万人 |

② 最寄駅・最寄ICからの距離及び交通量

| 項目 | 距離 | 乗降客数/利用台数 |
|------|--------|-------------|
| 最寄駅 | 10.5km | 4,000(日/人) |
| 最寄IC | 5.0km | 14,000(日/台) |

③ 車で1時間圏内観光施設と集客数

| 施設名 | 種別 | 観光客数 |
|-----|------|-------|
| A | 世界遺産 | 140万人 |

(6) 集客要素

① 名物単品の有無

- 1) 商品名 : A(飲料)
- 2) 価格 : 125円

② 集客イベント

| 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|
| | | | | | | | | | | | |

- 1) イベント名 : 春のイベント
- 2) 開催日 : 5月
- 3) 集客人数 : 48,000人
- 1) イベント名 : A
- 2) 開催日 : 7月
- 3) 集客人数 : 24,000人

図表 3-7 先進事例から見る観光商業施設の成功要因

| 施設名 | A | B | C | D | E |
|-------|---------------------|----------------------|----------------------|---------------------------|----------------------|
| 売上 | 11 億円 | 10 億円 | 20 億円 | 11 億円 | 15 億円 |
| 客数 | 140 万人 | 140 万人 | 145 万人 | 90 万人 | 150 万人 |
| 野菜直販 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 海産物直販 | | ○ | | ○ | |
| 加工品販売 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 物産品 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| レストラン | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| カフェ | | | | | ○ |
| ベーカリー | ○ | | | | ○ |
| 菓子屋 | | | | | |
| 体験工房 | | | | ○ | ○ |
| 宿泊施設 | | | | | |
| その他 | コンビニ | | 広場・会議室 | | ソフトクリーム |
| 飲食席数 | 40 席 | 120 席 | 200 席 | 120 席 | 300 席 |
| 駐車場台数 | 普通車 90 台 バス 10 台 | 普通車 90 台 バス 5 台 | 普通車 500 台 バス 20 台 | 普通車 120 台 バス 5 台 | 普通車 600 台 バス 10 台 |
| 名物商品 | スナック 菓子 778 円 | 魚の オイル漬け 700 円 | 饅頭 97 円 | シイタケ 180 円 ～1,200 円 | 飲料 125 円 |

上記先進事例の概要を比較すると、観光商業施設成功のポイントとして以下の3点は必須条件であると考えられる。

- ① 農産物直売、加工品・物産品の販売機能は必須である。
- ② 少なくとも、1ヶ所の飲食機能は必須である。
- ③ 1,000円未満の名物商品が存在する。

(3) 本市周辺の観光商業施設とその機能

多賀城市役所を中心に車で1時間圏内(50km)に道の駅は6ヶ所存在し、全ての道の駅で農産物直売所・レストラン・物販が展開されている。商業施設を成功させる際には、直売機能や飲食機能等の幅広い機能を充実させることが必要であり、そのためには施設面積を最大化することが重要となる。

本市において100万都市である仙台を含む3市3町からの誘引を実現する施設とするためには、少なくとも半径30km圏内での施設面積一番化が重要であり、その目安は施設面積1,650㎡以上であると言える。

図表3-8 本市周辺の観光商業施設



図表 3-9 本市周辺の観光商業施設とその機能

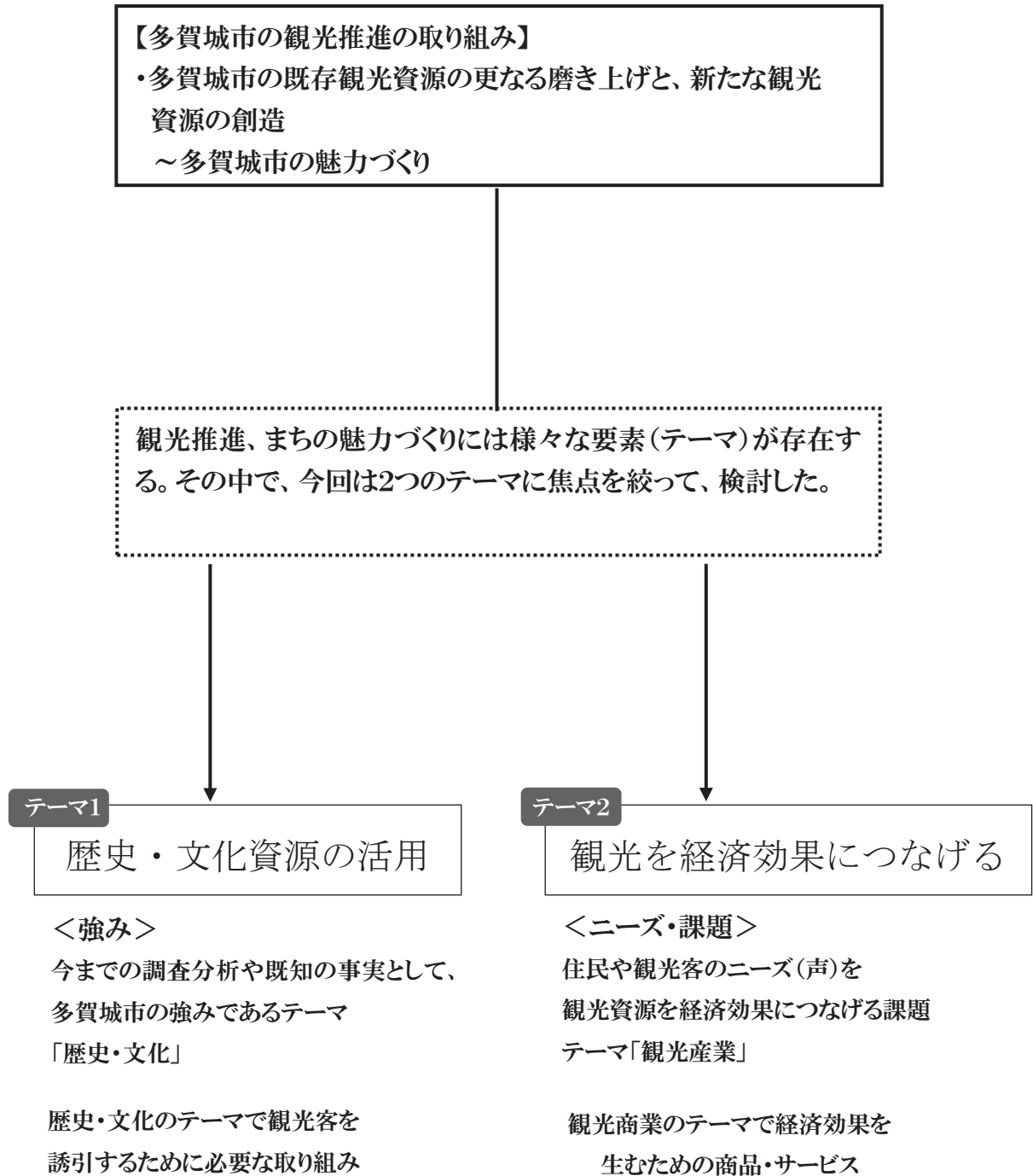
| No. | 道の駅 | 運営母体 | 展開機能 |
|-----|------------|-----------------------|--|
| 1 | あ・ら・伊達な道の駅 | (株)池月道の駅(第三セクター) | 農産物直売所・レストラン・物販・米工房・パン工房・蕎麦工房・田楽小舎・多目的ホール・ロイズ・体験施設 |
| 2 | 道の駅米山 | (株)Y・Y | 農産物直売所・レストラン・物販・パン工房・純登米産米直売所・体験施設 |
| 3 | 道の駅上品の郷 | (株)かほく・上品の郷(第三セクター) | 農産物直売所・レストラン・物販・温泉保養施設 |
| 4 | 道の駅三本木やまなみ | (株)大崎市三本木振興公社(第三セクター) | 農産物直売所・レストラン・軽食コーナー・物販・亜炭記念館・防災情報ステーション |
| 5 | 道の駅おおさと | (株)おおさと地域振興公社(第三セクター) | 農産物直売所・レストラン・物販 |
| 6 | 道の駅村田 | (株)村田町ふるさとリフレッシュ | 農産物直売所・レストラン・物販・研修室 |

※ホームページ・ヒアリングによる調べ

第4章 観光推進プロジェクトの まとめ

第4章 観光推進プロジェクトのまとめ

1 テーマ設定までの流れ



2 資源を活かした観光推進の施策の方向性

第2章において、本市及び周辺自治体住民、周辺自治体への来訪者に対するアンケート調査、ヒアリング調査、現地調査や先進事例調査等（第3章参照）から、先に示した2つのテーマ（①歴史・文化資源の活用 ②観光を経済効果につなげる事業）に基づき、いくつかのキーワードによって強みと課題、今後の方向性について整理した。

(1) 歴史・文化資源の活用

「歴史」、「文化」、「自然」、「イベント」、「コミュニティ」などのキーワードで本市の主な観光資源の強みと課題を整理した。

「歴史」は東北歴史博物館、多賀城跡、歌枕など、「文化」はJR多賀城駅前に移転される市立図書館をはじめとするJR多賀城駅北地区第一種市街地再開発事業の各施設や文化センター、「自然」はあやめ園や加瀬沼公園など、「イベント」は、あやめまつり、万葉まつり、ザ・祭り、「コミュニティ」は人材や活動団体等の組織をそれぞれ核となる資源として位置付け、この核となる資源を活用した取り組み等の施策を整理した。

(2) 観光を経済効果につなげる事業

観光による経済効果を創出するためには、物品販売・飲食といった商業的機能が重要である。本市内においては、歴史・文化資源はあるものの、そこを訪れた観光客を対象とした商業的機能は不足しているのが現状であり、それを解消するための方策の一つとして「観光商業施設（道の駅・物産館）」の開発が挙げられた。一方で、商業機能については、アンケートでも本市を訪問した際にお土産として購入できるような名物がないのが現状であり、それを開発することや、商業施設を主体となって運営する運営主がはっきりしなければ持続的な経営は困難ではないかという意見が挙げられた。これらは、先進事例を見ても同様のことが言える。

そこで、将来的な観光商業施設の展開の際に必要な取り組みについて整理した。

3 キーワードと本市の資源に対する意見の整理

「歴史・文化」、「自然」、「コミュニティ」、「観光商業施設」といったキーワードの核となる資源の相互連携や、歴史・文化や自然資源を商業的機能の整備と組み合わせることにより、中長期的なビジョンとして、本市の観光戦略を今後検討する必要がある。

(1) 歴史・文化資源の活用による観光推進

歴史・文化資源については、主に次の4点について検討を行う必要がある。

ア 東北歴史博物館を核とした歴史資源の活用

仙台市及び周辺自治体住民が、加瀬沼公園の次に訪れたことがある施設として挙げたのが、東北歴史博物館である。この施設は、本市の観光キーワードである歴史をテーマとした施設であるため、観光客層も歴史に興味を持っている方が多いと推測される。

そこで、東北歴史博物館を拠点とした観光周遊コースの設定など、本市内観光に結び付けるための施策を検討する必要があると考えられる。

一方、本市に対して、歴史のまちというイメージを持つ方は本市内外ともに最も多くの割合を占めるが、市外の方については、実際に歴史資源を訪問とした経験はほとんどないのが現状である。歴史資源の中では、東北歴史博物館が最も訪問者数が多いという結果を受け、この施設を拠点とした歴史観光を進めていくべきものと考えられる。

イ 自然という第2のイメージ・資源の活用

仙台市及び周辺自治体住民を対象にしたアンケートでは、本市のイメージとして歴史の次に挙げられたのが「自然が豊か」という項目である。

本市の住民が考える「本市内のベストスポット」でも、自然を感じられる場所を挙げる方が多かったことから、自然を新たな観光の切り口として検討していく価値があるものと考えられる。

さらに近隣市町に住む住民に対するアンケートによれば、本市の観光施設の中で最も多くの訪問客を有するのが加瀬沼公園である。しかしながら、ここは本市内でも利府町との境に位置するため、JR国府多賀城駅近辺の観光地に誘引することができていないのが現状である。

加瀬沼公園を訪れる観光客を本市内の他の観光施設へと誘引するためには、加瀬沼の桜や、加瀬沼から多賀城跡への散策路の美しさについて、カタクリの群生地、オオムラサキ、山椒魚がいる森として積極的にPRを行っていく必要がある。

ウ イベントの認知度・集客力向上

本市で開催される様々なイベントは、本市の住民の認知・参加にとどまっておらず、周辺自治体住民を巻き込んだイベントになっているものは、あやめまつり・万葉まつり・ザ・祭りのみである。そこで、他のイベントについても認知度を高めていくためのPRを行うとともに、あやめまつり・万葉まつり・ザ・祭りについては更なる大きなイベントにするべく、磨き上げを行っていく必要があるものと考えられる。

エ コミュニティの構築

特に歴史・文化面での観光推進においては、地域住民が自分たちのまちに誇りを持ち、来訪客に語りたくなるような、まちへの愛着心の醸成が必要不可欠である。そのために、現在本市に住み、観光や商業の担い手が一丸となって多賀城の良さを伝えていくコミュニティの創造が必要となる。

また、人口構成の変化を考慮すると、本市に住む高齢者の方々による歴史や文化の継承や、次世代を担う子どもたちへの教育に、郷土について学ぶ時間の充実も重要であると考えられる。

また、本市には観光推進に取り組む団体が複数存在する。これらの団体が連携することで、本市の観光推進はより強いものになると考えられる。

(2) 観光を経済効果につなげる事業

ア 観光商業施設の成功条件の検証

全国で展開されている道の駅のマクロデータ及び実際に成功している施設の展開状況から、観光商業施設として成功させるための施設運営の条件を抽出した。前章で記載したモデル施設水準（売上 10 億円）での成功と、実現可能な成功のいずれを目指すかにより、条件は異なる。

本市の現状を考えた時、中心部では一定規模の敷地の確保が難しく、郊外においては、農業振興地域であり開発自体が難しくなることから、実際に売上 10 億円を実現できる施設に十分な用地を確保することが難しい。

そこで、現状の本市の置かれている環境に加えて、観光客市場とそこからの誘引、さらに地元商圈からの集客を考慮した上で、繁盛店として利益を創出し、施設が継続し、地域に貢献するための実現可能な売上として、目標値及びその条件を以下のように設定する。

【年間集客 20 万人、売上 3 億円以上を獲得するために】

○ソフト面

- 1) 「あそこのあれ」といった名物単品開発が必須
- 2) 付加価値・独自性を生み利益につながる加工品が必要
- 3) 責任を持って運営する組織・リーダーが必要
- 4) 産直を展開する上での生産者との連動（契約農家 100 軒）
- 5) コンセプトが明確に訴求されていること
- 6) 地元客に対応した施設運営を実施すること
- 7) 販促・イベントといったソフト力と、それを支える人財の育成

○ハード面

- 1) 施設面積は 600 m²以上の展開が必要
- 2) 敷地面積は施設面積の 2.7 倍以上の展開が必要
- 3) 駐車場台数は 40 台以上が必要
- 4) 物販・飲食機能は必須機能
- 5) 産直物販スペースは、130 m²～260 m²が必要
- 6) 飲食スペースは、100 m²～260 m²が必要

立地については、一定規模のまとまった面積を確保するとともに、大切なことは次の2点である。

- ・交通導線上の利便性が高い場所（一定の交通量、交通の集中する拠点）
- ・既でに一定の集客をしている場所

本市で仮に想定される場所としては

- 主要幹線道路周辺
- 多賀城跡を中心としたエリア

が挙げられるが、それぞれ、十分な広さの土地がなく、一定面積の確保が困難なことや、特別史跡、農業振興地域等の法的規制があるなど各種課題が存在する。

一定の面積をまとめて確保することが好ましいが、一方で必要な面積を一定のエリア内で分散していくという方法も考えられる。まとまった施設を展開できない場所や、既存の施設等を有効活用して考えることも必要である。

- ・一つのまとまった、周遊できる地域として認識できるエリア
- ・既存で一定の集客をしているエリア

本市で仮に想定される場所としては

- 多賀城跡を中心としたエリア
- 既存の商店街～空き店舗の活用

が挙げられるが、各種の制約条件、駐車場の確保、周遊可能な一体感をどう出していくかという課題が存在する。

各課題をクリアしながら、立地の選定及び確保をしていくことが今後の取り組みとして必要となる。

イ 本市における観光商業施設の運営プラン

前述した集客 20 万人、売上 3 億円以上の獲得という目標を前提とした際に、集客及び施設内容にポイントを絞ることとした。

■集客ターゲット

目標の 20 万人を維持するためには、本市の観光客（ターゲット①）だけでは維持できないことから、100 万人都市の仙台市、周辺自治体及び地元の住民（ターゲット②）をターゲットとする。

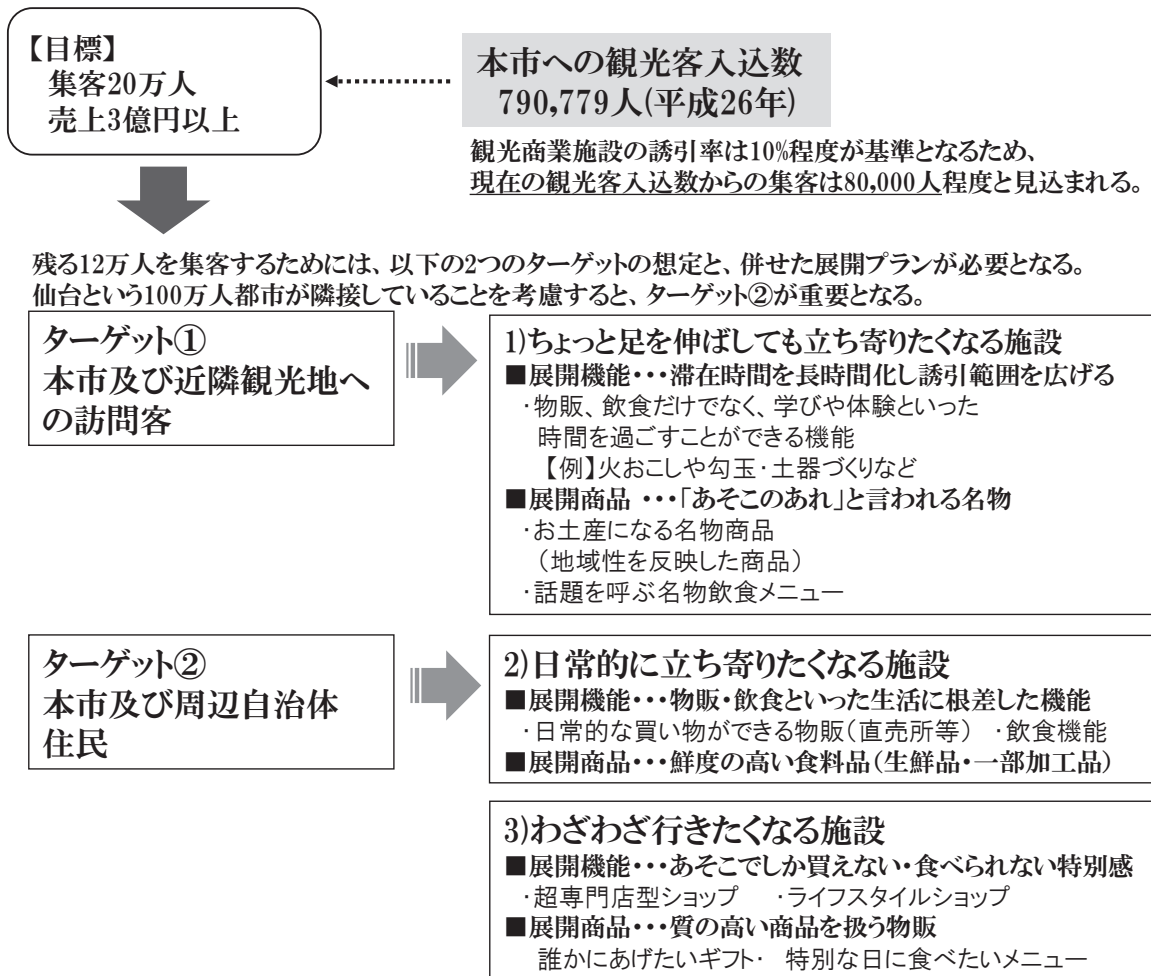
■施設内容の充実

仙台市、周辺自治体及び地元の住民が利用するためには、日常的に購入で

きる商品が必要である。また、「行ってみたい」と思わせる商品開発、編集力が重要であると考えられる。

以上のポイントから検討した本市における観光商業施設の運営プランは次の図である。

図表4-1 目標を達成するための観光商業施設展開の方向性



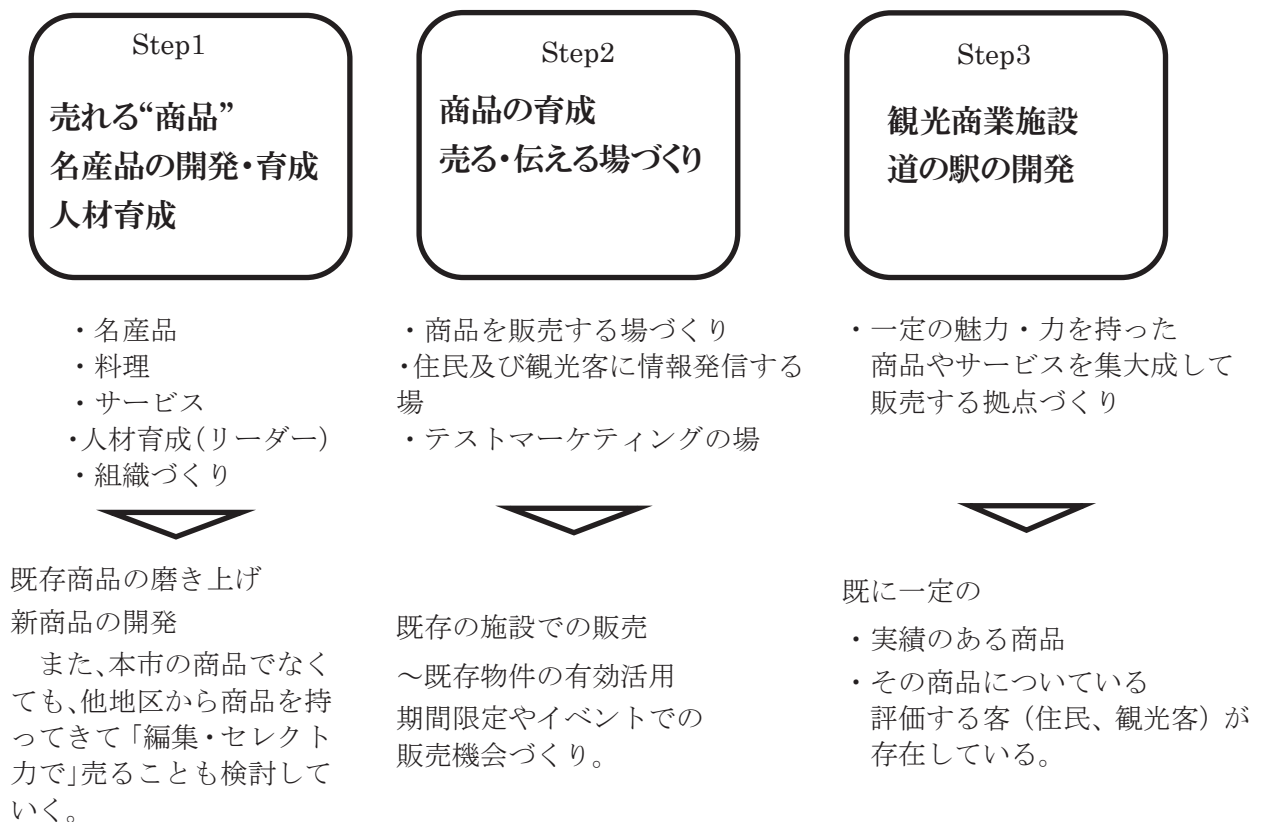
ウ 運営に向けたステップ

現在、全国で運営されている道の駅等の観光商業施設の形態や機能は、様々な特色を備え多様化している。

将来的に本市で観光商業施設を運営する際には、本市の状況や背景等を踏まえて、本市に最もふさわしい運営パターンを見据えた上で、段階的に、実行可能な領域から行動化していくことが重要である。

観光商業施設、道の駅の開発展開を目標とした時、その成功のためには、施設(ハード)の構築の他に、達成すべき目標が存在する。それは売れる商品及びサービスであり、施設(ハード)だけできても、内容(ソフト)が伴わなければ観光商業施設・道の駅が繁盛することは難しい。商品・サービス開発と育成に取り組み、その集積を元に観光商業施設を開発することが好ましい。観光商業施設開発を3つのステップで考え、まずは取り組めるステップ1から取り組んでいくべきものとする。

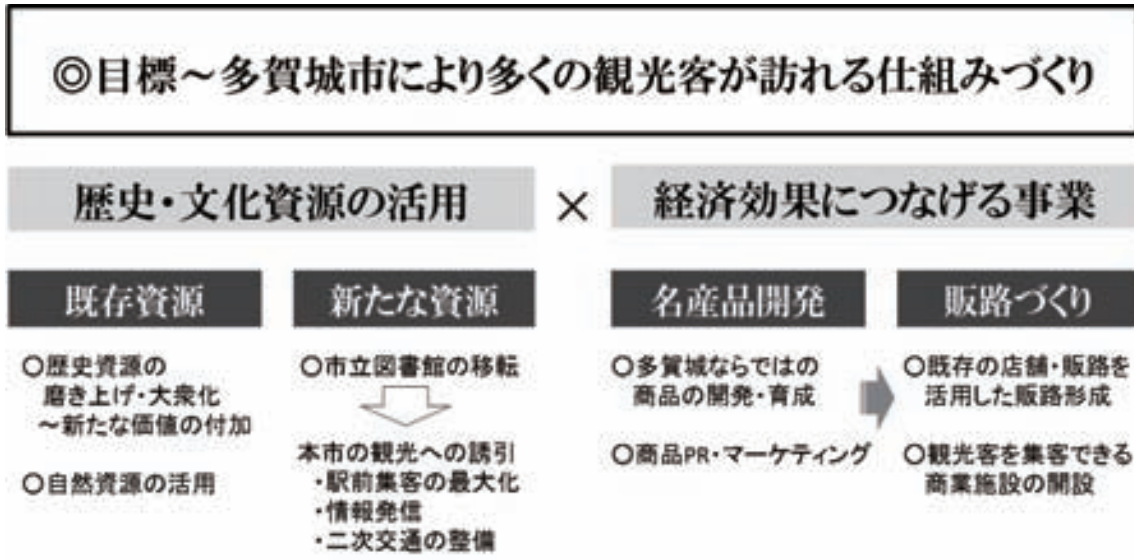
図表4-2 観光商業施設開発までのステップ



4 プロジェクトのまとめ・総括

この度の調査研究では、本市の観光推進における現状と課題を把握すると同時に、本市には固有の魅力や今後の観光推進につながる資源が数多く存在することを再発見するに至った。

図表4-3 本市の観光推進の方向性



(1) 歴史・文化資源の活用

ア 既存資源の活用

住民アンケート及び周辺市町住民アンケートからも見られるように、本市のイメージは「歴史」である。これは、どの世代でも共通して持つ本市のイメージであり、観光推進においても中心に置くべきキーワードであると言える。

一方で、実際に周辺市町の住民が最も訪れている観光スポットは、歴史資源ではなく、自然資源の加瀬沼公園という結果も見られた。ここから、本市には歴史というイメージはあるものの、それが「本市を訪れたい」という動機にまで高められていない実情がうかがえる。

このことから、今後、本市の観光を推進していくためには、本市内にある歴史・文化資源となる施設の活用及び既存のイベントを継続していただくだけでなく、各委員やキーパーソンから挙げられた「音楽」や「食」などの「付加価値」を加えることが必要であると考えられる。これにより、新たな話題性やストーリー性などが構築されることで、集客力の強化・交流人口の増加が期待される。本市の観光については、食やイベント、自然といった幅広い視点でとらえる必要がある。

イ 新たな観光資源の創出

平成28年3月にJR多賀城駅北側に新たな「市立図書館」が開館することで、駅前の更なる賑わい創出が期待される。同施設は全国的にも注目を集めている施設であり、年間120万人の来場者を見込んでいることから、ここに滞留させるだけでなく、本市内を広域的に回遊してもらうための仕組みづくりが重要である。

このためには、人材、民間組織、行政機関、更には近隣市町の連携が必要である。「観光客が訪れるまち」という目標に向かって、相互に連携し、事業（イベント）などを協働で取り組むことで、本市の観光がより加速的に推進していくものと考えられる。

(2) 経済効果につなげる事業

ア 名産品・特産品の開発・育成

本市には、「名産品がない」といわれているが、以前、商品開発された中には、名産品となりうる商品（地場産品、お菓子、料理など）が存在している。

また、商工会や観光協会では、独自の取り組みで、地場産品を活用した食のイベントや商品開発を行っており、今後も「多賀城ならではの」の商品開発・育成を継続的に行うことが重要であり、また、商品PRやマーケティングを工夫することで新たな名産品・特産品が生まれることが期待される。

イ 観光商業施設の可能性と展開

本市における観光商業施設に関する提案は、先に述べたとおりであるが、その観光商業施設を成功に導くためには、施設（ハード面）の構築から始めるのではなく、売れる商品・料理メニュー等（名産品）を開発し、「多賀城ブランド商品」に創り上げていくことが求められている。

また、長期的に継続的な運営を行うためには、専門的かつリーダー的な人材を育成し、責任を持って運営できる組織づくり（ソフト面）などの課題を段階的にクリアしていくことが重要であり、その先に観光商業施設の開発が挙げられる。

(3) 今後の取り組み

今回の調査結果の成果は、本市の今後の観光を推進していくための基礎資料としての活用を目的としており、実態調査等で明らかになった本市の観光を推進していくための課題やニーズ、地域資源などについては、今後の観光施策に展開していく必要がある。

その施策の具体化に向けては、着手可能な範囲から身の丈にあった取り組み

を進めることで事業の推進につながっていくと考えられ、時系列での優先順位を設定し、ステップ（段階・手順）を踏みながら検討していくことが必要である。

まずは、産学官民連携の下に、最初の一步を踏み出していくことが重要である。

【事業化の展開例について】

1 各種調査研究からの事業提案について

下記の表は、これまで実施してきた各種調査研究(アンケート調査、ヒアリング調査、検討部会等)において、本市が観光に取り組んでいくべき内容について、多岐にわたる意見やアイデアが出され、その出された事業提案を項目別に分類し、整理したものである。

| 目的 | 分類 | 項目 | 現在 | 将来 | |
|-------------------------|-----------------|---------------------|-----------------------------|-----------------------------------|-----------------|
| 多賀城市により多くの観光客が訪れる仕組みづくり | 歴史・文化資源の活用 | 歴史 | 歴史ストーリーの表現・可視化 | 歴史ストーリーの再構築 | 新能の再実施 |
| | | | | | 商業施設とのイベント連携 |
| | | | 政庁跡の規制緩和 | | 南門の復元 |
| | | 文化 | 市立図書館との連携 | 特別な体験ができる場づくり | |
| | | | 自然 | 花の活用 | 花を活用した集客ポイントづくり |
| | | | | 緑街緑地の利用計画・検証 | 緑街緑地を活用したイベント創出 |
| | | | | 加瀬沼の利用計画・検証 | 加瀬沼・散策路の整備 |
| | | イベント | 多賀城独自のプロデュース・デザイン | 新規イベントの企画 ・食 ・まちおこし ・フェス | 古代米田んぼアート |
| | | | イベント実施時の 財源確保の 仕組みづくり | | 既存イベントのリニューアル |
| | | | | 新規イベント開催 | |
| | | | | イベント企画の組織づくり | |
| | | コミュニティ | 郷土教育 | ファン・応援団のコミュニティ化 | |
| | | | 食育への取組 | | |
| | | | 民間での地域連携の組織づくり | ディスカッションの場の創造 地域連携イベント・シンポジウム | |
| | | 施設開発 | 貸し農園の検証・花・農作講座 | 貸し農園スタート | |
| | | | 農産物直売所スタート | | |
| | 商業施設利用客のターゲット選定 | | 商業施設の設計・建築に参加する企業の組織化 | 商業施設の整備 (道の駅・物産館等) | |
| | 商業施設の立地検討 | | | | |
| | 人材の育成 | | | | |
| | 商品開発 | 名産品開発に 取り組む企業の募集 | 名産品開発(古代米) | 古代米のブランド化 | 商品の拡散・通販展開 |
| | | | 既存商品の磨き上げ | 特産品コンテスト | |
| | | | 特産品イベントの開催 | 新商品開発 | |
| | | | 特産品売場の設置と機会の創出 | 東北六県・奈良・大宰府のセレクト商品の販売機会 | |
| | | | 6次産業化の取組 | | |

これら、ヒアリングやアンケート、検討部会で出された意見とアイディアに対して、以下のフィルターを掛け、次年度以降に具体化していくためのプロジェクトイメージを検討する。

フィルター1：本市の観光にとって、より効果的であること。

取り組みの結果、本市の観光を活性化し、認知度を上げ、集客増に結びつき、収益性を生み、地域に貢献すること。
費用（&手間ひま）対効果に優れたものであること。

フィルター2：実現可能であること。

その事業化が、絵に描いた餅で終わるのではなく、十分に実現性が高いものであること。

フィルター3：すぐにスタートできること。

段階的な取り組みであり、今後、すぐに取りかかれるような短期的に取り組める内容があること。

上記のフィルターと、各種アンケート・ヒアリング調査の結果を踏まえての方向性として、以下の点が挙げられる。

(1)本市の強みを活かす

現在、本市の強みとして確立していることを活かす取り組みであり、まったく新規のものに取り組むというよりは、既存の取り組みの活性化や再強化、若しくは既存の延長線上にあることに取り組む。

ア 歴史という強み

他に例のない独自の歴史というイメージを背景に、歴史に関わる観光スポットや施設の活性化を図る。

イ 既存のイベントの強み

既存のイベントの活性化のため、歴史や食に関するイベントの開催を検討する。

イベントによって、地域や団体の連携をつくっていく。またその特徴を活かした、外に向けた情報発信力を醸成する。

(2)名産品の開発

過去においても様々な取り組みがあり、現在も取り組みが続いている名産品の開発であるが、しかしながら、まだ大きな成果には結びついていないのが現状である。

引き続き、名産品の開発に取り組んでいくべきものとする。

(3) 名産品の育成と販路形成

さらに開発した商品(今後開発する商品)を育成するためには、それを広くPRしていく場が必要となる。商品を紹介し、販売する場所(店舗・売場)の開発に取り組む必要がある。

しかし、新規店舗開発には投資と様々な準備が必要となる。道の駅や物産館については、その立地や建築等にしっかりとした計画が必要であり、事業化に当たっては長期的な視点が不可欠である。

短期的な取り組みとして、期間限定の店舗や空き物件を活用した店舗の開設、移動販売、通信販売等の可能性を検討し、実施していくことで、商品の可能性や販売方法などに対する継続的なマーケティング調査を実施していくことが考えられる。

(4) 本市の観光資源の認知度向上～広告宣伝、広報活動

既存でも観光スポットや各種イベント等、本市の観光資源は少なくないし、知名度も低くはない。本市の住民にとって認知度は高いが、市外の人々の認知度はまだ十分とは言えず、市外の人々の認知度UPのためのPRが必要である。

現在ある観光資源やイベントを戦略的に情報発信していく取り組みを検討していく必要がある。

その場合は、費用をかけて宣伝するのではなく、広報活動として取り組むことを優先する必要がある。

(5) 様々な組織・団体の連携協力の体制づくり

本市の観光推進に関する取り組みには、様々な団体・組織が取り組んでいるが、それぞれが連携・協力し、一つの大きな流れをつくるには至っていない。

それぞれの取り組みをトータルで捉え、統合を図ったり、協力する体制づくりに取り組み、各団体・組織間の風通しを良くし、まち全体での観光対応の連携を実現する必要がある。

(6) 新しい観光資源への注目

既存の歴史・文化資源とイベントの磨き上げ、商業的機能の充実等を基本に観光推進を検討していくとともに、別の新しい要素へのアプローチにも取り組んでいく必要がある。

例えば、農業的な要素、花という特産品についての検討も行き、新たな取り組みを展開していく必要がある。

【想定される事業案】

これまで検討してきたプロジェクトのイメージから、今後の観光推進における具体的な事業案として、以下のものを想定した。

- ① 多賀城市の名産品開発&育成
- ② 新しいイベントの創出 — 食、音楽
- ③ 既存イベントの活性化 — あやめまつり、万葉まつり
- ④ 期間限定の空間活用プロジェクト（場遊び）
- ⑤ 道の駅・物産館の開発準備
- ⑥ 多賀城跡周辺の活用
- ⑦ 効果的な情報発信と広報活動の展開
- ⑧ 各活動の団体・組織が集まり、コミュニケーションを図る機会の創出
- ⑨ 本市に対する誇り、愛着の醸成

今後、これらの事業化を検討するに当たって、先に述べたフィルター1：本市の観光にとってより効果的であること、フィルター2：実現可能であること、フィルター3：すぐにスタートできることの3つのフィルターを満たす具体的な展開例のいくつかを、参考となる先進事例とともに次頁以降に示す(事業名、関連団体はいずれも仮称)。

事業化の展開例

- ① 事業名 : 名産品開発育成プロジェクト
- ② 想定関連団体 : 観光関連団体、民間企業、J A、行政、大学
- ③ 事業目的 : 「既存資源（商品）」の掘り起こし及び「新たな商品の開発」を行い、交流人口の増加及び賑わいを創出する。
- ④ 達成目標 : 名物単品開発
- ⑤ 事業内容 : 本市の地場産品（古代米、野菜など）を活用する。また、複数の事業者で共同開発の商品も検討する。
- ⑥ 進行方法 : 商品開発を実施する素材を選択し、その素材を使用した商品を民間企業に委託して開発してもらう。そして、観光関連団体でその商品のプロモーションを考え、名産品として育成する。

⑦ 参考モデル

【ごっくん馬路村】（高知県）

高知県馬路村で 40 年前に柚子の栽培を始めたものの高齢者が多く、手入れが行き届かないため、そのままの状態の販売することが難しいことから加工品として販売する方向に転換。

昭和 63 年にポン酢醤油「ゆずの村」が「日本の 101 村展」で大賞を受賞し、その翌年には柚子製品の売上が 1 億円を突破。その後、「ごっくん馬路村」などのヒットとなり約 750 万本を販売している。

事業化の展開例

- ① 事業名 : 新しいイベントの実施 ～食プロジェクト
- ② 想定関連団体 : 観光関連団体、民間企業
- ③ 事業目的 : 集客力が強い新しい食イベントを開催し、本市の新しいイメージを持っていただく。
- ④ 達成目標 : 本市の認知度を上げる。
- ⑤ 事業内容 : 本市のラーメン店は店舗数も多く、また、食べログのポイントが高い、隠れた名店も存在している。ラーメンは集客力も強いため、本市で「ラーメンサミット」を開催する。本市のラーメン店をベースにブースを組みながら、県内広域客を取り込むために、県外からゲスト出店を募る。
- ⑥ 進行方法 : プロジェクトチームを立ち上げ、イベント実施の話し合いを実施する。その後、企画を詰め、協力企業などの声掛けをし、実施に向けて行動する。

⑦ 参考モデル

【ラーメンショー】(福岡県)

一般社団法人日本ラーメン協会が、ラーメンの品質向上とラーメン文化の普及を目的として、東京・福岡・札幌と日本三大ラーメン処での「ラーメンショー」を開催している。

2014年11月、第2回目開催の「福岡ラーメンショー2014」は、第1回目を上回る106,000名もの来場があった。

九州のラーメン屋のみならず北海道や東北、関東など全国から有名店を呼び、話題となっている。また、日本の代表的な食文化として海外への情報発信も行っている。

事業化の展開例

- ① 事業名 : 新しいイベントの実施 ～音楽プロジェクト
- ② 想定関連団体 : 観光関連団体、民間企業
- ③ 事業目的 : 集客力が強い音楽と本市の特徴を掛け合わせた独自性がある音楽イベントを実施し、幅広い年代の方に本市に来ていただく。
- ④ 達成目標 : 本市の認知度を上げる。
- ⑤ 事業内容 : 音楽フェスに参加する年齢層も 20 代から 30 代と若いため、年配客が多い本市としては、今後集客したい年齢層を獲得するためには必要となるイベントの一つと考えられる。音楽フェスはコンセプトが重要であるため、本市で開催する音楽フェスは「歴史」をテーマとしたフェスとすることで独自価値を情報発信していく。
- ⑥ 進行方法 : プロジェクトチームを立ち上げ、イベント実施の話し合いを実施する。その後、企画を詰め、協力企業などの声掛けをし、実施に向けて行動する。
- ⑦ 参考モデル

【レキシ】(歴史をテーマにした音楽アーティスト)

日本の歴史を主題とした楽曲を扱う「歴史縛りファンクネスバンド。レキシ」の池田貴文は、椎名林檎、私立恵比寿中学、やついいちろうなどのプロデューサー、怒髪天、SAKEROCK、星野源、サンボマスターなどでサポート・キーボーディストとして参加、「タモリ倶楽部」、池田がサウンドロゴも制作した CM「マルちゃん麺づくり」への出演や、現在はフジテレビ「アフロの変」のメイン MC を務めるなど、多方面で活躍中。

2015 年 6 月 13 日から公開された是枝裕和監督作品「海街 diary」では、役者としても初出演を果している。

事業化の展開例

- ① 事業名 : あやめまつり活性化プロジェクト
- ② 想定関連団体 : 実行委員会、観光関連団体、民間企業、住民、行政
- ③ 事業目的 : 本市を代表するイベントとして育てているあやめまつりへの集客力を更に大きくするためにイベントリニューアルを実施する。
- ④ 達成目標 : 来場客数の最大化
- ⑤ 事業内容 : 本市の観光集客において、「あやめまつり」は大きい集客要素となっているため、伸長する方向で進める。現在のあやめまつりは、イベントの始めと終わりに催し物が集中しており、開催期間中に実施しているイベントが少なくなっている。開催期間中は、「食」のキーワードを訴求し、出店などをイベント期間中出す事で、期間中集客を見込む。また、以前に行っていた「薪能」をあやめと掛け合わせて実施することで相乗効果を生み出す。
- ⑥ 進行方法 : 短期的に現在実施しているイベント内容を考え直すためのプロジェクトチームを立ち上げ、あやめまつりをより良くするための話し合いを実施する。その後、企画を詰め、協力企業などの声掛けし、実施に向けて行動する。

⑦ 参考モデル

【あじさい祭り】(山口県柳井市)

山口県の菓子企業が毎年開催しているイベント。100種、2万株のあじさいを見るために人口3万人の都市に毎年人口以上の観光客が訪れている。

あじさい鑑賞の他に、あじさいフォトコンテストやスイーツバイキングの開催などお客様が楽しめるイベントを展開している。

事業化の展開例

- ① 事業名 : 万葉まつり活性化プロジェクト
- ② 想定関連団体 : 実行委員会、観光関連団体、民間企業、住民、行政
- ③ 事業目的 : 本市の歴史文化を象徴する万葉まつりをより魅力的なイベントとして知名度を上げる。
- ④ 達成目標 : 来場客数の最大化
- ⑤ 事業内容 : もっと一般の方も衣装を楽しんでいただけるように、フォトコンテストと衣装の着付けを実施し、開催期間中も実施するようにして、継続的な集客を促す。「観る」だけではなく、「参加する」という要素を強くした万葉まつりとする事で集客力を伸ばす。
- ⑥ 進行方法 : 短期的に現在実施しているイベント内容を考え直すためのプロジェクトチームを立ち上げ、万葉まつりをより良くするための話し合いを実施する。その後、企画を詰め、協力企業などの声掛けし、実施に向けて行動する。

⑦ 参考モデル

【着物ウィーク in 萩】(山口県萩市)

山口県萩市は、江戸時代の地図で現代のまちを歩くことができる土地である。萩で着物を着てまちをそぞろ歩くことができたら素敵ではないかという発想から、着物レンタルなどを実施している。また、着物を着た人とまち並みをテーマとしたフォトコンテストも実施している。そのフォトコンテストでグランプリになった作品を翌年のイベントのポスターとして使用している。

事業化の展開例

- ① 事業名 : 期間限定の空間活用プロジェクト「場遊び」
- ② 想定関連団体 : 観光関連団体、民間企業、行政
- ③ 場所 : 本市内で田園の広がるエリア
- ④ 事業目的 : 普段利用していない「場」を活用し、期間限定のカフェやレストランをオープンさせ、新しい人の流れを造りだす。
- ⑤ 達成目標 : ー
- ⑥ 事業内容 : 青々とした古代米田園の真ん中に特設ステージを組んで期間限定の「田園カフェ」を展開する。そこで、古代米を使用し軽食を提供し、古代米を存分に感じていただく。
- ⑦ 進行方法 : 多賀城市らしさを感じることが出来る「場」を探し出し、その場を「ごちそう」として提供できる方法を考える。実施事項が決定したら、スケジュール化と担当を決めて実施に向けて動き出す。
- ⑧ 参考モデル
【スノーフィールドカフェ】(北海道幕別町)
冬の北海道に期間限定の仮説空間を作り、そこで料理を提供したのが「スノーフィールドカフェ」である。雪原にビニールハウスを建て、そこで完全予約制のフレンチコースを提供している。

事業化の展開例

- ① 事業名 : 道の駅開発準備プロジェクト
- ② 想定関連団体 : 観光関連団体、民間企業、行政、J A、生産者
- ③ 事業目的 : 将来的に本市の情報発信拠点として道の駅整備の可否を検討する。
- ④ 達成目標 : 道の駅プロジェクト企画完成
- ⑤ 事業内容 : 成功する道の駅を開発するための調査、視察等を実施し、本市で道の駅を整備するとした場合の方向付けを行う。
- ⑥ 進行方法 : モデルとなる道の駅を視察・調査し、成功要因を分析する。その後、本市で成功要件を満たすソフト・ハード面の整備を行い、実際にどのような業態展開が可能か検討する。
- ⑦ 参考モデル

【川場田園プラザ】(栃木県川場村)

道の駅川場田園プラザは、群馬県利根郡川場村の群馬県道 64 号平川横塚線上にある道の駅である。通称「田プラ (でんぷら)」。平成 27 年度全国モデル道の駅に選定された。

関東好きな道の駅第 1 位に選ばれている。毎年 11 月頃に祭りが開催され、それに併せて全国各地からクラシックカーが集まる。創意工夫で進化を遂げ、年間 120 万人が訪れている。

■道の駅展開パターンの類型

| 類型 | 単独複合施設型 | 施設点在（ヴィレッジ型） | 既存商店街観光型 |
|-------|--|--|--|
| 特徴 | 一施設内に、直売所や土産店・飲食等の機能が集約するタイプの施設。道の駅・観光商業施設にはこのタイプが多い。 | 2,500㎡～33,000㎡といった広大な敷地面積の中に、複数施設と散策路を設け、敷地の中の回遊性を高めた施設。 | 既存の商店街の中を回遊しながら観光するタイプ。複数の企業・店舗が共同で開発するケースが多い。 |
| メリット | <ul style="list-style-type: none"> ・比較的狭い敷地面積でも展開が可能。 ・集客が天候に左右されにくい。 ・核となる店舗をつくりやすい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・買い物だけではなく、自然の中で時間を過ごしたいといった需要にも応えられる。 ・敷地内を回遊することで滞在時間が長くなり、集客力が高まり、商圈が拡大する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・回遊性が高く滞在時間が長い場合、集客力も高い。 ・複数企業での共同開発がしやすい。 ・車だけでなく、駅からの誘引も可能。 |
| デメリット | <ul style="list-style-type: none"> ・回遊性が低いため、滞在時間を長くするための体験等の機能が必要となる。 ・核となる店舗・商品が無いと商業施設として集客力を持たないものになってしまう。 | <ul style="list-style-type: none"> ・広い敷地面積を必要とする。 ・造成費等、整備にかかる費用が大きい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・駐車場の確保を別に考える必要がある。 ・核となる施設（店舗）がつくりにくい。 ・中心コンセプトが無いとバラバラな印象を与えてしまうこととなる。 |
| 展開例 |  <p>あ・ら・伊達な道の駅(宮城県大崎市)</p> |  <p>魚沼の里 (新潟県南魚沼市)</p> |  <p>いーはとーぶアベニュー材木町 (岩手県盛岡市)</p> |

事業化の展開例

- ① 事業名 : 花でまちおこしプロジェクト
- ② 想定関連団体 : 民間企業、生産者、住民
- ③ 事業目的 : 集客力が強い花を活用し、本市のイメージアップと集客を見込む。
- ④ 達成目標 : 本市が花であふれた場所になる。
- ⑤ 事業内容 : 「花のあるまち多賀城」という言葉をキャッチコピーにして、各家庭で花がある豊かな暮らしをしていることを文化として根付かせていく。そのために、花に親しんでいただけるイベントを開催する。「花いっぱいマーケット」では、家庭用の小鉢花や種子を多く販売し、花にまつわるワークショップ、エディブルフラワーの料理教室など花がある暮らしを啓蒙する。
- ⑥ 進行方法 : プロジェクトチームを立ち上げ、イベント実施の話し合いを実施する。その後、企画を詰め、協力企業などの声掛けをし、実施に向けて行動する。

⑦ 参考モデル

【ふかや花フェスタ&オープンガーデンフェスタ】(埼玉県深谷市)

花とガーデニングをテーマとして、フラワーミニステージでの展示やガーデニング教室を行っている。また、深谷市では秋に「ゆりサミット」というイベントも行っているので、春に開催している本イベントでは、そのPRも込めて、「ゆりタワー」というイベントも実施している。その他、軽トラの荷台をガーデンにして展示する「軽トラガーデン」、一般家庭の庭を開放する「オープンガーデン」、「ガーデニングコンテスト」などユニークなイベントを開催している。2015年は2日間の開催で来場者数75,000人。

事業化の展開例

- ① 事業名 : 多賀城跡周辺活用プロジェクト
- ② 想定関連団体 : 観光関連団体、民間企業、行政
- ③ 事業目的 : 本市のシンボルとも言える多賀城跡にもっと人が訪れるようにする。
- ④ 達成目標 : 多賀城跡の認知度を上げる。
- ⑤ 事業内容 : 多賀城跡は、本市にとって非常に重要な場所である。
そのため、もっと多くの人を訪れ、歴史に耳を澄ましていただきたい。期間限定で良いので、春から夏にかけて仮設のカフェを設置し、眺めの良い多賀城跡で時間を過ごす施策を検討する。
また、仮設カフェにて、歴史講座などの青空教室も開催する。将来的には、南門を復元し、集客の核とする。
- ⑥ 進行方法 : 多賀城跡の規制緩和を第一ステップとし、柔軟に対応できる体制を作ってからまずは多賀城跡でのイベント開催から始め、その次のステップで期間限定の店舗を展開する。

本調査研究のまとめの言葉として

宮城大学事業構想学部 宮原育子

平成27年7月に始まった本委員会は、多賀城市内で長年観光やまちづくりに取り組んで来られた住民の委員の熱い思いと、本調査研究にける期待の大きさを感ずる委員会となった。こうした思いを少しでも調査研究に取り込むため、10月からは検討部会を立ち上げ、よりきめ細かい、具体的なご意見をいただきながら、2月の第3回委員会を経て、今回このような報告書を作成することができた。

今回の調査研究の結果から、これからの多賀城市の観光推進の成功の鍵は、「見えるもの」と「触れられるもの」をどれだけ作っていくかということだと感じた。「触れられる」というのは、「体験」と置き換えられる。

多賀城市の観光資源の強みは文化財の豊かさであるが、これが一方で弱みともなっている。市内は奈良時代からの貴重な文化財に恵まれているものの、埋蔵文化財も多く、文字どおり宝が埋もれている状態である。歴史的資源が豊富に存在するにもかかわらず、人々には見えないという、とても象徴的な場所であると言える。

それゆえ、多賀城市は日本や東北の歴史にとって大変重要な地域であるにも関わらず、観光では来訪者にそのことを十分に伝えることができるようになっておらず、多賀城市の観光行政や住民にも、規制が多い市域での観光推進に対する歯がゆい思いがあったと推察する。「特別史跡多賀城跡」という素晴らしい遺産に恵まれている市として、今後も多賀城市や住民の皆さんが様々な色々な知恵を出し合いながら、多賀城市の歴史が見えるようにしていくか、体験できるようなことを作っていくか、という事を考えていってほしい。例えば、埋蔵された文化財がある場所は、周囲に様々な種類の花や植物の植栽をし、遺跡の種類や年代によって花の種類や色を変えて、観光客が史跡巡りをする時にひと目で分かるようにするなど、そういう形での「見える化」の工夫は考えられると思う。また、奈良時代の都のイメージを高めるために、奈良公園のように鹿を放す場所を設置すれば、近隣市町村の子供も鹿を見に来るかもしれない。

今回の報告書では、歴史・文化分野でのお祭りやイベントなどのブラッシュアップ、また加瀬沼の自然環境を活用する提案も盛り込まれたのでぜひ実現してほしい。観光による経済活性化の側面では、将来観光商業施設（道の駅・物産館等）を具体化する過程で、多賀城市らしい歴史が見える商品開発や「歴史を食べる」という体験を創りだす取り組みも考えられるのではないだろうか。今後は、観光の様々なシーンで多賀城市の特徴が分かりやすい表現を、官民が

協力しながら進めていくことが重要だと考える。

多賀城市内の様々な企業と協力しての産業観光のプログラムづくりも、見える・触れる観光ということでは、多賀城市ならではの強みになると考えている。また、委員会の中でご提案いただいた、バーベキューなどの新しい楽しみ方が多賀城市にできる事も、住民と観光客双方にとっての大きな観光アピールになると予想される。

長らく住民団体の皆さんが多賀城市に対して提案されてきた事柄は、住民として観光の弱みを感じてきたからこそ出されたものであり、多賀城市としてもそれらの提案の実現の方向を探っていくことが、今後の観光の推進では重要なことだと考える。無理のない範囲で「見える化」を実現して、立派な提案と観光客のシンプルな欲求（分かりやすさや楽しさ）とをどう組み合わせしていくかが、これからの多賀城市と住民団体の皆さんの挑戦となろう。

この調査研究の成果が、多賀城市の観光行政と住民団体の活動とを結び、ともに市の観光推進に向けて動くための道しるべとなることを願っている。

資料編

多賀城市観光推進プロジェクトに関する市民アンケート調査

ご協力をお願い

日頃から市政にご協力いただき、厚くお礼申し上げます。

多賀城市においては、少子高齢化の進行等に加え、東日本大震災により甚大な被害を被ったことによる人や企業の流出等が重なり、地域の活力の低下への対応が緊急の課題となっており、震災から4年余が経過し、これまで重点的に取り組んできた復旧・復興事業に加え、地域の活性化に資する施策に取り組むことが求められています。

本調査は、本市がさらに住んで良く、訪れて良いまちとなるために、市民の皆様には本市のイメージや、活用可能な地域の資源などについてお尋ねし、多賀城ならではの魅力を活かした観光推進プロジェクトを検討する際の基礎的な資料にしていきたいと考えております。

本調査の対象として、平成27年8月1日現在、本市にお住まいの20歳以上の方を無作為に2,000人選ばせていただいたところ、あなたにご回答をお願いすることになりました。お答えいただいた内容は全て統計的に処理し、個人情報を含め、他の目的には一切使用いたしません。

ご多忙のところ大変恐縮に存じますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成27年9月

多賀城市

<ご記入にあたってのお願い>

- あて名となっているご本人のお考えや日常の行動についてお答えください。
- 問1から順にお読みいただき、あてはまる選択肢の番号などに○をつけてください。設問によって回答が「1つ」、「複数回答可」などと、○をつける数が異なりますのでご注意ください。(回答例：1 男性)
- 「その他」あるいは自由回答欄へのご記入は、なるべく具体的にその内容をご記入ください。
- ご回答いただきましたアンケートは、同封の返信用封筒に入れて、無記名のまま切手を貼らずに、9月30日(水)までに、投函してください。

調査についてのお問い合わせは下記までお願いいたします。

多賀城市 市民経済部商工観光課 担当：松戸(まつど) 阿部(あべ)

TEL：022-368-1141(内線471) FAX：022-368-9069

E-mail：kanko@city.tagajo.miyagi.jp

問1 あなたご自身のことについておたずねします。

①あなたの性別は。(1つに○)

| | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

②あなたの職業は。(1つに○)

| | | |
|--------------------|---------------------|--------------|
| 1. 農林業(専業又は農林業が主体) | 2. 会社員(公務員・団体職員を含む) | |
| 3. 商・工・サービスの自営業 | 4. 学生 | 5. パート、アルバイト |
| 6. 家事専業 | 7. 無職 | 8. その他() |

③あなたの年齢は。(1つに○)

| | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1. 20～29歳 | 2. 30～39歳 | 3. 40～49歳 | 4. 50～59歳 |
| 5. 60～69歳 | 6. 70歳以上 | | |

④あなたのお住まいは。(該当するもの1つに○)

| | |
|------------------------|---------------------------------|
| 1. 新田一区、新田二区、新田三区 | 8. 鶴ヶ谷、丸山、黒石崎 |
| 2. 高橋東一区、高橋東二区、高橋南、高橋北 | 9. 下馬東、下馬西、下馬南、下馬北 |
| 3. 山王、南宮 | 10. 笠神東、笠神西 |
| 4. 市川、浮島、城南 | 11. 大代東、大代中、大代西、大代南、大代北 |
| 5. 高崎、東田中、志引、東田中南 | 12. 桜木東、桜木中、桜木南、桜木北 |
| 6. 新田中、旭ヶ岡、留ヶ谷 | 13. 八幡上一、八幡上二、八幡下一、八幡下二、 八幡沖 |
| 7. 伝上山、隅田、向山、東能ヶ田、西能ヶ田 | |

⑤あなたは多賀城市にどのくらい住んでいますか。(1つに○)

| | | |
|--------------|---------------|-------------|
| 1. 1年未満 | 2. 1年以上4年未満 | 3. 4年以上5年未満 |
| 4. 5年以上10年未満 | 5. 10年以上20年未満 | 6. 20年以上 |

問2 多賀城市の観光資源についておたずねします。

① 多賀城市について、どんなイメージをお持ちですか。(それぞれ1つに○)

| イメージ | 低い | | 普通 | | 高い |
|--------------------|----|---|----|---|----|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 1. 自然が豊か | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. 農業がさかん | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3. 商工業がさかん | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4. 景色がきれい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5. 街並みがきれい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6. 歴史(史跡)がある | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 7. グルメが豊富 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 8. 昔ながらの伝統文化が残っている | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 9. 社寺仏閣が残っている | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 10. レジャー・スポーツが楽しめる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 11. 芸術が楽しめる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 12. イベント・お祭りがさかん | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

② 多賀城市の観光協会ホームページ等で紹介されている以下のスポットで、あなたが行ったことのある場所全てにチェックをつけてください。(複数回答可)

| | | |
|------------------------------------|--|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 加瀬沼周辺 | <input type="checkbox"/> 高崎遺跡 | <input type="checkbox"/> 荒脛巾神社 |
| <input type="checkbox"/> 塩釜街道 | <input type="checkbox"/> 大代横穴墓群 | <input type="checkbox"/> 陸奥総社宮 |
| <input type="checkbox"/> 山王・南宮板倉 | <input type="checkbox"/> 柏木遺跡 | <input type="checkbox"/> 浮島神社 |
| <input type="checkbox"/> あやめ園 | <input type="checkbox"/> 館前遺跡 | <input type="checkbox"/> 八幡神社 |
| <input type="checkbox"/> さざんかの森 | <input type="checkbox"/> 山王遺跡 | <input type="checkbox"/> 多賀城神社 |
| <input type="checkbox"/> 六月坂(桜) | <input type="checkbox"/> 榊形冨貝塚 | <input type="checkbox"/> 多賀神社(高崎) |
| <input type="checkbox"/> 多賀城跡(政庁跡) | <input type="checkbox"/> 貞山運河 | <input type="checkbox"/> 多賀神社(市川) |
| <input type="checkbox"/> 多賀城碑(壺碑) | <input type="checkbox"/> 外郭東門跡 | <input type="checkbox"/> 柏木神社 |
| <input type="checkbox"/> 多賀城廃寺跡 | <input type="checkbox"/> 市川橋遺跡 | <input type="checkbox"/> 喜太郎神社 |
| <input type="checkbox"/> 野田の玉川 | <input type="checkbox"/> 東北歴史博物館 | <input type="checkbox"/> 貴船神社 |
| <input type="checkbox"/> 末の松山 | <input type="checkbox"/> 文化センター(埋蔵文化財調査センター) | <input type="checkbox"/> 南宮神社 |
| <input type="checkbox"/> 沖の井(興井) | <input type="checkbox"/> 史遊館(埋蔵文化財調査センター体験館) | <input type="checkbox"/> 日吉神社 |
| <input type="checkbox"/> おもわくの橋 | | <input type="checkbox"/> その他() |

③ 以下の祭り・イベント全てについて、知っている、参加したことがある、知らない、いずれかに○をつけてお答えください。

| | 見に行ったことがある | 知っているが見に行ったことはない | 知らない |
|---------------------|------------|------------------|------|
| 多賀城跡あやめまつり | | | |
| 市民市 | | | |
| 多賀城ビアサミット | | | |
| 多賀城なべまつり | | | |
| 「壺の碑」全国俳句大会 | | | |
| 市民夏祭り(ザ・祭り) | | | |
| 悠久の詩都の灯り(イルミネーション) | | | |
| 多賀城フェスティバル(月の市) | | | |
| 野田の玉川あんどんまつり | | | |
| 史都多賀城万葉まつり | | | |
| その他参加したことがあるイベント() | | | |

問3 誇りや自慢に思っている地域の宝や特産物をおたずねします。

親戚や友人に、とっておきの名物、観光スポットを紹介する場合などを想定してお答えください。

① 多賀城市内で来客をもてなすとしたらどこに連れて行きますか？

食べる、お土産を買う、歴史を感じる、遊ぶ、というときに多賀城市内で連れて行きたい場所を教えてください。(複数回答可)

| | |
|-------------------|--|
| 食べる | |
| お土産を買う | |
| 歴史を感じる | |
| 遊ぶ (体験・イベント含む) | |

② あなたの知っている多賀城市内のベストスポット（おすすめの場所）を教えてください。(複数回答可)

| |
|-------------------|
| 例) 緩衝緑地帯から見る工場の夜景 |
| |
| |
| |

③ あなたの知る、地域の昔ながらの習慣、珍しい習慣、伝統的な文化や伝統的な風習・行事がありましたら教えてください。(複数回答可)

| |
|--|
| |
| |
| |
| |

問4 これからの集客に必要なものについておたずねします。

① 集客のために多賀城市にこんなものがあったら良いというものを教えてください。

多賀城市に人が集まるために、また来客を案内する際に、こんなものがあったり、今よりさらに充実していると良いのではないかと思うものがありましたら以下より選択してください。(複数回答可)

| | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 道の駅・物産館 | <input type="checkbox"/> ライブハウス |
| <input type="checkbox"/> パウダールーム、ソファなど設備が充実したトイレ | <input type="checkbox"/> 多賀城名物(お土産、ここでしか食べられない物) |
| <input type="checkbox"/> 映画館 | <input type="checkbox"/> お花畑 |
| <input type="checkbox"/> キャンプ場 | <input type="checkbox"/> 農産物直売所 |
| <input type="checkbox"/> スポーツ施設 | <input type="checkbox"/> カフェ |
| <input type="checkbox"/> 旅館・ホテル | <input type="checkbox"/> 飲食店街 |
| <input type="checkbox"/> ショッピングモール | <input type="checkbox"/> 多賀城市を象徴するようなシンボリックなもの |
| <input type="checkbox"/> 日帰り温泉(スーパー銭湯) | <input type="checkbox"/> その他() |

② ①で「道の駅・物産館」を選択した方にお伺いします。

道の駅や物産館のような新しい集客施設を設置するとしたら、どのような機能やサービスがあったら良いですか。(複数回答可)

| | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 農産物直売所・農産物加工所 | <input type="checkbox"/> 防災の拠点(非常用水や災害資材の備蓄等) |
| <input type="checkbox"/> スーパー、コンビニ等 | <input type="checkbox"/> 多賀城市の名産品販売(お土産・限定グッズ等) |
| <input type="checkbox"/> 入浴関連施設 | <input type="checkbox"/> 市外の名産品販売(各地のブランド商品) |
| <input type="checkbox"/> 役所の出先機関 | <input type="checkbox"/> 体験機能(製造体験や各種の体験教室等) |
| <input type="checkbox"/> 交流活動拠点(集会、イベント開催等) | <input type="checkbox"/> 各種情報提供(観光や道路状況以外の情報) |
| <input type="checkbox"/> 子供向け施設(キッズルーム等) | <input type="checkbox"/> リフレッシュサービス(マッサージ、仮眠施設等) |
| <input type="checkbox"/> 飲食店舗 | <input type="checkbox"/> 長い営業時間(休日営業含む) |
| <input type="checkbox"/> 金融機関のATM | <input type="checkbox"/> ガソリンスタンド、電気自動車充電スタンド、水素ステーション |
| <input type="checkbox"/> ペット関連施設(ドッグラン等) | <input type="checkbox"/> その他() |
| <input type="checkbox"/> 観光コンシェルジュ(おすすめプランの提供や予約の手配等) | |

③ ①で「道の駅・物産館」を選択しなかった方にお伺いします。

道の駅・物産館のような新しい集客施設があったら良いとは考えなかった理由を教えてください。(複数回答可)

| | |
|--|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 現状で満足 | <input type="checkbox"/> 多額の建設費用が掛かる |
| <input type="checkbox"/> 集客や収益が十分見込めるか疑問 | <input type="checkbox"/> その他() |

問5 日常生活行動について教えてください。

① 常生活では、主にどちらに行きますか。(それぞれ1つに○)

| 生活行動 | | 主な行き先 | | | | | | |
|--------|--------------------------|------------|-----------|-----------|-----------|------------|-----------|-----------|
| 買い物 | 最寄品 ※野菜・肉・日用品など | 1. 多賀城市 | 2. 仙台市 | 3. 塩竈市 | 4. 松島町 | 5. 七ヶ浜町 | 6. 利府町 | 7. その他 |
| | 買回り品 ※家具・電化製品など | 1. 多賀城市 | 2. 仙台市 | 3. 塩竈市 | 4. 松島町 | 5. 七ヶ浜町 | 6. 利府町 | 7. その他 |
| | 専門品 ※高級ブランド・時計など | 1. 多賀城市 | 2. 仙台市 | 3. 塩竈市 | 4. 松島町 | 5. 七ヶ浜町 | 6. 利府町 | 7. その他 |
| 飲食(外食) | 日常的な(家族との)外食 | 1. 多賀城市 | 2. 仙台市 | 3. 塩竈市 | 4. 松島町 | 5. 七ヶ浜町 | 6. 利府町 | 7. その他 |
| | 記念日など特別な食事 | 1. 多賀城市 | 2. 仙台市 | 3. 塩竈市 | 4. 松島町 | 5. 七ヶ浜町 | 6. 利府町 | 7. その他 |
| 余暇 | 家族・友人との の娯楽・遊び | 1. 多賀城市 | 2. 仙台市 | 3. 塩竈市 | 4. 松島町 | 5. 七ヶ浜町 | 6. 利府町 | 7. その他 |
| | 趣味・自己啓発 ※習い事、スポーツ、など | 1. 多賀城市 | 2. 仙台市 | 3. 塩竈市 | 4. 松島町 | 5. 七ヶ浜町 | 6. 利府町 | 7. その他 |
| | 県外からの来訪者を案内・接待 ※観光地など | 1. 多賀城市 | 2. 仙台市 | 3. 塩竈市 | 4. 松島町 | 5. 七ヶ浜町 | 6. 利府町 | 7. その他 |

② あなたは、県外に行ったとき出身を尋ねられたら、どのように返答しますか。(1つに○)

| | | | |
|---------|-----------|--------|-----------|
| 1. 多賀城市 | 2. 仙台(の方) | 3. 宮城県 | 4. その他() |
|---------|-----------|--------|-----------|

問6 最後に、多賀城市のイメージ向上や観光推進について、ご意見やアイデアを自由にお書き下さい。

| |
|--|
| |
|--|

ご協力、ありがとうございました。

仙台市及び周辺自治体住民意向調査票

問1 あなたご自身のことについておたずねします。

① あなたの性別は。(1つに○)

| | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

② あなたの職業は。(1つに○)

| | | |
|-----------------------------|---------------------|--------------|
| 1. 農林水産業 (専業または農林水産業が主体) | 2. 会社員(公務員・団体職員を含む) | |
| 3. 商・工・サービスの自営業 | 4. 学生 | 5. パート、アルバイト |
| 6. 家事専業 | 7. 無職 | 8. その他() |

③ あなたの年齢は。(1つに○)

| | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1. 20～29歳 | 2. 30～39歳 | 3. 40～49歳 |
| 4. 50～59歳 | 5. 60～69歳 | 6. 70歳以上 |

④ あなたのお住まいは。(該当するもの1つに○)

| | | | | |
|---------------|--------------|----------------|---------------|---------------|
| 1. 仙台市 青葉区 | 2. 仙台市 泉区 | 3. 仙台市 宮城野区 | 4. 仙台市 若林区 | 5. 仙台市 太白区 |
| 6. 塩竈市 | 7. 東松島市 | 8. 松島町 | 9. 七ヶ浜町 | 10. 利府町 |
| 11. その他() | | | | |

⑤ あなたは④にどのくらい住んでいますか。(1つに○)

| | | |
|--------------|---------------|-------------|
| 1. 1年未満 | 2. 1年以上4年未満 | 3. 4年以上5年未満 |
| 4. 5年以上10年未満 | 5. 10年以上20年未満 | 6. 20年以上 |

問2 多賀城市についておたずねします。

① 多賀城市について、どんなイメージをお持ちですか。(それぞれ1つに○)

| イメージ | 低い | | 普通 | | 高い |
|--------------------|----|---|----|---|----|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 1. 自然が豊か | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. 農業がさかん | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3. 商工業がさかん | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4. 景色がきれい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5. 街並みがきれい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6. 歴史(史跡)がある | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 7. グルメが豊富 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 8. 昔ながらの伝統文化が残っている | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 9. 社寺仏閣が残っている | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 10. レジャー・スポーツが楽しめる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 11. 芸術が楽しめる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 12. イベント・お祭りがさかん | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

② 多賀城市の観光協会ホームページ等で紹介されている以下のスポットで、あなたが行ったことのある場所全てにチェックをつけてください。(複数回答可)

| | | |
|------------------------------------|--|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 加瀬沼周辺 | <input type="checkbox"/> 高崎遺跡 | <input type="checkbox"/> 荒脛巾神社 |
| <input type="checkbox"/> 塩釜街道 | <input type="checkbox"/> 大代横穴墓群 | <input type="checkbox"/> 陸奥総社宮 |
| <input type="checkbox"/> 山王・南宮板倉 | <input type="checkbox"/> 柏木遺跡 | <input type="checkbox"/> 浮島神社 |
| <input type="checkbox"/> あやめ園 | <input type="checkbox"/> 館前遺跡 | <input type="checkbox"/> 八幡神社 |
| <input type="checkbox"/> さざんかの森 | <input type="checkbox"/> 山王遺跡 | <input type="checkbox"/> 多賀城神社 |
| <input type="checkbox"/> 六月坂(桜) | <input type="checkbox"/> 榊形囲貝塚 | <input type="checkbox"/> 多賀神社(高崎) |
| <input type="checkbox"/> 多賀城跡(政庁跡) | <input type="checkbox"/> 貞山運河 | <input type="checkbox"/> 多賀神社(市川) |
| <input type="checkbox"/> 多賀城碑(壺碑) | <input type="checkbox"/> 外郭東門跡 | <input type="checkbox"/> 柏木神社 |
| <input type="checkbox"/> 多賀城廃寺跡 | <input type="checkbox"/> 市川橋遺跡 | <input type="checkbox"/> 喜太郎神社 |
| <input type="checkbox"/> 野田の玉川 | <input type="checkbox"/> 東北歴史博物館 | <input type="checkbox"/> 貴船神社 |
| <input type="checkbox"/> 末の松山 | <input type="checkbox"/> 文化センター(埋蔵文化財調査センター) | <input type="checkbox"/> 南宮神社 |
| <input type="checkbox"/> 沖の井(興井) | <input type="checkbox"/> 史遊館(埋蔵文化財調査センター体験館) | <input type="checkbox"/> 日吉神社 |
| <input type="checkbox"/> おもわくの橋 | | <input type="checkbox"/> その他() |

③ 以下の祭り・イベント全てについて、知っている、参加したことがある、知らない、いずれかに○をつけてお答えください。

| | 見に行ったことがある | 知っているが見に行ったことはない | 知らない |
|---------------------|------------|------------------|------|
| 多賀城跡あやめまつり | | | |
| 住民市 | | | |
| 多賀城ビアサミット | | | |
| 多賀城なべまつり | | | |
| 「壺の碑」全国俳句大会 | | | |
| 住民夏祭り(ザ・祭り) | | | |
| 悠久の詩都の灯り(イルミネーション) | | | |
| 多賀城フェスティバル(月の市) | | | |
| 野田の玉川あんどんまつり | | | |
| 史都多賀城万葉まつり | | | |
| その他参加したことがあるイベント() | | | |

問3 この地域全体(仙台市、多賀城市、塩竈市、東松島市、松島町、七ヶ浜町、利府町)についておたずねします。

① 仙台方面から松島・塩竈方面、あるいは松島・塩竈方面から仙台方面に行くときは、どのようなルートを通ることが多いですか。また、途中立ち寄ることが多い場所があれば教えてください。(複数選択可)

(例) 仙台駅から仙石線で松島海岸駅に行くか本塩釜駅に行く。
一般道路(国道45号)で行く、途中コンビニに寄る。

② 道の駅や物産館にどのような機能やサービスがあったら、寄り道してでも行ってみたいですか。(複数選択可)

| | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 農産物直売所・農産物加工所 | <input type="checkbox"/> 防災の拠点(非常用水や災害資材の備蓄等) |
| <input type="checkbox"/> スーパー、コンビニ等 | <input type="checkbox"/> 多賀城市の名産品販売(お土産・限定グッズ等) |
| <input type="checkbox"/> 入浴関連施設 | <input type="checkbox"/> 市外の名産品販売(各地のブランド商品) |
| <input type="checkbox"/> 役所の出先機関 | <input type="checkbox"/> 体験機能(製造体験や各種の体験教室等) |
| <input type="checkbox"/> 交流活動拠点(集会、イベント開催等) | <input type="checkbox"/> 各種情報提供(観光や道路状況以外の情報) |
| <input type="checkbox"/> 子供向け施設(キッズルーム等) | <input type="checkbox"/> リフレッシュサービス(マッサージ、仮眠施設等) |
| <input type="checkbox"/> 飲食店舗 | <input type="checkbox"/> 長い営業時間(休日営業含む) |
| <input type="checkbox"/> 金融機関のATM | <input type="checkbox"/> ガソリンスタンド、電気自動車充電スタンド、水素ステーション |
| <input type="checkbox"/> ペット関連施設(ドッグラン等) | <input type="checkbox"/> その他() |
| <input type="checkbox"/> 観光コンシェルジュ(おすすめプランの提供や予約の手配等) | |

③ 県外から来た来客に、この地域(仙台市、多賀城市、塩竈市、東松島市、松島町、七ヶ浜町、利府町)の歴史文化に触れる場所に案内するとしたら、どこに案内しますか。(複数選択可)

問4 最後に、多賀城市のイメージ向上や観光推進について、ご意見やアイデアを自由にお書き下さい。

| |
|--|
| |
| |
| |

ご協力、ありがとうございました。

多賀城市周辺観光地観光動向アンケート調査票

問1. 今回の旅行の観光目的は何ですか。具体的な項目を下の箱に記入してください。

※ 複数選択可

| | | | | |
|-------------|-------------|-----------------------|-------------|------------|
| 1. 買い物 | 2. 食 | 3. 温泉浴 | 4. 名所・旧跡を見る | 5. 自然風景を見る |
| 事・グルメ | | | | |
| 6. スポーツ・キャン | 7. 学習・体験 | 8. 動・植物園、水族館・博物館などの見物 | | |
| プ・野外散策 | | | | |
| 9. 祭り・イベント | 10. その他 () | | | |

問2. こちらへの来訪時に利用した主な交通機関に○印をご記入ください。

※ 1つだけ○

| | | | |
|------------------|---------|---------|------------|
| 1. JR等公共交通 機関 | 2. 自家用車 | 3. 観光バス | 4. その他 () |
|------------------|---------|---------|------------|

問3. 日帰りですか、宿泊ですか。 ※ 1つに○

| | |
|--------|-------|
| 1. 日帰り | 2. 宿泊 |
|--------|-------|



問4. 宿泊の方にお聞きします。どちらに宿泊しますか。 ※ 1つに○

| | | | | |
|--------|--------|--------|---------|------------|
| 1. 松島町 | 2. 仙台市 | 3. 塩竈市 | 4. 多賀城市 | 5. その他 () |
|--------|--------|--------|---------|------------|

問5. 今回の旅行で、こちら以外の別の所によりますか（よりましたか）。

※ 複数選択可

| | | | | |
|--------|--------|--------|---------|------------|
| 1. 松島町 | 2. 仙台市 | 3. 塩竈市 | 4. 多賀城市 | 5. その他 () |
|--------|--------|--------|---------|------------|

問6. 今回の旅行で、使う費用（これから使う予定も含めて）を教えてください。また、それは何人分の費用かご記入ください。

旅行費用 _____ 人分



※ 交通費は高速料金やガソリン代や駐車場代を含め記入

| | 使用費用 |
|------|------|
| ①交通費 | 円 |
| ②宿泊費 | 円 |
| ③土産代 | 円 |
| ④飲食費 | 円 |
| ⑤入場料 | 円 |
| ⑥その他 | 円 |

問7. あなたが観光地に求めるものは何ですか。 ※ 複数選択可

- | | | | | |
|-------------|-------------|-----------------------|-------------|------------|
| 1. 買い物 | 2. 食事・ | 3. 温泉浴 | 4. 名所・旧跡を見る | 5. 自然風景を見る |
| グルメ | | | | |
| 6. スポーツ・キャン | 7. 学習・体験 | 8. 動・植物園、水族館・博物館などの見物 | | |
| プ・野外散策 | | | | |
| 9. 祭り・イベント | 10. その他 () | | | |

問8. 多賀城市を知っていますか。 ※ 1つに○

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|



問9. 多賀城市を知っている方にお聞きします。

多賀城市で行ったことのある場所を教えてください。 ※ 複数選択可

- | | | | | |
|-------------------|------------|---------|---------|---------|
| 1. 加瀬沼公園 | 2. 東北歴史博物館 | 3. 多賀城跡 | 4. 貞山運河 | 5. あやめ園 |
| (政庁跡) | | | | |
| 6. 多賀城廃寺跡 | 7. その他 () | | | |
| 8. 知っているが行ったことはない | | | | |

問10. 多賀城市は仙台市と松島町の中間に位置する、奈良時代に政庁が置かれていた歴史のまちです。

あなたにとって、多賀城市に行ってみたいと思わせるものを教えてください。

※ 複数選択可

- | | | | | |
|---------------|--------------|------------|-----------|-------------|
| 1. 道の駅 | 2. 名産品・特産品 | 3. 飲食店 | 4. 入浴関連施設 | 5. 資料館・博物館・ |
| 美術館 | | | | |
| 6. 歴史的史跡・社寺仏閣 | 7. 体験施設・学習施設 | 8. 子ども向け施設 | | |
| 9. 住民農園 | 10. その他 () | | | |

問11. あなたの性別、年齢、職業、お住まいを選んでください。

※ それぞれ1つだけ○

- | | | | | | |
|------|-------------------|---------|------------------|----------|---------|
| 性別 | : 1. 男性 | 2. 女性 | | | |
| 年齢 | : 1. 10歳未満 | 2. 10歳代 | 3. 20歳代 | 4. 30歳代 | 5. 40歳代 |
| | 6. 50歳代 | 7. 60歳代 | 8. 70歳代 | 9. 80歳以上 | |
| 職業 | : 1. 学生 | 2. 社会人 | 3. 主婦 | 4. その他 | |
| お住まい | _____ 都道府県 _____ | | _____ 区市町村 _____ | | |
| | ※海外の場合(国名: _____) | | | | |

★アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

調査研究委員会名簿

多賀城市観光推進プロジェクト事業に関する調査研究
調査研究委員会名簿

| | | | |
|-----|------------|------------|-----------------------------|
| 委員長 | みやほら 宮原 | いくこ 育子 | 宮城大学事業構想学部教授 |
| 委員 | あずみ 安住 | まさゆき 政之 | 多賀城・七ヶ浜商工会会長 |
| | たぐち 田口 | としお 俊男 | 多賀城市観光協会会長 |
| | おおさき 大崎 | ひろゆき 博之 | 多賀城工場地帯連絡協議会会長 |
| | さいとう 齊藤 | ぐんき 軍記 | 国府多賀城観光推進協議会会長 |
| | みやぎ 宮城 | じゅん 順 | NPO ゲートシティ多賀城代表 |
| | かとう 加藤 | のりひろ 則博 | タウン・アクティベーション・プロジェクト多賀城代表代行 |
| | おおはし 大橋 | みつお 光雄 | 多賀城市史跡案内サークル会長 |
| | つがわ 津川 | のりあき 登昭 | 一般社団法人チガノウラカゼコミュニティ理事長 |
| | すずき 鈴木 | あつし 貴資 | 株式会社多賀城フラワー代表取締役 |
| | さとう 佐藤 | ひでなり 秀業 | 多賀城市市民経済部長 |
| | ふじた 藤田 | かずとよ 萬豊 | 一般財団法人地方自治研究機構常務理事 |

| | | | |
|-----|----|----|---------------------|
| 事務局 | 鈴木 | 良彦 | 多賀城市市民経済部商工観光課長 |
| | 松戸 | 幸二 | 多賀城市市民経済部商工観光課主幹 |
| | 阿部 | 千恵 | 多賀城市市民経済部商工観光課副主幹 |
| | 平林 | 正子 | 一般財団法人地方自治研究機構主任研究員 |
| | 谷口 | 仁美 | 一般財団法人地方自治研究機構研究員 |

基礎調査機関

| | | |
|-----|-----|-------------------------------|
| 葛西 | 孝太郎 | 株式会社S・Yワークス取締役総括本部長・経営コンサルタント |
| 篠田 | 大輔 | 株式会社S・Yワークスチームリーダー |
| 佐々木 | 由高 | 株式会社S・Yワークスチームリーダー |
| 島田 | 真希 | 株式会社S・Yワークス |
| 小笠原 | 康 | 株式会社S・Yワークス |

(順不同)

検討部会名簿

多賀城市観光推進プロジェクト事業に関する調査研究
検討部会名簿

| | | | |
|--------|------------|------------|-------------------------------|
| 部会長 | つがわ 津川 | のりあき 登昭 | 一般社団法人チガノウラカゼコミュニティ理事長 |
| 部会員 | あずみ 安住 | まさゆき 政之 | 多賀城・七ヶ浜商工会会長 |
| | たぐち 田口 | としお 俊男 | 多賀城市観光協会会長 |
| | おおさき 大崎 | ひろゆき 博之 | 多賀城工場地帯連絡協議会会長 |
| | さいとう 齊藤 | ぐんき 軍記 | 国府多賀城観光推進協議会会長 |
| | みやぎ 宮城 | じゅん 順 | NPO ゲートシティ多賀城代表 |
| | かとう 加藤 | のりひろ 則博 | タウン・アクティベーション・プロジェクト多賀城代表代行 |
| | おおはし 大橋 | みつお 光雄 | 多賀城市史跡案内サークル会長 |
| | すずき 鈴木 | あつし 貴資 | 株式会社多賀城フラワー代表取締役 |
| 事務局 | 鈴木 | 良彦 | 多賀城市市民経済部商工観光課長 |
| | 松戸 | 幸二 | 多賀城市市民経済部商工観光課主幹 |
| | 阿部 | 千恵 | 多賀城市市民経済部商工観光課副主幹 |
| | 平林 | 正子 | 一般財団法人地方自治研究機構主任研究員 |
| | 谷口 | 仁美 | 一般財団法人地方自治研究機構研究員 |
| 基礎調査機関 | 葛西 | 孝太郎 | 株式会社S・Yワークス取締役総括本部長・経営コンサルタント |
| | 篠田 | 大輔 | 株式会社S・Yワークスチームリーダー |
| | 佐々木 | 由高 | 株式会社S・Yワークスチームリーダー |
| | 小笠原 | 康 | 株式会社S・Yワークス |
| | 島田 | 真希 | 株式会社S・Yワークス |

(順不同)

多賀城市観光推進プロジェクト事業に関する調査研究

—平成 28 年 3 月発行—

多賀城市

〒985-8531

多賀城市中央2丁目1番1号

電話 022-368-1141(代表)

一般財団法人 地方自治研究機構

〒104-0061

東京都中央区銀座7-14-16 太陽銀座ビル2階

電話 03-5148-0661(代表)

